

ル後證據ノ不完全ヨリシテ復此附託ヲ禁スル所ノ法律ノ犯罪トシテ
訴ヲ受クル如キ是ナリ

第百五十八號 一〇〇テ執行スル〇〇決定〇第九十條ハ一個〇テ執行
スルノ決定ノ豫備ノ所爲ニ依テ顯然タルキハ之ヲ有罪トス然レモ此
條ハ當今施用ナキ第八十六條ニ記載スル所ノ重罪ヲ目的トシテ犯ス
ノ決定ニノミ適施スルモノナレハ之ヲ贅論セサル可シ

第百五十九號 暴害〇千八百五十三年六月十日ノ法ニ依テ改正シタ
ル所ノ第八十六條及ヒ第八十七條ハ四種ノ暴害ヲ列記セリ、即チ第一
皇帝及ヒ皇族ノ性命身體ニ對シタル暴害、第二政府ヲ顛覆又ハ變更ス
ルヲ目的トシタル暴害、第三皇嗣ノ順序ヲ紊亂又ハ變更スルヲ目的ト
シタル暴害、第四皇權ニ對シテ人民ニ兵器ヲ弄スルヲ挑唆スルヲ目的
トシタル暴害是ナリ以上四種ノ中三種ハ政體ノ變革ニ因テ廢止ニ屬

シ且現今實益ナキモノナリ何トナレハ我儕ハ第八十六條及ヒ第八十
七條ノ行政權長、大統領ニ適當スヘキヲ信セス又此二條ノ此官吏ノ性
命身體ヲ保護スルノ務ヲ有ス可キヲ信セカレハナリ而シテ此官吏ノ
保護ニ付テハ普通ノ法ヲ適施スルヲ以テ足レリトシ特別ノ刑ヲ置ク
ヲ要セサル可シ

第百六十號 刑法ニ記載アル暴害ニシテ當今猶ホ適施スルヲ得ヘキ
モノハ政府ヲ顛覆又ハ變更スルヲ目的トシタルモノ即チ憲法ニ定ム
ル所ノ政體ニ非サルモノヲ以テ現在ノ政體ニ代ントスルノ暴害ナリ
例ヘハ立君政治ヲ共和政ニ代ントスルモノ、如キ是ナリ是レ即チ執
行又ハ未遂犯ハ獨リ暴害ヲ構造スト記載スル所ノ第八十八條ヲ適施
スヘキ場合ニシテ全ク第二條ニ記載シタル未遂犯ノ要領ニ適當スル
モノナリ 千八百三十二年十月十三日ノ判決 故ニ左ノ効ヲ生ス、第一好意ヲ以テ企テ抛

天皇及ヒ皇族ニ對スル暴害及ヒ陰謀

棄セシキハ假令執行ノ端緒アリタル後ト雖モ未遂犯ノ罪ヲ構造セサルヲ何トナレハ第二條ハ自己ノ意ニ關セサル事情ニ由テ中止セシキニ非サレハ刑ヲ適施スルヲ欲セサレハナリ、第二未遂犯ハ執行ノ所爲ノ端緒アリタルキニ非サレハ成立セサルヲ、第三第八十八條ニ從テ執行トハ未遂犯ノ施行タルヲ是ナリ故ニ茲ニ云フ所ノ執行トハ暴害ノ着手、威力ヲ施スノ所爲ヲ云フモノニシテ此暴害威力ノ襲撃施行ハ其成就ナク又却テ被害者ノ爲メニ壓倒セラレ又ハ未遂犯者悉ク追散セラレシキト雖モ未遂犯ヲ構造スヘシ

第六十一號 從犯。○陰謀ノミニシテ未タ外面ニ發セサルノ際ニ於テハ之ニ加ハリシ者ハ之ヲ從犯者トセシテ皆共犯者ト看做ス何トナレハ凡テ陰謀トハ數人間ノ商議決定ヲ云フモノナレハナリ然レモ陰謀ノ外面ニ發シタル所爲アリタルキハ左ノ如ク之ヲ區別ス陰謀ヲ

ルヲ知リテ豫備ノ所爲ヲ助ケシ者ハ之ヲ從犯者ト看做ス然レモ陰謀タルヲ知ラスシテ犯罪ノ決定ニ加ハリシキハ陰謀ノ從犯者ニ非サルカ故ニ其共犯セシ實施ノ所爲ニ付テノミ其責ニ任ス故ニ暴害ノ豫備ニ付其密事ヲ聞知セスシテ此企ノ徒黨人ヨリ使役セラレシ者ハ無論訴ヲ受クルヲナシ刑法理論第四百九十九號參觀然レモ陰謀ノ商議決定ニ加ハリ執行ノ所爲ニ加ハラサリシ者ハ之ヲ從犯者ト看做スヘシ何トナレハ陰謀ハ素ヨリ暴害ノ豫備ノ所爲ニシテ第六十條ニ於テハ罪ヲ犯サンカ爲ニ教唆ヲナセシ者及ヒ豫備ノ所爲ニ付正犯者ヲ助ケシ者ハ之ヲ從犯者ノ中ニ列記スレハナリ而シテ此事柄ニ關シテ第六十條ノ適施ハ從犯構造ノ所爲ヲ列記スル所ノ同條ノ末尾ノ項ト相抵觸スルヲナシ即チ此項ニ附記シテ曰ク「國ノ内部又ハ外部ノ安寧ヲ害スヘキ陰謀又ハ暴害ノ挑唆ノ正犯者ニ對シテハ其目的トスル所ノ重罪ヲ行ハサリシ

キト雖モ格段ニ刑法中ニ記載シタル刑ト相抵觸スルコトナカル可シト
蓋シ此規則ノ目的タルヤ犯罪ノ決定即チ執行ナキ陰謀ノミチ罰スル
ニアリタリ

第六十二號 千八百三十四年五月二十四日ノ法○暴害ノ證據ハ陰
謀ノ證據ノ如ク屢之ヲ舉クルノ困難ナルコトアリ法律ハ人ノ達セント
欲スル所ノ目的ノ完全セシキハ政府ヲ顛覆又ハ變更スルノ暴害ノ性
質ヲ有スルモノトス故コ一揆ノ所爲ナルモ此所爲ト暴害トノ關係又
ハ其方法ト目的トノ關係ノ完全セサルキハ暴害ヲ構造セサルモノト
ス陰謀ニ付前ニ述ヘタル千八百三十四年五月二十四日ノ法ハ暴害(即
チ執行ノ數多ノ所爲)ヲ陰謀ト均シク各別ニ重罪トナスコト目的トセ
リ此所爲ハ同法ノ第五條ヨリ第九條迄ノ間ニ之ヲ記載セリ

第六十三號 千八百三十四年五月二十四日ノ法ニ記載スル所ノ罪

科ヲ處スルニ二原素アリ第一同法ニ禁スル所ノ所爲チ一揆ノ動亂中
ニ行ヒシチ要スルコト第二其所爲ハ罪ヲ犯スノ意思ヲ以テ行ヒシコト是
ナリ故ニ此法ヲ適施センコトハ以上ノ二原素ニ基カサルチ得サルナリ
○第五條ハ一揆ノ動亂中ニ公然若シハ陰然兵器又ハ糧食ヲ攜帶シ官
服又ハ其他武官若シハ文官ノ符標ヲ着用スル者ヲ禁獄ノ刑ニ處ス以
上ノ犯人ヲ訴ヘシコトハ只其動亂中ニ在リシノミチ證スルコト以テ足レ
リトセス必ス其動亂中ニ加ハルノ意思ヲ以テ動亂中ニ在リシコト證
セサルチ得ス然レモ其犯人ノ逮捕ノ際ニ於テ一揆中ニ在リテ兵器ヲ
攜帶セシチ要セス唯其一揆中ニ在リシノミチ以テ足レリトス又同條
ハ二箇ノ加重スヘキ情狀ヲ附記シテ曰ク「公然若シハ陰然兵器又ハ糧
食ヲ攜帶スル者ノ官服又ハ其他武官若シハ文官ノ符標ヲ着用スルキ
ハ之ヲ流刑ニ處シ又其兵器ヲ使用セシトハ之ヲ死刑ニ處ス」ト茲ニ云

フ所ノ符標トハ憲兵ノ官服ノ一部、邑吏又ハ警察官ノ帶是ナリ兵器ノ使用即チ人ヲ殺スノ企ヲ以テ其使用ヲナセシキハ固ト國事ヲ目的トシタル犯罪ナリト雖モ常罪ニ適スヘキ責ヲ脫離スル能ハサルモノトス故ニ此場合ニ於テハ暴害ニ適施スヘキ第八十七條ノ案内ノ流刑ヲ適施セスシテ死刑ヲ適施ス

第六十四號 同法ノ第六條ハ一揆ノ動亂中ニ暴行若クハ脅迫ニ因テ又ハ銀行、屯營、倉庫、砲兵工廠其他公舎ノ掠奪ニ依テ又ハ軍人警吏ヨリノ奪取ニ依テ兵器又ハ諸種ノ器具糧食ヲ占領セシ者ヲ徒刑ニ罰シタル上尙ホ之ニ二百「フラン」ヨリ少カラス三百「フラン」ヨリ多カラサルノ罰金ヲ宣告ス此罪ヲ構造センニハ犯人ノ一揆ノ動亂中ニ有リシト以上ニ述ヘタル暴行、掠奪、奪取ナル三方法中ノ一ニ依テ兵器又ハ器具糧食ヲ占領セシトノ二原素アルヲ要ス是レ即チ國事ヲ目的トス

ル所爲ノ外尙ホ竊盜又ハ掠奪ノ如キ常罪ノ所爲アリト看做ス所ノ第六條ノ文義ヨリ生スルモノナリ

第六十五號 第七條及ヒ第八條ハ執行ノ同所爲ニ付二箇ノ場合ヲ記載セリ私有家屋又ハ公有家屋ノ奪取是ナリ住家又ハ住居ニ供スヘキ家屋ヲ暴行又ハ脅迫ニ依テ奪取セシキハ其犯人ニ有期徒刑ヲ適施シ官兵ニ對シテ襲撃又ハ抗拒ヲナサンカ爲メニ兵營又ハ其他ノ公舎ヲ奪取セシカ又ハ所有主若クハ借家人ノ承諾ヲ得テ人民ノ私有ノ住家若クハ私有ノ住セサル家ヲ占領セシキハ其犯人ニ禁獄ノ刑ヲ適施ス此二條ニ於テハ三箇ノ犯罪ヲ區別セサルヲ得ス、第一住家ノ奪取、第二公有家屋ノ奪取、第三所有主又ハ借家人ノ承諾ヲ得タル住家ノ占領是ナリ此第一ノ場合ニ於テハ人ニ暴行ヲ加フルノ故ヲ以テ叛逆ノ所爲ヲ加重シ加之其暴行ハ却テ叛逆ノ所爲ヨリ重シトス之ニ反シテ其

天皇及ヒ皇族ニ對スル暴害及ヒ陰謀

他ノ二箇ノ場合ニ於テハ他人ニ害ヲ加フルコトナキカ故ニ唯國事犯ノ所爲アルノミトス而シテ以上三箇ノ犯罪ノ原素ハ同一ナラス第一ノ犯罪ハ暴行若クハ脅迫ト之ヨリ生シタル奪取トノ二件アルニ非サレハ成立セス之ニ反シテ其他ノ二箇ノ場合ニ於テハ官兵ニ對シテ襲撃又ハ抵抗ヲナサンカ爲ニ占領ヲナセシコトノミヲ要シ暴行等ノ所爲アリシヲ要セサルナリ然レモ反賊ノ目的ヲ熟知シテ其己レノ家ニ入ルヲ諾セシ者ハ此一事ヲ以テ從犯ノ所爲アリトス

第百六十六號 第九條ハ執行ノ所爲ノ幫助ヲ禁止シテ曰ク「一揆ノ動亂中ニ官兵ノ進行ヲ防止セシカ爲メニ壘壁ノ築造又ハ其他ノ工事ヲナシ若クハ其所爲ヲ助ケシ者暴行若クハ脅迫ニ依テ官兵ノ招集集合ヲ障礙シ又ハ命令旗符若クハ其他召集ノ徵候ヲ以テ反賊ノ集會ヲ挑唆シ又ハ容易ナラシメシ者一箇又ハ數箇ノ電信線ヲ截斷シ暴行若クハ脅迫ニ依テ一所又ハ數所ノ電信局ヲ奪取シ又ハ其他ノ方法ニ依テ官吏ノ交通通信ヲ障礙セシ者ハ之ヲ禁獄ノ刑ニ處ス」ト○第十條及ヒ第十一條ハ其目的トスル所千八百三十四年ノ法ニ定メタル刑ヲ常律ノ規則(殊ニ第四百六十三條)ニ適當セシメ且ツ刑法舊第四十九條ニ定メタル無期且必施ノ監視ヲシテ千八百三十四年ノ法ニ定メタル刑ノ期限ニ從テ有期且自由監視ニ代ヘシムルニアリタリ

第百六十七號 暴害ノ挑唆○此事柄ヲ補充センカ爲メニハ公告ヲ以テ第八十六條及ヒ第八十七條ノ目的タル暴害ヲ挑唆スルヲ禁スル所ノ諸法令ヲ茲ニ記載セサルヲ得ス即チ千八百三十五年九月六日ノ法ノ第一條ニ曰ク「千八百十九年五月十七日ノ法ノ第一條ニ記載シタル一方法ニ依テ刑法第八十六條及ヒ第八十七條ニ記載シタル重罪ヲ挑唆セシキハ其成効ノ有無ヲ論セス國ノ安寧ヲ害スル暴害ナリトス」ト

天皇及ヒ皇族ニ對スル暴害及ヒ陰謀

此千八百三十五年ノ法ハ千八百四十八年三月六日ノ布令ニ依テ一旦廢止ニ屬セント雖モ其後千八百五十八年二月二十七日ノ法ノ第一條ニ依テ其一部ヲ復シ第八十六條及ヒ第八十七條ニ禁止スル所ノ重罪ヲ挑唆ノ其成效ヲ得サリシ者ヲ二年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル禁錮ト五百「フラン」ヨリ少カラス一万「フラン」ヨリ多カラサル罰金トノ刑ニ處セシカ此法ハ復タ千八百七十年十月二十四日ノ布令ニ依テ廢止セラレタリ然レモ千八百四十八年八月十一日ノ法ハ既ニ第八十七條ニ適スル犯罪ヲ記載シ曰ク「千八百十九年五月十七日ノ法ノ第一條ニ記載シタル一方法ニ依テ國會ノ權利及ヒ威權國會ノ布令ニ依テ行政官吏ノ有スル權利及ヒ威權共和ノ國體及ヒ憲法人民ノ主權及ヒ一般選舉ノ主義ニ對スル總テノ襲撃ハ三年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル禁錮ト百「フラン」ヨリ少カラス五千「フラン」ヨリ多カラ

サルノ罰金トノ刑ニ處ス」ト而シテ千八百四十九年七月二十七日ノ法ノ第一條ニ曰ク「千八百四十八年八月十一日ノ布令ノ第一條ハ大統領ノ憲法ニ依テ又ハ其一身ノ保護ノ爲メニ有スル權利及ヒ威權ニ對シテ行フタル襲撃ニ適當ス」ト終ニ千八百七十五年十二月二十日ノ法ノ第一條ハ左ノ規則ヲ置キ以テ上ノ法律ヲ確定セリ曰ク「千八百十九年五月十七日ノ法ノ第一條ニ記載シタル方法中ノ一ニ依テ憲法又ハ憲法ニ定メタル共和政府ノ權利及ヒ威權ニ對シテ行フタル總テノ襲撃ハ千八百四十八年八月十一日ノ布令ノ第一條ニ記載シタル刑ヲ以テ之ヲ罰ス」ト

從第九十一條
至第百二條及
第百七條第
百八條

○第二節 内亂ヲ起シテ國ヲ騷カス重罪
 第六十八號 内亂ヲ起サントスル陰謀及ヒ暴害○第九十一條ハ前節ニ記載セシモノト異リタル陰謀及ヒ暴害ヲ禁止ス即チ兵器ヲ弄シ

内亂ヲ起シテ國ヲ騷カス重罪

若クハ之ヲ弄スルヲ挑唆シテ内亂ヲ起シ又ハ一邑若クハ數邑ニ於テ
 亂妨虐殺及ヒ掠奪ヲ行フヲ目的トスル場合はナリ茲ニ述フル所ノ陰
 謀及ヒ暴害ハ既ニ第八十七條第八十八條及ヒ第八十九條ニ記載シタ
 ル性質ヲ保有スルカ故ニ別段其義解ヲ舉ケスト雖モ茲ニハ陰謀及ヒ
 暴害ヲ構造スル所ノ所爲ヲ解剖スルヲ要スルナリ第九十一條ハ二箇
 ノ有罪タル所爲ヲ記載ス、第一内亂ヲ起スノ目的ヲ有セシメ内亂ハ國
 民ノ一部ノ他ノ一部ニ對シ兵力ヲ以テ其爭ヲ成就センカ爲メニ兵器
 ヲ弄セシキニ非サレハ成立ナキモノナリ故ニ一小地方ニ生シタル一
 揆、偶然ノ襲撃、喧嘩等ハ之ヲ内亂ト看做スヲ得ス内亂トセンコハ國民
 ノ一部ノ他ノ一部ニ對シテ戰爭ヲナシ又爭論ノ原因ノ數千万人ヲ振
 起スルコ足ルヘキ威力ヲ有シ又喧嘩ヨリシテ戰爭ヲ始ムルニ至リシ
 ヲ要スヘシ第九十一條ハ國民又ハ住民ノ語辭ヲ用ヰシカ故ニ佛蘭西

ニ住スル外國人ノ所爲モ亦國民ノ所爲ト均シク内亂ノ原素ヲナスヲ
 得ヘキナリ、第二亂妨虐殺及ヒ掠奪ヲ行フノ目的ヲ有セシメ要シ其成
 効ヲ要セサルコト、此二所爲ノ集合ハ即チ此件ニ於ケル重罪ノ性質ヲナ
 スモノニシテ之ニ案内ノ流刑ヲ適施ス千八百五十年六月八日ノ法
 第六十九號 兵隊ノ募聚○第九十二條ハ正當ノ威權アル者ノ命令
 又ハ其允許ナクシテ兵器ヲ携ヘタル群集ヲ募聚シ或ハ募聚セシメ又
 ハ兵卒ヲ雇ヒ或ハ雇ハシメ又ハ兵卒ヲ募聚シ或ハ募聚セシメ又ハ其
 群聚若クハ兵卒ニ兵器若クハ彈藥ヲ給與シタル者ヲ案内ノ流刑ニ處
 ス此場合ハ第九十二條中ニハ別段記載ナシト雖モ政府ニ對シテ兵器
 ヲ弄シ且内亂ニ依テ國ヲ騒カスヲ目的トシタルキニノミ限ルナリ是
 レ即チ第九十二條ヲ包含スル所ノ一款中ノ規則ノ全体ヨリ生スルモ
 ノナリ故ニ敵ノ襲撃ヲ受ケタル地方ヲ防禦センガ爲メ又ハ叛賊ニ對

シテ政府ヲ防守セシカ爲メニ群聚ヲ募聚セシキハ決シテ重罪ヲナサ
 ルナリ又共和第四年四月四日ノ法ノ第二條及ヒ千八百五十七年ノ
 軍律第二百八條ニ依テ罰スル所ノ軍人ノ敵又ハ叛賊ニ加ハルヲ挑唆
 スルト不適法ノ募兵ト混淆ス可カラス不適法ノ募兵トハ軍人ニ
 非サルモノヲ募集スルコトニシテ前ニ述ヘタル目的ヲ有スルキニ非サ
 レハ重罪ノ性質ヲ有セサルモノナリ重罪ノ未遂犯モ亦第二條ニ於テ
 要スル所ノ原素タル場合アルキニ非サレハ之ヲ罰セス千八百二十三年二月十六日
 決ノ判

第七十號 不適法ノ命令○第九十三條ハ恰モ軍律第二百二十八條
 ナ重論シ軍隊ヲ命令スルノ權ノ押領ニ付三所爲ヲ記載ス此所爲ハ皆
 重罪ヲ犯スノ目的ヲ以テ之ヲ押領シタルキニ非サレハ重罪ヲ構造セ
 ス以前ハ之ヲ死刑ニ處セシカ當今ハ之ヲ案内ノ流刑ニ處ス但シ軍律

ニ於テハ之ヲ死刑ニ處ス
 第七十一號 軍人募聚ノ障礙○第九十三條ニ記載シタル重罪ハ左
 ノ三箇ノ場合ノ集合セシ際ニ非サレハ構造セサルモノナリ第一犯人
 カ其職掌又ハ身分ニ因テ兵隊ヲ指揮スルノ權ヲ有セシテ第二兵ノ使
 用ヲ求需シ或ハ其動作ヲ命令シ又ハ其使用若クハ動作ヲ求需若クハ
 命令セシメシテ第三法律ニ定メタル軍人ノ募聚ヲ妨碍シテ其動作ヲ
 命セシテ是ナリ而シテ同條第二項ハ刑ヲ加重スヘキ場合ヲ記載ス即チ
 若シ其求需ノ効果アリタルキハ輕流刑ニ代ヘ案内ノ流刑ヲ適施ス茲
 ニ述フル所ノ効果トハ犯人カ命令ノ執行ノ爲メニ現ニ兵隊ヲ使用セ
 シコト云ヒ其使用ニ因テ現ニ兵卒ノ募聚ヲ妨碍セシト否トハ之ヲ區
 別セサルナリ
 第七十二號 地雷火ヲ破裂セシメテ政府ノ建造物ヲ毀壞スルコト○

内亂ヲ起シテ國ヲ騷カス重罪

第九十五條ハ地雷火ヲ以テ建造物、船舶、小舟、倉庫及ヒ木材置場ヲ破壊シタル者ヲ第四百三十四條ノ區別ニ從テ罰スル所ノ第四百三十五條ト共ニ之ヲ論セサルヲ得ス内亂ノ所爲ヲ罰スル所ノ款中ニ置キタル此第九十五條ハ放火ノ所爲ト叛逆ノ所爲トヲ包含スト雖モ此條ニ論スル所ノモノハ敵又ハ叛賊カ其面前ニ於テ地雷火ヲ發シ且其破裂ノ敵又ハ叛賊ノ用ニ立チシ場合ヲ云フモノト思惟スヘシ若シ上ノ罪ヲ犯ス意思ノ重罪ヲ構造セサルキ又ハ建造物ノ住家若クハ住居ニ用フヘキ家屋タルトキハ第四百三十四條及ヒ第四百三十五條ヲ適施スヘキ常事犯ニシテ國事犯ニ非サルナリ第九十五條ニ於テ死刑ヲ案内ノ流刑ニ換ヘシハ蓋シ國事犯タルノ故ヲ以テナリ若シ地雷火ノ破裂ニ因ツテ破壊ヲ醸サ、リシキハ其所爲ハ適法ノ未遂犯罪ヲ構造スヘシ」
 第七十三號 兵器ヲ携ヘタル群集○第九十六條ハ二箇ノ所爲ヲ記

載ス、第一官有物ヲ強奪掠奪シ又ハ官兵ニ抵抗センカ爲ニ兵器ヲ携ヘタル群集ノ首領トナリ其群集中ニ於テ職務ヲ行ヒ及ヒ指揮ヲ掌ル者ノ正犯ノ所爲、第二群集ノ寡聚或ハ編成ヲ容易ナラシメ兵器、彈藥又ハ其糧食ヲ供給セシ者ノ從犯ノ所爲是ナリ此條ニ記載スル所ノ重罪ヲナス第一ノ條件ハ兵器ヲ携ヘタル群集ナリ而シテ茲ニ述フル所ノ群集トハ偶然ニ生シタル一揆狀ノ集合第二百人ノ身體又ハ財産ヲ害スル罪ヲ犯ス所ノ惡人ノ群衆第二百六十一條一罪ヲ犯シ又ハ動産ヲ掠奪スル目的トスル所ノ集合群衆第四百十條ト異ニシテ即チ第九十六條ニ述フル所ノ群集ノ性質ヲナスモノハ其編成ノ目的トナリ而シテ編成アリトセンニハ豫メ群集ニ加入スル約束、指揮、命令ヲ掌ル者及ヒ群集ニ屬スル事務ヲ有シ且兵器ヲ携ヘタル人、彈藥糧食是等ノ具備アルヲ要ス故ニ數人即チ少クモ二十人以上ノ集合シタル一休ナリ而シテ兵器ヲ携ヘ

タル群集アリシヤ否ヤヲ判定スルノ權ハ裁判官及ヒ陪審會ニ屬ス是
 レ蓋シ事實ニ依テ其成否ヲ判定スヘキ場合ナレハナリ第二ノ條件ハ
 群集ノ有スル目的ナリ即チ官有ノ土地、財産、金額「外ノ戰都」地ヲ云フ、
 府、城塞、陣營、倉庫、砲兵工廠、港口或ハ船舶ノ強奪又ハ公有財産或ハ共有
 財産ノ掠奪或ハ分配又ハ官兵ニ對スル襲撃或ハ抵抗又ハ第八十七條
 及ヒ第九十一條ノ執行是ナリ概シテ群集ノ國事犯タラシニハ以上ノ
 數罪中ノ一ヲ目的トシテ其編成及ヒ兵器ノ攜帶ヲナセシヲ要スヘ
 シ然レモ第九十六條ノ第一項ヲ適施センコトハ既ニ群集ヲ編成シタル
 以上ハ必スシモ上ニ記シタル一罪ヲ執行シ又ハ謀試未遂犯ニシテ要ス
 ルコト非ス以上ノ一罪ヲ執行スルノ目的ヲ以テ命令指揮ヲナセシ
 ヲノミテ以テ足レリトス

第七十四號 同條第一項ニ記載シタル重罪ノ從犯者ハ之ヲ同刑內案

刑ノ流ニ處ス此規則タルヤ第五十九條及ヒ第六十條ノ原則ニ悖戾スル
 モノニアリ即チ第一第六十條ニ於テハ執行シ或ハ謀試シタル重罪ノ
 豫備ノ所爲ニ加ハリタル者ニ非サレハ之ヲ從犯者トセス然ルニ第九
 十六條ハ之ニ反シテ執行或ハ未遂犯ニ關セスシテ單ニ豫備ノ所爲又
 ハ群集ノ編成ヲ助ケシ者ヲ從犯者トス第二第六十條ニ列記シタル加
 入ノ方法ニ依ラスシテ群集ノ指揮官及ヒ命令官ト交通セシノミヲ以
 テ從犯ノ所爲アリトス第三從犯者ニ適當スヘキ刑ハ第五十九條ノ原
 則ノ如ク群集ニ加ハリシ者ニ適施スヘキ刑ニ非スシテ命令又ハ指揮
 ヲ掌リシ者ニ適施スヘキ刑ナリ

第七十五號 第九十七條ハ兵器ヲ携ヘタル群集カ第八十六條第八
 十七條及ヒ第九十一條ニ記載シタル重罪ノ一ヲ執行又ハ謀試セシ場
 合ヲ記載シ一揆狀ノ集合ノ場所ニ於テ逮捕シタル者ニハ其群集中ニ

内亂ヲ起シテ國ヲ騷カス重罪

於ケル階級ニ拘ハラス皆之ニ案内ノ流刑ヲ適施ス此重罪ノ性質ヲ構
 造スル所ノ場合ハ、第一第九十六條ニ從テ編成シ且兵器ヲ携ヘタル群
 集ニ加ハリシヲ、第二同條ニ記載アル重罪ノ一ヲ執行又ハ謀試セシ
 故ニ第九十七條ニ於テ罰スル所ノモノハ群集編成ニ係ル豫備ノ所爲
 ニアラスシテ重罪ノ執行若クハ執行ノ端緒ナリ、第三第百條ニ記載ス
 ル所ノ叱責ヲ受ケタル後一揆狀ノ集會ノ場所ニ於テ兵器ヲ携ヘ或ハ
 其携帯ナク逮捕セラレシヲ是ナリ第九十七條ノ適施ニ付必要ナル以
 上ノ三條件ハ各別ニ重罪取調局ノ決議及ヒ陪審會ニナス所ノ下問中
 ニ登記セサルヲ得ス但シ集會ノ場所ニ於テ逮捕セシヲ一條件ハ群
 集ヲ指揮シ又ハ其命令若クハ職務ヲ掌リシ者ニ對シテハ之ヲ要セサ
 ルナリ千八百三十一年二月九日及
 同八月三十一日ノ判決

第九十六條ニ記載シタル兵器ヲ携ヘタル群集ニ加リ

且集會ノ場所ニ於テ逮捕ヲ受ケシ者ト雖モ其命令又ハ職務ヲ行ハサ
 ル者タルトハ之ヲ輕流刑ニ處ス此條ヲ適施セシニハ左ノ數條件ヲ要
 ス、第一犯人カ第九十六條ニ記載スル所ノ編成シ且兵器ヲ携ヘタル群
 集ニ加ハリシヲ、第二此群集ノ第八十六條第八十七條及ヒ第九十一條
 ニ記載シタル重罪ニ非スシテ第九十六條ニ記載シタル重罪ヲ目的ト
 セシヲ、第三犯人カ第九十七條ニ記載スルモノト均シク集會ノ場所ニ
 於テ逮捕セラレシヲ千八百三十三年三月三十一日ノ判決是ナリ群集ノ目的トスル所ノ
 重罪ニ關シテハ第九十八條ト其以上ノ數條トノ間ニ必要ナル連絡ア
 ルカ故ニ第八十七條及ヒ第九十一條ニ基キタル重罪ノ取調ニ付テハ
 第九十八條ニ記載シタル重罪アリヤ否ヤヲ陪審會ニ下問スルヲ要ス
 ルナリ千八百三十一年一
 月二十日ノ判決

第百七十七號 第九十條ハ第六十一條及ヒ第二百六十八條ノ如ク藏

内亂ヲ起シテ國ヲ騷カス重罪

匿ニ關スル從犯ノ所爲ヲ記載ス此所爲ハ群集ノ爲メニ集會所又ハ隱
 匿ノ場所ヲ供シタル場合ナリ而シテ此從犯アリトセンニハ左ノ數條件
 ナ要ス第一群集ノ第九十六條ニ記載シタル重罪ノ一ヲ目的トシテ編
 成セシモノタルヲ第二犯人ノ此群集ノ目的及ヒ性質ヲ知リシヲ第三
 犯人カ脅迫ヲ受ケシヲナク好意ヲ以テ家屋隱匿ノ場所又ハ集會ノ場
 所ヲ供シシヲ是ナリ此條ニハ第六十一條ノ如ク別段藏匿ハ所爲ヲ慣
 習トシタル者ト記載セスト雖モ之ニ適施スヘキ刑徒有刑ト數回藏匿ノ
 所爲ヲ施行セシト看做ニ足ルヘキ有罪トスルノ語辭トヲ推量スルキ
 ハ偶然犯シタル一箇ノ所爲ノ重罪ヲ構造スルニ充分ナリトスルハ未
 タ盡サ、ルモノ、如シ乃チ第九十九條モ亦第六十一條ノ如ク慣習ト
 シテ藏匿ノ所爲ヲ行ヒシ者ニ非サレハ適當セサル可キナリ刑法理六
 第五百論

鐵卷

第七十八號 第一百條ニ記載スル所ノ特赦ハ宥恕減輕ノ性質ト其効
 トヲ有ス即チ此條ニ記載スル所ノ所爲ハ罪ヲ消散セス唯之ニ適施ス
 ヘキ刑期ヲ減輕シ又ハ監視ニノミ附スルノ効ヲ生ス故ニ第九十七條
 及ヒ第九十八條ニ記載シタル重罪ノ被告人ハ其所爲ニ至當ナル訴ヲ
 障礙スルヲ得ス只後ニ重罪裁判所ニ宥恕減輕ヲ請求スルヲ得ノミ千
 百三十三五年五月二日及ヒ同年十月五日及
 七千八百五十五年十一月十五日ノ判決 但シ此特赦ハ群集ニ加ハリ
 シト雖モ命令又ハ職務ヲ掌ラサル者ニノミ限ルナリ故ニ群集中ニ於
 テ多少職務ヲ掌リシ者ニハ決シテ宥恕減輕スルヲナシ此特赦ニ付必
 要ナル條件左ノ如シ第一群集ニ加ハリシ者ノ文武官吏ノ初回ノ叱責
 ニ因テ直チニ又ハ其後ニ退散セシヲ此叱責ハ千八百三十一年四月十
 日及ヒ千八百四十八年六月九日ノ法ニ記載シタル法式ニ從テ陳述ス
 ルヲ要シ而シテ叛賊ハ好意ニ因テ退散セシヲ要ス故ニ兵力ヲ用非タ

内亂ヲ起シテ國ヲ騷カス重罪

ル後ニ群集ヲ退キタル者ハ宥恕減輕ヲ得ル能ハサルモノトス、第二叛賊ノ一揆狀ノ集會ノ場所外ニ於テ抵抗ナク且兵器ノ携帯ナク逮捕ヲ受ケシト此抵抗ナク且兵器ノ携帯ナクノ語ハ抵抗ヲナサンカ爲ニ用ヰタル兵器ナクノ義ナリ何トナレハ此第二ノ條件ニ於テハ使用ナクシテ唯兵器ヲ携帯セシトテ要セサレハナリ

第百七十九號 上ノ刑法上ノ特赦ハ一揆ノ所爲ニノミ適當シ格段ニ一身上ニ行フタル重罪ニハ適當セス何トナレハ第百條ハ第二項ニ於テ「犯人ハ其一身ニ行フタル重罪ノミニ付罰ヲ受クヘシ」ト明記スレハナリ茲ニ云フ行ノ重罪トハ群集ノ一身上ニ共犯セシモノヲ云フナリ又破毀院ニ於テハ群集カ第八十六條第八十七條及ヒ第九十一條ニ記載スル所ノ重罪ヲ犯スヲ目的トセシキ又ハ群集中ノ一人カ千八百三十四年五月二十四日ノ法ニ依テ禁止シタル所爲ノ一ヲ一身上ニ犯シ

タルキハ第百條ヲ適施セスト決定セリ千八百五十五年十一月十五日ノ判決

第百八十號 兵器ノ義解○第百一條ハ國事犯ニノミ適當スルニ似タリト雖モ一般ノ規則ニシテ總テノ法律ニ適當スルナリ兵器ノ義解ニ曰ク「研、擲、毆ヲ爲ス諸器械ヲ兵器トス」ト其他懷中小刀、剪刀及ヒ尋常ノ杖ニ付テハ制限ヲ置キ其人ヲ殺シ又ハ毆傷ヲナサンカ爲メニ用ヰタルキニ非サレハ之ヲ兵器ト看做サス故ニ第一種ノ兵器ハ犯罪ノキニ於テ之ヲ所持セシノミヲ以テ刑ヲ加重スヘキ情狀トナスト雖モ第二種ノ器具ハ日用物タルカ故ニ其使用ヲナシタルキニ非サレハ之ヲ兵器ト看做サス此第二ノ例ハ兵器トシテ用ヰシ其他ノ物品ニモ適當ス石又ハ棒ニ付テハ如何ナル決定ヲナス可キヤノ論題ヲ生ス尋常ノ杖ハ前ニ述ヘシ如ク人ヲ毆打センカ爲メニ用ヰシキニ非サレハ之ヲ兵器ト看做サスト雖モ最大ナル棒ハ人ヲ殺スヲ得ヘキ器具タルヲ以テ

千八百七十八年八月十三日ノ判決 又太キ棒ハ人ヲ毆打スル器具タルヲ以テ千八百七十八年十月三日ノ判決 兵器ト看做スヘシト判決セラレタリ而シテ總テ棒ハ第一百一條ニ於テ兵器ノ語中ニ包含スルモノト判決セラレタリ 千八百三十二年二月十六日ノ判決ニ石ハ投打ノ器具タルヲ以テ武器ト同視シ群集ノ官兵ニ對シテ之ヲ投打セシキハ此群集ヲ指シテ兵器ヲ携ヘタルモノトナス 千八百三十八年十一月三十日ノ判決 千八百三十九年四月三十日ノ判決 但シ偶然ニ兵器タルヲ得ヘキ器具ハ人ヲ殺シ又ハ毆傷ヲナサンカ爲ニ用ヰシキニ非カレハ兵器ノ性質ヲ得サルモノトス而シテ只其用ヰシノミヲ判定スルヲ以テ足レリトセズ宜シク注意スヘシ 刑法論第五卷第三十三號參照

第一百八十一號 第一百二條ハ此款ニ記載シタル重罪ヲ犯スチ人民ニ挑唆セシ者ヲ從犯者トシテ罰セシカ千八百十九年五月十七日ノ法ハ第二十六條ニ於テ該條ヲ廢止シ同法第一條及ヒ第二條ヲ以テ之ニ代ヘ

從前ノ規則ニ比スレハ一般ノ規則ニ稍近ツキタルモノヲ置キタリ 第一百八十二號 國ノ安寧ヲ害スル重罪ノ告發ニ付テノ宥恕 ○國ノ安寧ヲ害スル重罪ヲ告發セサル者ヲ罰セシ所ノ第三百三條 第三百四條 第三百五條 第三百六條 及ヒ第三百七條ハ千八百三十二年四月二十八日ノ法ノ第十二條ニ依テ廢止セラレシト雖モ官ヨリ訴ヲ起ササル前ニ陰謀ヲ告發セシ者ノ刑ヲ特赦スル所ノ第八條ハ之ヲ維持セリ 此條ハ左ノ者ニ對シテ宥恕ヲ執行ス 第一國ノ内部又ハ外部ノ安寧ヲ害スル陰謀又ハ重罪ノ犯人ヨシテ其陰謀或ハ重罪ヲ執行又ハ謀試セサル前未ダ官ヨリ訴ヲ起ササル前ニ官ニ其重罪又ハ正犯者ヲ告發セシ者 第二訴ヲ起シタル後正犯者又ハ從犯者ノ逮捕ヲ助ケシ同犯人是ナリ 以上宥恕ノ所爲アリシヤ否ヤヲ判定スルノ權ハ陪審會ニノミ屬ス而シテ犯人ハ其宥恕スヘキ所爲ノ有無ヲ裁判官ヨリ陪審會ニ下問アラントシテ要求

内亂ヲ起シテ國ヲ騷カス重罪

スルヲ得ヘシ八千八百二十年四月十七日ノ判決ハ既ニ逮捕ヲ受ケタル犯人ハ此第一ノ場合ニ於ケル宥恕ヲ得ル能ハス何トナレハ已ニ官ヨリ訴ヲ起シタル後ナレハナリ而シテ第二ノ場合ニ於ケル宥恕ヲ得ンニハ唯正犯者又ハ從犯者ヲ指示セシノミヲ以テ足レリトセス必ズ正犯者又ハ從犯者中ノ數人又ハ少クモ其一人ノ逮捕ヲ助ケシヲ要スルナリ

○第二章 憲法ヲ害スル重罪及ヒ輕罪

從第九條至
第百十三條

○第一款 公權ノ施行ニ關スル重罪及ヒ輕罪

第百八十三號 人民ノ主權ヲ以テ行フ所ノ公權及ヒ政權ハ自主ノ權中ニ屬スルモノナレハ能ク其保護ヲ受ケサルヲ得ス總テ自主ヲ束縛シ又ハ之ヲ毀廢セントスル所爲ハ一國人民ニ對スル抑壓ノ處置ナリ故ニ刑法ハ此暴害ヲ驅除セサルヲ得ス是レ即チ刑法第百十一條以下ノ目的トスル所ナリ然レモ甚ク不完全且不前見ナル此條令ハ未ダ充

分ニ選舉ノ自由ヲ妨礙スルヲ得ヘキ所爲ヲ制スルノ方法ヲ設ケサリシカ故ニ千八百四十九年三月十五日ノ法ハ第九十八條以下ニ依テ此缺典ヲ補充セリ其後千八百五十二年二月二日ノ布令ヲ以テ千八百四十九年ノ法ニ代ヘシト雖モ其刑法上ノ規則ハ皆之ヲ布令ノ第三十一條以下ニ登記セリ又其後千八百七十年十月六日ノ布令ハ上ノ布令ヲ廢止セシト雖モ此廢止ハ未ダ公然頒布ナキヲ以テ破毀院ニ於テハ千八百五十二年ノ布令ハ尙ホ適施ス可キモノタルヲ決定セリ千八百九十九年九月一此破毀院ニ於テナセシ解釋ハ國會代議士ノ選舉ニ關スル千八百七十五年十一月三十日ノ法ノ第二十二條ニ因テ暗ニ認可セラレタリ何トナレハ該條ハ選舉ニ關スル從前ノ諸法律及ヒ布令ヲ悉ク維持シ且例外ヲ置カサレハナリ

公權ノ施行ニ關スル重罪及ヒ輕罪

テ人民ノ投票ヲ障礙シタル場合ヲ記載ス此場合ニ於テハ一人又ハ數人ノ公權ノ施行ヲ障礙シ且此障礙ノ噪聚暴行又ハ脅迫ニ因テ生セシキニ非サレハ輕罪ヲ構造セス故ニ其未遂犯ノミハ第百九條ノ文義中ニ入ラサルナリ○第百十條ハ刑ヲ加重スヘキ場合ヲ舉ク是レ障礙ヲ成就センカ爲メニ商議シタル計畫アリシキナリ此豫メ行フタル商議即チ企謀アリシキハ執行シタル所爲ヲ重罪トス故ニ輕罪又ハ重罪ヲ構造スル所ノ所爲ハ固ト同一ノモノナレモ只其偶然ニ生シタルト數人ノ陰謀ニ因テ生シタルトニ因テ罪ニ輕重ノ別アルナリ

第百八十五號 千八百四十九年三月十五日ノ法ノ第百八條第百九條第百十條及ヒ第百十一條ハ右ニ記シタル二條ノ法則ヲ補充セリ此條令ハ亦其後千八百五十二年二月二日ノ布令ノ第四十一條第四十二條第四十四條ニ之ヲ採用セリ即チ左ノ如シ○第四十一條「噪聚、噪叫又ハ脅迫ヲ以テ選舉會ノ施行ヲ亂シ選舉權ノ施行又ハ投票ノ自由ヲ害セシ者ハ三月乃至二年ノ禁錮ト百「フラン」乃至千「フラン」ノ罰金トニ處ス」

○第四十二條「選舉ヲ障礙センカ爲メニ暴行ヲ以テ選舉會中ニ侵入スルヲ初メ又ハ試ミシ者ハ一年乃至五年ノ禁錮ト千「フラン」乃至五千「フラン」ノ罰金トニ處ス」○第四十二條「犯人若シ兵器ヲ弄セシカ又ハ選舉會ヲ侵セシキハ之ヲ懲役ノ刑ニ處ス」○第四十四條「全國又ハ一縣若クハ數縣又ハ一郡若クハ數郡ニ於テ執行スルノ目的ヲ以テ其計畫ヲ商議シタル後罪ヲ犯セシキハ其犯人ヲ有期徒刑ニ處ス」○千八百四十九年ノ法ニ依テ補充ノ規則ヲ設ケサル前ハ左ノ如ク判決セリ即チ選舉ノ投票筐ノ鑰ヲ得ンカ爲メニ暴行ヲ以テ邑長ヲ強制セシ者、封印ヲ開キ筐中ニ在ル票箋及ヒ其調査ノ名簿ヲ燒捨セシ者ハ第百九條ニ記載シタル刑ヲ以テ之ヲ罰ス何トナレハ此犯人ハ票箋ヲ廢シ選舉即チ

公權ノ施行ニ關スル重罪及ヒ輕罪

人民ノ公權ヲ障礙セシモノナレハナリ千八百四十年六月十八日ノ判決然レモ現今ハ
 千八百四十九年三月十五日ノ法ノ第百八條第百九條及ヒ千八百五十
 二年二月二日ノ布令ノ第四十一條及ヒ第四十二條ニ依テ處斷ス
 第百八十六號 票箋ノ偽造○刑法第百十一條及ヒ第百十二條ハ票箋
 ナ偽造シ投票筐中ニ過分ノ票箋ヲ投入シ及ヒ筐中ヨリ票箋ヲ取出ス
 ノ所爲ヲ罰スルヲ目的トス若シ投票筐ヲ收ムルノ任ヲ有スル者ノ以
 上ノ詭欺ヲ行ヒシキハ其所爲ハ重罪ニシテ之ヲ剝奪公權ノ刑ニ處ス
 其他ノ者ノ犯セシキハ輕罪ニシテ之ヲ六箇月乃至二年ノ禁獄ニ處シ
 加之五年乃至十年間投票ヲナスノ權ト被選人タルノ權トヲ停止ス此
 二條ハ千八百四十九年ノ法ノ第百二條及ヒ第百三條ニ依テ之ヲ補充
 セシカ其後千八百五十二年ノ布令ノ第三十五條及ヒ第三十六條ハ左
 ノ如ク上ノ法ノ第百二條及ヒ第百三條ノ規則ヲ其儘採用セリ○第三
 十五條「投票筐ヨリ選舉ノ票箋ヲ出タシ算計シ又ハ其筐ヲ収ムルノ任
 ヲ有スル者票箋ヲ變更シ或ハ過分ノ票箋ヲ筐中ニ投入シ或ハ筐中ニ
 アル票箋ヲ取出シ又ハ票箋ニ記載アル姓名ト異リタル姓名ヲ讀上ケ
 シキハ之ヲ一年乃至五年ノ禁錮ト五百フラン乃至五千フランノ罰金
 トニ處ス」○第三十六條「選舉人ヨリ其選舉セントスル人ノ姓名ヲ票箋
 ニ記スルノ委託ヲ受ケシ者選舉人ノ指示セシ者ノ姓名ニ非サル他人
 ノ姓名ヲ記セシキハ前條ト同刑ニ處ス」○第百十一條「適施センコハ
 犯人カ票箋ノ偽造其投入或ハ其取出ニ付現ニ制止ヲ受ケシヲ要ス
 復言スレハ現行犯罪タルヲ要スレハナリ但シ此例外ハ新法ニハ之ヲ
 置カカリシ新法トハ千八百四十九年ノ法ヲ指スナルヘシ
 第百八十七號 刑法第百十一條千八百四十九年ノ法第百二條及ヒ千
 八百五十二年ノ法第三十五條ニ記載スル所ノ詭欺ハ其成就ヲ目的ト

スル所ノ所爲ニ付テハ上ノ條令ニ記載アルモノト記載ナキモノトヲ論セズ皆之ヲ包含ス故ニ高數ノ選舉ヲ受ケタル某甲ノ票數ニ超ヘシメシカ爲メニ調査ノ名簿中ニ於テ乙某ノ得タル票數ニ其得サル數ヲ附加スルノ所爲ハ偽造シタル票箋ヲ過分ニ投入シタルノ所爲ト同一ナリ蓋シ其目的タルヤ票數ヲ増加シテ詭欺ヲ成就セントスルニ外ナラサレハナリ千八百四十八年六月十五日ノ判決又此所爲ハ一所爲ヲ判定スルニ用立テタル書類偽造ト看做ヲ得ヘシ同條ハ尙ホ名簿中既ニ姓名ヲ塗抹シタル選舉人タリシヲ知リテ其選舉人タルヲ許可セシ所爲ニ適當ス此所爲ハ投票筐中ニ過分ニ票箋ノ投入ヲナセシト同一ノ效果ヲ生シ亦選舉施行ノ正實ヲモ破ルモノナリ故ニ此詭欺モ亦輕罪ヲ構造ス千八百五十二年十二月二十二日ノ判決

第百八十八號

選舉ノ賣買

○第百十三條ハ

選舉ニ付多少ノ價ヲ以テ

其投票ヲ賣買セシ者ヲ罰ス該條ハ如此キ重大ナル所爲ニ罰金及ヒ公權停止ノ刑ノミヲ適施セシカ千八百四十九年ノ法ノ第百五條及ヒ千八百五十二年ノ布令ノ第三十八條ハ左ノ如ク之ヲ補充改定セリ「投票ヲナシ之ヲ得又他人ノ姓名ヲ投票スルヲ止メシムルノ約束ヲ以テ金銀若クハ物件ヲ授受シ又ハ之ヲ授受スルヲ約セシ者ハ三月乃至二年ノ禁錮ト五百「フラン」乃至五千「フラン」ノ罰金トニ處ス同上ノ約束ヲ以テ公務若クハ私務ヲ供給シ若クハ其約ヲナシ又ハ之ヲ諾セシ者ハ之ヲ同一ノ刑ニ處シ若シ犯人ノ官吏タルハ其刑ヲ二倍ス故ニ上ノ場合ニ於テ輕罪ヲ構造スルノ條件ハ選舉權ノ賣買ナリ

第百八十九號 又其他千八百四十九年ノ法及ヒ千八百五十二年ノ布令ハ立法家ノ刑法中ニ設置スルヲ遺忘セシ所ノ詭欺及ヒ暴行ノ數所爲ヲ記載ス、第一選舉人ノ名簿中ニ不適法ノ登記ヲナス、是レ第三十

一條第三十二條第三十三條及第三十四條ニ記載スル所ナリ○第三十一條選舉名簿ニ詐僞ノ姓名若クハ身分ヲ登記セシメ又ハ已レノ姓名ヲ登記セシメテ法律ニ記載スル所ノ不能力ヲ掩蔽シ又ハ數所ニ於テ登記ヲ請ヒ其名簿ニ登記セシメシ者ハ一月乃至一年ノ禁錮ト百フラン乃至千フランノ罰金トニ處ス○第三十二條刑ノ宣告又ハ分散ニ依テ投票スルノ權ヲ失ヒシ者其失權前ノ名簿ニ登記アリシコ因テ或ハ後ニ登記アリシコ因テ投票ヲ行ヒシ者ハ自ラ其所爲ニ加ハラサリシキト雖モ十五日乃至三月ノ禁錮ト二十フラン乃至五百フランノ罰金トニ處ス○第三十三條第三十一條ニ記載シタル二箇ノ最初ノ場合ニ於テ登記ヲ得又ハ僞リテ登記アル選舉人ノ姓名身分ヲ得取シテ選舉會ニ加ハリ投票ヲ行ヒシ者ハ六月乃至二年ノ禁錮ト二百フラン乃至二千フランノ罰金トニ處ス○第三十四條一回以上投票センカ爲メニ數所ニ於テ登記ヲナサシメ投票ヲ行フタル者ハ之ヲ同上ノ刑ニ處ス○第二選舉人ヲ恐怖セシムルノ所爲是レ第三十七條第三十九條及ヒ第四十條ニ記載スル所ナリ○第三十七條顯然タル兵器ヲ携フテ選舉會ニ入ル可カラズ其犯人ハ之ヲ十六フラン乃至百フランノ罰金ニ處ス兵器ヲ掩携セシ者ハ十五日乃至三月ノ禁錮ト五十フラン乃至三百フランノ罰金トニ處ス○第三十九條選舉人ニ對シテ暴行脅迫ヲ行ヒ其職務ヲ失ヒ或ハ其身體親族若クハ財産ニ害ヲ醸スノ恐レヲ抱カシメ又ハ選舉人ヲシテ投票ヲ止ムルヲ決定セシメ又ハ選舉人ニ己レノ適意ノ者ヲ投票セシメシ者ハ一月乃至一年ノ禁錮ト十フラン乃至千フランノ罰金トニ處ス若シ犯人ノ官更タルハ其刑ヲ二倍ス○第四十條新聞ニ詐僞ヲ記載シ誣罔ヲ傳ヒ又ハ其他ノ奸計ヲ以テ選舉ヲ昏迷シ又ハ選舉人ニ投票ヲ止ムルヲ決定セシメシ者ハ一月乃至一年

ノ禁錮ト百フランノ乃至二千フランノ罰金トニ處ス」○第三投票ヲ障礙シ又ハ投票筐ヲ侵スノ所爲是レ第四十五條第四十六條及ヒ第四十七條ニ記載スル所ナリ○第四十五條選舉人中ノ一人共會中ニ之ヲ管掌スル所ノ局ハ選舉人ノ一人ニ對シテ暴行或ハ誹謗ヲ行ヒ又ハ輕易ナル暴行或ハ脅迫ヲ行フテ投票ヲ障礙シ或ハ之ヲ遲滯セシメシキハ之ヲ一月乃至一年ノ禁錮ト百フラン乃至二千フランノ罰金トニ處ス若シ投票筐ヲ侵セシキハ之ヲ一年乃至五年ノ禁錮ト千フラン乃至五千フランノ罰金トニ處ス」○第四十六條票箋ノ入りタル筐ヲ奪取セシキハ既ニ官吏ノ之ヲ閉チ収メタルト未タ其閉チ収メサルトテ論セス其犯人ヲ同上ノ刑ニ處ス若シ暴行ヲ以テ且數人集合シテ同所爲ヲ行ヒシキハ其犯人ヲ懲役ノ刑ニ處ス」○第四十七條未タ閉チ収メサル票箋ヲ管掌スル所ノ官吏又ハ選舉人票箋ノ入りタル筐ヲ侵セシキハ之ヲ

懲役ノ刑ニ處ス」○同布令ノ第四十八條及ヒ第四十九條ハ治罪法第三百六十九條及ヒ刑法第四百六十三條ニ記載シタル重罪及ヒ輕罪ノ適施法ヲ記載ス第五十條ハ刑事ノ訴及ヒ民事ノ訴ノ期滿免除ノ期限ヲ選舉票數ノ公布ノ日ヨリ三月ニ減ス可キヲ記載ス

從第百二十四條
至第百二十二條

○第二款 人民ノ自由ヲ暴害スル罪

第九十號 逮捕ノ權○千八百九十一年九月三日ノ人權ノ布告ハ何人モ法律ニ記載シタル場合ニ於テ及ヒ法式ニ從フニ非ザレハ逮捕ヲ受クルコトナシ」ノ語辭ヲ記載セリ故ニ法律ニ記載シタル場合及ヒ法式外ニ逮捕ヲ施スコトハ自由ノ暴害ナリ是レ乃チ官吏ノ逮捕ヲ施スノ權ナリシテ之ヲ命シ又ハ其權アリト雖モ法律上ノ區域外ニ之ヲ施シ又ハ武官若シハ司法官ノ其威權ナシ又ハ法律ノ命スル所ナクシテ施セシキコト生スルモノナリ茲ニ述フル所ノ自由ノ暴害ハ官吏ノ擅權ヲ以

人民ノ自由ヲ暴害スル罪

テ施ス場合ノミコンテ平人ノ行ヒシ自由ノ暴害ハ後ニ刑法第三百四十一條以下ニ之ヲ記載ス然レモ茲ニ論スル所ノ擅權中第百十四條ヲ適施ス可キモノヲ指定スルハ一ノ困難ナリ

第百九十一號 逮捕ヲ命スルノ權ヲ有スル官吏ハ糾問判事、勸解判事、憲兵ノ士官、邑長、警部、警視長官及ヒ縣令ナリ但シ此官吏ノ威權同一ナラス糾問判事ハ充分ナル罪科ノ徵候アル重罪又ハ重キ輕罪ノ犯人ノ逮捕ヲ命スルノ權アリ檢事ハ左ノ三箇ノ場合ニ非サレハ逮捕ヲ命スルヲ得ス、第一施體又ハ加辱ノ刑ヲ適施スヘキ性質ヲ有スル所爲ノ現行犯アリシ治罪法第第二家屋内ニ於テ重罪又ハ輕罪ノ現行犯又ハ非現行犯アリテ該家ノ主人ヨリ逮捕ヲ請求セシ治罪法第三輕罪ニ罰スヘキ所爲ノ現行犯ニ因テ逮捕セラレタル犯人ヲ訟廷ニ誘引スヘキ千八百六十三年五月是ナリ勸解判事、憲兵ノ士官、邑長、邑長副及

ヒ警部ハ治罪法第四十條及ヒ第四十六條ニ記載シタル二箇ノ場合ニ非サレハ犯人ヲ逮捕スルヲ得ス又巴勒ニ於テハ警視長官、諸縣ニ於テハ縣令ハ一般ノ安寧ニ關スル重罪ノ現行犯人ニシテ至急逮捕スルヲ要スル治罪法ハ逮捕ヲ命スルヲ得ヘシ此最終ノ規則ハ治罪法ノ第十條ヨリ生スルヲ得可キモノナリ刑法理論第五百三十九號及ヒ治罪法理論第五百二十九號參觀第百九十二號 行政官吏ハ或ル場合ニ於テ逮捕ヲ命スルノ權ヲ施行スルヲ得ヘシ概シテ人民ノ自由ヲ障礙スルノ權ハ絶テ行政官吏ニ屬セズ法律ニ定メタル場合及ヒ區域ヲ以テ司法官ニノミ屬ス故ニ治罪法第六百九條ニ記載スル所ノ如何ナル監守人ト雖モ法式ニ協フタル拘留狀或ハ収監狀又ハ被告人ヲ重罪裁判所ニ移スノ宣告書又ハ施體若クハ禁錮ノ刑ニ處スルノ宣告書ニ據リ且之ヲ簿冊ニ登記シタルニ非サレハ人ヲ收受シ又ハ拘留ス可カラスト云フ規則ハ上ノ概則ヨ

人民ノ自由ヲ暴害スル罪

リ生セシモノナリ之ニ由テ之ヲ觀レハ行政官吏ノ命ニ依テ施シタル
 拘留ハ隨意ノ拘留ナリ然レモ治罪法第六百九條ノ犯則ヲ罰スル所ノ
 刑法第二百十條ハ監守人ニ政府ノ假命令ヲ以テ囚人ヲ収受スルヲ允
 許ス初メ治罪法編成ノ際ニ於テ行政官ニ警察吏ヲ以テ逮捕スルノ權
 ナ託セシカ當今ハ之ヲ允許セス共和第八年三月二十二日ノ法第四十
 六條共和第七年八月二十二日ノ法第四十
 院決議第六十條千八百二十年三月三日千八百十五年三月
 月二十九日及ヒ千八百二十年三月二十六日ノ布令但シ行政官ハ逃
 亡ノ犯人兵卒及ヒ乞丐ヲ逮捕スルヲ得ヘシト雖モ逃亡ノ犯人及ヒ兵
 卒ノ逮捕ハ即チ裁判ノ執行及ヒ現行犯罪ノ場合ニ過キス乞丐ノ逮捕
 ハ裁判所又ハ裁判ニ依テ定メタル獄舎ニ之ヲ誘引スルノ處置ニ過キ
 サルナリ行政官ハ尙ホ一般ノ安寧ノ爲メニ必要ナル際ニ於テハ通行
 印鑑ヲ有セサル旅人共和第十三年八月十四日ノ法第九條及ヒ第十條千八
 百二十三年三月三十一日ノ及ヒ佛蘭西ノ内地ヲ旅行スル外國人
 共和第十五年
 五月十四日及ヒ佛蘭西ノ内地ヲ旅行スル外國人
 共和第十五年

第二條及ヒ千八百四十九年五月三日ノ法ヲ逮捕スルヲ得ヘシ
 第百九十三號 又逮捕ノ命アリタルキニ於テ之ヲ施スノ權ヲ有スル
 官吏ハ使吏、憲兵、田野及ヒ森林ノ監守人及ヒ格別ノ場合ニ於テ勸解裁
 判所ノ官吏是ナリ裁判所ノ命ヲ施行スルノ任ヲ帶フ所ノ使吏及ヒ憲
 兵ハ法律ノ許ス場合ニ於テ且法律ニ記載スル法式ニ從テ逮捕ヲ施ス
 ト雖モ命令狀又ハ裁判宣告書ヲ以テ管轄ノ官ヨリ請求アリタルキニ
 非サレハ其處置ヲ下タス能ハザルノ責アリ田野及ヒ森林ノ監守人モ
 亦逮捕ヲ施スノ權ヲ有スト雖モ法律上ノ請求ナキ際ニ於テハ禁錮又
 ハ其以上ノ刑ヲ適施スヘキ罪ノ現行犯アリタルカ又ハ人ノ追呼アリ
 タルキニ非サレハ其權ヲ施ス能ハス治罪法第六條千八百五十四年
 三月一日ノ布令第百七十一條
 及ヒ千八百六十三年五月
 月二十日ノ法第一條逮捕ヲ施スノ權ハ此終リノ場合ニ於テハ平人
 之ヲ行フヲ得ヘシト雖モ治罪法第六條之ヲ施スノ職務ヲ有スル者ト異ナ

人民ノ自由ヲ侵害スル罪

リテ其逮捕ニ付應援ヲ請求スルヲ得サルノ責アリ共和第四年八月二十三日ノ法ノ第三條ハ巴勒ニ在ル勸解裁判所ノ官吏ニ犯人ヲ逮捕スルノ權ヲ附與セシカ故ニ命令及ヒ裁判ヲ行フノ權モ亦是ヨリ生スルナリ而シテ此權ハ決シテ警察官ニ屬セサルモノナリ

第百九十四號 管轄ニ非カル官吏ノ命ヲ履踐スルカ又ハ法律ニ定メタル場合外カ又ハ法律上ノ法式ニ依ラスシテ逮捕ヲ施セシキハ此隨意ノ所爲ハ第百十四條ノ罰則中ニ入ル是レ前號ノ規則ヨリ生スルモノナリ但シ第百十四條ニ從テ罰ヲ該シニハ抑壓スルノ意ヲ以テ逮捕ヲ施セシキヲ要ス此意思ハ即チ其所爲ニ重罪ノ性質ヲ附與スルモノナリ而シテ裁判官ノ適法ノ威權ノ施行中ニ行フ所ノ擅權ト逮捕ノ不適法トヲ混淆ス可カラス逮捕ノ不適法即チ隨意ノ逮捕トハ威權ノ欠缺即チ威權ヲ有スル裁判シタルト又ハ法律上ノ區域外ニ威權ヲ施シタ

ルチ云フ第百十四條ノ規則中ニハ犯人ニ損害ヲ醸シタル隨意若クハ不適法ノ總テノ所爲及ヒ官吏若クハ其受託人ノ人民ノ公權施行ニ關シテ施シタル總テノ障礙ヲ列セサルヲ得タルナリ刑法理論第五百四十號參觀

第百九十五號 第百十四條ノ第二項ハ隨意ノ所爲ニ付有罪ナル官吏ノ爲メニ施スヘキ宥恕ノ場合ヲ舉ク此宥恕即チ寧ロ無罪ハ上官ノ命令ニ原因ス總テ上官ノ命令ニ因テ不適法ノ所爲ヲ施シタルト雖モ一次訴ヲ受ク然レモ其上官ノ命令ニ因テ施行シタルトテ證スルキハ全ク其罪ヲ論セサル可シ但シ其命令ハ犯人ノ順從スヘキ上官ヨリ出テ且上官ノ施スヲ得ヘキ職務タルトテ要ス故ニ上官ノ權内ニ入ラサル所爲又ハ直接ニ犯人ニ對シテ權ヲ有セサル者ノ命令ヲ執行セシ犯人ハ決シテ免除ヲ得ル能ハス例ヘハ郡長又ハ武官ヨリ警部ニ逮捕ヲ命スル如キ是ナリ總テ命令ニ付テハ豫メ命令狀ヲ得タルヲ要シ後ニ

得タル證ハ免除ヲ得ルノ手段タルヲ得サルナリ

第九十六號 第十四條ニ記載スル所ノ暴害ハ卿ヨリ出テタル命令ノ執行ナリ 第十五條第十六條及ヒ第十八條ミニストルハ卿ノ訴ヲ受クヘキ場合ヲ記載ス 第十五條ニ再置シタル共和十二年八月二十八日ノ元老院布令ノ第六十三條及ヒ第六十七條ハ元老院ノ一課タル人民自由係委員ノノ存在スルトニ設置シタルモノニシテ本課ハ其後廢止ニ屬セシカ故ニ當今ハ元老院ノ召喚ニ順從セサルヲハ重罪ノ一原素ヲナス即チ第十五條ヲ適施センニハ卿カ人民ヨリ出シタル請願ニシテ其許可ス可キモノヲ拒絶セシノ一事ヲ以テ足レリトス 第十六條ハ卿ハ勿論其他ノ官吏ノ請求スルヲ得ヘキ宥恕ノ所爲ヲ記載ス是レ其手署ノ他人ノ偽造ニ出テタル場合ナリ 第十八條ハ格段ナル重罪即チ犯人カ卿又ハ其他ノ官吏ノ手署ヲ偽造シ之ニ由テ隨

意ノ所爲ヲ行フタル場合ヲ記載ス此重罪ハ犯人カ官吏ノ手署ヲ贋造スルカ又ハ其贋造タルヲ知リテ之ヲ用井而シ之ニ由テ第十四條ニ記載スル所ノ憲法ニ反シタル諸種ノ暴害ヲ行フタルトニ非サレハ成立セサルナリ 第十八條ハ官吏平人ヲ論セス總テノ犯人ニ適當シ而シテ此條ニ記載スル所ノ格段ナル罰則ハ第九十八條ト附合ス可キモノニ非カルナリ

第九十七號 賠償○第十七條ハ隨意ノ所爲ノ被害者ニ許ス所ノ賠償ヲ規定ス此賠償ノ高ハ勿論人ノ身分場合又損害ノ多寡ニ依テ之ヲ定ムト雖モ如何ナル場合如何ナル損害ニ於ケルモ又如何ナル人ニ對シテモ拘留一日ニ付二十五「フラン」以上タルヲ得ス此賠償ノ原因タルモノハ唯隨意ノ所爲ノミ而シ其額ノ多寡ハ重罪裁判所ニ於テ之ヲ判定ス何トナレハ民事ノ訴ヲ爲サ、ル際ニ於テハ其訴ハ重罪ノ件ナ

レハナリ

第百九十八號 不○適○法○ノ○拘○留○ノ○告○訴○
 ○第百十九條ハ拘留所又ハ其他
 ノ場所ニ於テ不適法且隨意ノ拘留ヲ受ケタルコトヲ證スル告訴ヲ受ケ
 而シ其告訴ヲ法律上ノ請求トナスヲ拒ミ或ハ之ヲ怠リ且其告訴ノ旨
 ナキ其長官ニ報告シタルノ證ナキ行政又ハ司法警察ノ官吏ヲ剝奪公權
 ノ刑ニ處シ且第百十七條ニ規定スル所ノ賠償ヲ命ス故ニ該條ハ不適
 法ノ拘留ヲ直チニ制止セサル官吏ヲ罰セス何トナレハ警察官吏ハ拘
 留ヲ制止スルノ義務ヲケレハナリ只不適法ノ拘留ヲ受ケタルコトヲ證
 スル告訴ヲ受ケ而シ其告訴ヲ法律上ノ請求トナスヲ拒ミ或ハ之ヲ怠
 リ且ツ上官ニ告訴ノ旨ヲ報告シタルノ證ナキ官吏ヲ罰スルニ止マル
 ナリ不適法ニ拘留セラレタル者ニ自由ヲ與フルノ權ヲ糾問判事、勸解
 判事及ヒ檢事ニ附スル所ノ治罪法第六百十五條及ヒ第六百十六條ハ
 拘留所ニ非サル場所ニ拘留ヲ行フタル場合ニハ適當セス第百十條ニ
 論スル所ノ官吏ノ怠リアリトセンニハ他ヨリ法律上ノ請求アリタル
 コトヲ要ス而シ法律上ノ請求ノ性質ヲ得ンニハ不適法ノ所爲ヲ告訴ス
 ル請求ヲ官吏ノ知リタルコトヲ以テ足レリトス而シ告訴ヲ受クヘキ長
 官ハ不適法ノ所爲アリヤ否ヲ判定スルノ任アル管轄ノ官吏ニ訴狀
 ナ送附セサルヲ得ス然レモ責ニ任スヘキ者ハ最初ニ請求ヲ受ケタル
 警察官ノミ
 第百九十九號 法○上○ノ○法○式○ヲ○犯○ス○
 ○第二十條ハ三箇ノ相ヒ異リ
 タル所爲ヲ記載ス、第一命令狀又ハ裁判宣告書ナリ人ヲ拘留セシコト、第
 二監守人ノ警察官ニ拘留人ヲ顯示スルヲ肯セサルコト、第三獄舎ノ簿冊
 ナ顯示スルヲ肯セサルコト是ナリ此第一ノ場合ハ既ニ第百九十號ニ於
 テ論セシ如ク治罪法第六百九條ニ關係ス命令狀又ハ宣告書ノ不整ハ

監守人ノ罪ヲ構造スルニ足レリトセズ蓋シ監守人及ヒ門監ハ其狀書ノ整否ヲ調査スルヲ得サレハナリ然レモ其狀書ヲ出スノ任アル官吏ヨリ出テシヤ否ヤヲ確認スルノ義務アリ拘留ヲ正當ノモノトナス可キ命令ハ獨リ監守狀及ヒ拘留狀ノミニシテ誘引狀ハ逮捕ヲナスノ假命令ニ過キサルカ故ニ之ニ由テ施シタル拘留ハ正當ノモノニ非サルナリ千八百四十年四月四日ノ判決 第二ノ場合ハ共和第八年三月二十二日ノ憲法ノ第七十九條及ヒ第八十條ト治罪法第六百十八條トノ罰則ナリ此數條ハ監守人ヲシテ警察官又ハ該官ノ免狀ヲ有スル拘留人ノ親族又ハ朋友ニ拘留人ヲ顯示セシム可キヲ記載ス此監守人ノ義務ハ法律上交通ヲ禁止スルキニ非サレハ停止スルコトナシ第三ノ場合ハ獄舎ノ簿冊ノ顯示ヲ記載ス前ニ述ヘタル共和第八年ノ憲法ノ第七十八條ニ依テ制定シタル該簿冊ハ裁判宣告書ト逮捕ノ命令狀トヲ記載ス可キモノナリ第二百二十條ノ第三項ハ管轄ノ官吏ヲシテ之ヲ檢視スルヲ目的トスルカ故ニ監守人若シ其顯示ヲ肯セサルハ之ヲ罰ス然レモ若シ其保存ノ法式ニ悖リタルキハ唯之ニ獄則ヲ該ツルノミ

第二百號 第二百二十二條ハ法律上ノ法式ニ付二箇ノ悖戻ヲ記載ス第一官吏ノ命ニ依テ拘留ノ場所外ニ拘留スルコト第二法律上ノ訴ヲ受ケサル人民ヲ重罪裁判所ニ送附スルコト是ナリ拘留ノ場所トハ拘留所、縣ノ懲治所、下等裁判所屬ノ囚獄、重罪裁判所屬ノ囚獄、植民地ノ囚獄、邑警察拘留所、憲兵屬ノ拘留所ナリ故ニ其他ノ場所ニ拘留ヲ施シ而シ其必要ナリシコトヲ證スルヲ得サルキハ即チ重罪ヲ構造ス治罪法第二百七十一條ノ罰則ナル第二ノ場合ハ當今迄之ヲ適施セズ但シ千八百四十九年七月二十七日及ヒ千八百七十一年四月十五日ノ法ハ出版ニ關スル犯罪ノ際ニ限り犯人ヲ直チニ重罪裁判所ニ誘引スルノ權ヲ檢事ニ

附與セリ

第二百一號 訴ヲナスノ允許ヲ得ル。○共和第八年三月二十二日ノ
 憲法ハ第六十九條ニ於テ元老院、立法院(即チ國會)及ヒ參議院ノ議員ハ
 職務上責ニ任スルヲナキ旨ヲ舉ケタル後第七十條ニ於テ元老院立法
 院及ヒ參議院議員ノ犯シタル施體又ハ加辱ノ刑ヲ該ツヘキ一身上ノ
 罪ハ其犯人ノ屬スル院ノ決議ニ因テ訴ヲナスヲ允許シタル後ニ非サ
 レハ尋常裁判所ニ訴フ可カラサルヲ記載シ又第七十一條ニ於テ施
 體又ハ加辱ノ刑ヲ該ツヘキ私罪ヲ犯シタル卿ニ付テハ參議院議員ト
 同一ノ處置ヲ施スヘシト記載セリ。第二百一十一條ハ上ノ數條ノ刑ヲ記
 載ス但シ該條ノ刑ヲ適施セシニハ左ノ箇條ニ注目スヘシ。第一該條ハ
 允許ヲ得サル前ニ人ヲ搜索スルヲ禁止スルヲ但シ犯罪ノ物件ニ關ス
 ル證據ヲ搜索スルハ障礙ナシトス。第二現行犯又ハ追呼ニ因テ訴フル

キハ例外タルヲ此際ニ於テハ法律ニ記載シタル允許ヲ俟タスシテ逮
 捕ヲ命スルヲ得。第三允許ノ請求書中ニ指定シタル人ノ私ノ所爲ニノ
 關シ其職務上ノ所爲ニ關セサルヲ是ナリ

從第二百二十三
 條至第二百二十
 六條

○第三款 官吏通謀ノ罪

第二百二號 今日迄絶テ適施ナキ第二百二十三條、第二百二十四條、第二百
 十五條及ヒ第二百二十六條ハ法律ニ反シタル處置ノ施行ヲ議センカ爲
 メヲナシタル官吏ノ通謀ヲ記載ス。第二百二十三條ハ法律ニ反シタル處
 置ノ會議ヲ有罪トス。玆ニ云フ所ノ會議トハ不合法ノ處置ニ付テノ共
 同ノ目的ヲ達センカ爲メニ數人間ニ議定シタル所ノ計畫ヲ云フ。而シテ
 通謀者ノ間ニ定メタル此計畫トハ集會又ハ交通ヲ指ス。故ニ該條ヲ適
 施センニハ數所ニ於テ偶然ニ不合法ノ處置ヲ施セシヲ以テ足レリト
 セス。必ス有罪ノ會議即チ通謀アリタルヲ要スルナリ

官吏通謀ノ罪

第二百三號 通謀ニ付刑ヲ加重スヘキ場合三アリ此場合ハ通謀ニ重罪ノ性質ヲ附與ス第一ノ場合ハ會議カ法律ノ執行又ハ政府ノ命令ニ反シタル處置ヲ目的トスルキナリ第四百二條茲ニ云フ所ノ命令トハ行政權ノ名ニ於テ卿ヨリ出シタル命令ヲ云フナリ第二ノ場合ハ文官ト兵隊若シハ其指揮官トノ間ニ會議ヲナセシキナリ第三ノ場合ハ國ノ内
部ノ安寧ヲ害スル陰謀ヲ目的トスルカ又ハ同一ノ効ヲ生スヘキ會議
ヲナセシキナリ第五百二條此最終ノ場合ハ不明瞭ナル條文ニ由テ解釋ヲ下タスルハ陰謀ヲナスノ議決又ハ其議決ニ至ラシメノカ爲メニ施シタル處置ノ會議ノ義ナリト雖モ到底此如キ際ニ於テ法律ヲ適施スルハ困難ナリ第二百二十四條及ヒ第二百五條ハ最初ノ加重ニ付追放ノ刑ヲ適施シ第二ノ加重ニ付流刑ヲ適施シ第三ノ加重ニ付テハ始メテ死刑ヲ適施スルノ法ナリシカ當今ハ案内ノ流刑ヲ以テ之ニ代ヘタリ以

上ノ無用ナル規則ハ佛蘭西刑法ヲ整頓セントスルノ精神ヨリ出テタルモノタルヲ表スルニ過キサルナリ

第二百四號 第二百二十六條ハ同罪ノ最終ノ場合ヲ記載ス即チ官吏其辭職ニ依テ裁判ノ執行又ハ公務ノ成就ヲ障礙シ又ハ阻止セシムルノ効ヲ生スヘキ議事ニ由テ其辭職スルヲ決定セシメ是ナリ此場合ニ於テ重罪ヲ構成スルモノハ辭職ヲナスノ議事ナリ是レ前條ニ於テ決定ノミチ重罪トセシト同一ナリ但シ辭職ノ法律ニ記載スル所ノ効ヲ生ス可キモノタリシヲ要スルナリ

從第二百二十七條至第三百一十一條

○第四款 行政權又ハ司法權ノ他權ヲ冒侵スルノ罪

第二百五號 司法權ノ立法權ヲ冒侵スルヲ○第二百二十七條第二百二十八條及ヒ第二百二十九條ハ司法權カ立法權ノ施行スヘキ事柄又ハ行政權ニ歸シタル事柄ニ干涉スルノ所爲ヲ定メ且之ヲ制止スルヲ目的ト

行政權又ハ司法權ノ他權ヲ冒侵スル罪

第二百二十七條ノ第一項ハ此冒侵ノ一ヲ記載シ「立法上ノ規則ヲ制定シ法律ノ施行ヲ障礙或ハ阻止シ又ハ法律ノ公告若クハ執行ニ付可否ヲ議シテ立法權ノ施行ニ干涉セシ裁判官、檢事、警察官」ヲ職務冒瀆ノ罪アリト爲シ剝奪公權ノ刑ニ處ス此規則ハ以前ノ高等法院ノ企圖ヲ追念シテ設置シタルモノナルカ故ニ當今ノ政體ニ於テハ其用ナク又其用ナキヲ要スルナリ

第二百六號 第二百二十七條ノ第二項ハ司法權ノ行政權ヲ冒侵スルヲ記載ス此司法權ト行政權トヲ分別スルノ趣旨ハ千七百九十年八月十六日及ヒ二十四日ノ法律ニ之ヲ記載ス其第二卷第十三條ニ曰ク「司法ノ職務ハ行政ノ職務ト格別ニシテ常ニ之ヲ分離ス裁判官ハ職務冒瀆ノ罪ヲ犯スニ非サレハ如何ナル方法ニ由ルモ行政官ノ施行ヲ障礙スルヲ得スト是レ第二百二十七條ニ依テ維持セシメテ希望シ且總テノ

憲法中ニ設置セシ所ノ要領ナリ千七百九十一年九月三日ノ憲法第四日ノ憲法第八十九條及ヒ共和第八條故ニ左ノ場合ニ於テハ司法權ハ職務冒瀆ノ罪ヲ犯セシモノナリ即チ行政上ノ事柄ニ關スル規則ヲ制定セシキ行政權ノ命令ヲ施行スルヲ禁止セシキ行政官吏ノ職務上ノ事ニ付該官吏ヲ裁判所ニ呼出ス可キコトヲ原告人ニ許シ或ハ之ヲ命セシキ裁判ヲ取消スヘキノ命ヲ受ケ或ハ其訴ヲ受理スルノ權ナキ旨ノ告知ヲ得ルニ拘ハラス其裁判ヲ執行セシキ是ナリ以上明瞭ニ冒侵ノ第一ノ種々ノ方法ヲ指定シ亦困難ナル場合ナシト雖モ裁判官ハ如何ナル場合ニ於テハ權限ノ爭ニ付裁判ヲ停止ス可キヤヲ確定スルハ必要ノコナリ

第二百七號 此事項ニ關スル要領ハ常律ヲ以テ支配スヘキ訴訟事件ニ付テハ司法權ニ於テ施ス裁判權ノ完全ナルコト行政裁判權ノ例外ヲ

行政權又ハ司法權ノ他ヲ冒侵スル罪

ルヲ及ヒ一般ノ秩序ノ爲メニ此例外ヲ重ニスルヲ要スルキハ其狭小ナル區域内ニ之ヲ制限スルニ及ハサルヲ是ナリ是レ下ノ千八百二十八年六月一日ノ命令ニ記載スル所ノ要領ナリ○第一條「後來重罪ノ件ニ關シテ裁判所ト行政權トノ間ニ權限ノ爭ヲ生セサルヘシ」第二條「輕罪ノ件ニ關シテハ左ノ二箇ノ場合ニ於ケルノ外權限ノ爭ヲ生セサルヘシ」第一法律ノ規則ニ因テ行政權ニ輕罪ヲ制止スル權ノ歸スルキ第二裁判所ニ於テ施スヘキ裁判ノ法律ノ規則ニ從テ行政權ニ於テ調査スヘキ損失ノ件ニ跨ルキ此第二ノ場合ニ於テハ權限ノ爭ハ損失ノ件ニ關スルノ外生セサル可シ」行政裁判權ニ屬スルヲ以テ參議院ニ於テ裁判スヘキ犯罪第一條ノ場合第二條ノ場合ハ運送警察ノ犯罪、邑道ノ侵領及ヒ共和第十年八月二十九日ノ法ニ記載スル所ノ大道取締ニ關スル犯罪ナリ而シテ損失ノ件第二條ノ場合トハ例ヘハ魚獵、森林、河川航行又ハ伐木等ノ規則ノ

犯罪ノ如ク刑法ノ適施ト行政權ニ於テ調査スヘキ犯罪ノ所爲ト相干渉スルキヲ云フナリ以上ノ規則ニ因テ此如ク權限ノ爭ヲ生スルヲ得ヘキ場合ヲ限リシカ故ニ第二百二十七條ノ區域ハ實ニ狭小ナリ
第二百八號 以上ノ制限ハ亦第二百二十八條ノ適施ニ之ヲ適用ス權限ノ爭ノ規則ニ適順スルキ即チ千八百二十八年六月一日ノ命令ニ記載シタル場合ニ因テ生シ其第六條及ヒ第十五條ニ定メタル期限及ヒ法式ニ適フキハ裁判官ハ其爭ヲ指シテ行政權ヨリ不法ニ起シタルモノナリト陳述スルヲ得スト雖モ若シ規則ニ定ル場合ノ外又ハ期限ノ經過後ニ行政權ヨリ爭ヲ始メタルキハ其異議ニ拘ハラス裁判ヲ執行スルヲ得ヘシ故ニ第二百二十八條ハ裁判官カ規則ニ從テ生シタル爭ヲ顧ミスシテ裁判ヲ執行シタル場合ニ非サレハ適當セサルナリ

第二百九號 第二百二十九條ハ共和第八年三月二十二日ノ憲法第七十

行政權又ハ司法權ノ他權ヲ冒侵スル罪

五條ノ刑罰ヲ記載スルヲ目的トス第七十五條ニ從ヘハ司法權ハ審判ノ終リタル民事又ハ刑事ニ付キ參議院ノ允許ヲ得サレハ官吏ヲ裁判所ニ召喚シ又ハ之ヲ訴フルヲ許サス然レモ此允許ハ民事ニ付テハ官吏ノ職務ニ關シテ召喚スルハ非サレハ要セス又刑事ニ付テハ其職務ニ關シテ又ハ其施行中ニ犯罪アリタルハ非サレハ要セサルナリ判決例ニ於テハ久シク允許ナクシテ訴ヲ起シタル場合ニ於テ爭ヲ生ス可キヲ許セシカ千八百二十八年六月一日ノ命令ノ第三條ヲ以テ允許ノ欠缺ハ後來爭ヲ生スルノ原因タル可カラズ唯犯人ノ證擧セントスル一身上ノ抵拒ヲ生スルノミタルヲ決定メタリ然レモ千八百七十年九月十九日ノ布令第一條ヲ以テ共和第八年ノ憲法第七十五條ヲ廢止セシカ故ニ第二百二十九條ハ當今適施ナキモノ、如シ之ニ由テ之ヲ觀レハ政府ノ官吏ハ常律ノ管理ヲ受ケ其職務ニ關スル所爲ニ付テ

モ尋常裁判所ノ裁判ヲ受ク可キナリ

第二百十號 千八百七十年九月十九日ノ法ハ第二項ニ於テ總テノ階級ニ於ケル官吏ニ對スル訴ヲ障礙スルヲ目的スル所ノ一般又ハ格別ノ法ノ規則ハ總テ均シク之ヲ廢止スヘキ旨ヲ附記セリ此規則トハ第一共和第八年二月二十二日ノ憲法制定前ニ行政官ノ職務上ノ付裁判所ニ召喚スルヲ裁判官ニ禁スル所ノ法千七百九十年八月十六日第十三條及ヒ共和第十年十二月十六日ノ布令第二諸官衙ニ其官吏ヲ裁判所ニ召喚スルヲ允許スルノ權ヲ附與スル所ノ共和第十一年五月九日共和第十一年五月二十八日及ヒ同年十一月二十九日ノ行政權決議及ヒ千八百二十七年八月一日ノ命令ヲ指シ治罪法第四百七十九條以下及ヒ裁判官或ハ高等ノ官吏ヲ訴フルニ付テ法式ヲ規定スル所ノ千八百十年四月二十日ノ法ノ第二十條ハ廢止セラレタル規則中ニ入ラスシテ當今行ハル、

行政權又ハ司法權ノ他ヲ冒侵スル罪

モノナリ千八百七十一年九月十四日判決

第二百十一號 第三百十條及ヒ第三百十一條ハ行政權ノ立法權及ヒ司法權ニ於ケル冒侵ヲ記載セスト雖モ第二百二十七條及ヒ第二百二十八條ト關係スル所ノ此二條ハ其適施ノ甚ク困難ナルヲ以テ絶テ其場合ヲ生セサルモノトス

○第三章 公ケノ靜謐ニ對スル重罪及ヒ輕罪

○第一款 偽造ノ罪

○第一節 貨幣偽造ノ罪

從第三百三十二條至第三百三十八條

第二百十二號 貨幣ノ贋造ハ偽造ヲ以テ行フタル竊盜ニシテ其變造ハ輕易ノ竊盜又其假粧ハ拘摸ノ所爲ナリ以上數種ノ所爲ハ皆眞ニ詭欺ノ性質ヲ有スルモノニシテ以前ハ之ニ過度ノ嚴罰ヲ該テシカ千八百三十二年四月二十八日及ヒ千八百六十三年五月十三日ノ法律ハ以

前ノ規則ヲ改定シ適度ノ罰則ヲ定メタリ即チ以上二法ニ因テ改定ニ屬シタル當今ノ刑法ハ金銀貨幣ノ贋造、銅貨（ビヨン）一種ノ贋造、外國貨幣ノ贋造、佛國ニ其輸入、贋造貨幣ノ行使、銅銀貨ノ假粧及ヒ好質ト思フテ領受シタル贋造貨幣ノ行使ノ所爲ヲ區別シ之ヲ諸種ノ刑ニ罰ス
第二百十三號 貨幣ノ贋造○第三百三十二條第一項ニ依テ罰スル所ノ第一ノ所爲ハ佛蘭西ニ於テ法律上通用スル金銀貨幣ノ贋造ナリ贋造トハ不正ノ意思ヲ以テ法律上ノ貨幣ヲ摸造スルノ所爲ヲ云フナリ此金銀貨幣贋造ニ付重罪ヲ構造セシコハ左ノ三條件ノ具備スルヲ要ス、
第一贋造者重罪ヲ犯スノ目的ヲ以テ贋造ヲ行ヒシコ、第二偽造シタル貨幣ノ眞貨ニ摸擬シタルモノタルコ、第三其摸造シタル貨幣ノ佛蘭西ニ於テ法律上通用ス可キモノタルコ是ナリ
第二百十四號 不正ノ意思○此意思ハ總テノ重罪ニ通シ用フベキ必

貨幣偽造ノ罪

要ナル原素ナリト雖モ茲ニハ格別ノ性質ヲ有ス概シテ不正ノ意思ハ贋造シタル貨幣ノ行使又ハ行使スルヲ目的トシテ贋造シタルノ證據ニ依テ顯ハル、モノナリ而シテ世上ニ實際害ヲ醸セシト否トチ區別スルコ及ハズ故ニ法意ニ從ヘハ贋造者カ他人ノ信用ヲ害セント欲セシキハ勿論通用ノ貨幣ニ均シキ名稱及ヒ度量ヲ以テ貨幣ヲ製造シテ貨幣鑄造ノ權及ヒ其利益ヲ政府ヨリ占取スルニ止マルキモ亦重罪ヲ犯スノ意思アリトス、行使スルノ意思ナク唯巧術ヲ表スルヲ目的トシテ貨幣ヲ摸造セシキハ不正ノ意思ナク隨テ亦罪科ナキナリ

第二百十五號 貨幣ノ摸造○貨幣ノ摸造アリトセンニハ偽造シタル貨幣ノ真貨ニ摸造シ外見整備シテ通用ノ爲メニ殆ント支障ナキモソタルヲ要ス而シテ其摸擬ノ不整備ハ酌量減輕ノ原因タルヲ得ヘシト雖モ決シテ罪科ヲ消滅セズ然レモ其粗喪ナル摸擬ニ過キサルキハ世上ニ害ナキカ故ニ復重罪ヲナサ、ルナリ千八百三十五年八月二十二日及判決而シテ以上ノ摸擬ノ等級ヲ定ムルハ陪審會ノ權内ニ在リ故ニ陪審會ニ於テ贋造アリトシテ起訴ヲ允許セシキハ贋造者ヨリ其粗喪ノ摸擬タルヲ破毀院ニ上告スルヲ得サルナリ

第二百十六號 法律上ノ通用○偽造ニ關スル重罪ヲ構造スル第三ノ條件ハ贋造シタル貨幣ノ佛蘭西ニ於テ法律上通用ス可キモノタルヲナリ法律上ノ通用トハ必ズ通用ス可キモノヲ云フ故ニ摸擬シタル貨幣ノ國ノ通貨中ノ一タルヲ要シ慣習ニ依テ用フル貨幣、法律上ノ通用ナキ貨幣又ハ價額ヲ失フタル貨幣ノ贋造ハ重輕罪ヲ構造セサルナリ千八百二十九年六月十四日ノ法ハ舊貨幣ハ當今其定規ノ價額ヲ以テ必ズ通用ス可キモノニ非サル旨ヲ布告セシカ故ニ舊貨幣ハ法律上ノ通用ナク亦其偽造ニ付第三百三十二條ヲ適施スル能ハサルナリ如此

キ舊貨幣ハ唯其度量ニ從ヒ打歩ヲ以テ授受スル所ノ變性シタル貨幣ニ過サルナリ 共和第十一年三月十四日ノ法及ヒ同年十二月六日ノ判決所ノ而、其法律上通用ス可キモノタルト否トハ亦陪審會ノ判定陳述スル所ニ係ル 千八百四十六年八月三十日千八百五十九年八月十一日及ヒ千八百六十二年九月四日ノ判決 ○以上ノ三原素ハ貨幣偽造ノ重罪ノ構造及第三百十二條ノ適施ニ付必要ナルモノナリ

第二百十七號 貨幣ノ變造○法律ハ貨幣ノ變造ヲ贋造ト併ヘ論ス貨幣ノ變造トハ其當然ノ價額ヲ減シ其本質又ハ度量ヲ變更スルヲ云フ此變造ハ彫刻小刀或ハ舍密機械ノ使用又ハ其他ノ方法ヲ以テ施スヲ得可キモノナリ此種ノ重罪ヲ構造センニハ唯貨幣變造ノ所爲アリシ一事ヲ以テ足レリトセス其貨幣ノ法律上通用ス可キモノタルト犯人カ不正ノ意思ヲ以テ變造ヲ施セシトトテ要スルナリ故ニ變造シタル貨幣ヲ通常ノ貨額ニ通用セシメサルハ罰ス可キ變造ヲ構造セサルナリ

第二百十八號 行使○贋造シタル貨幣ノ行使、展示及ヒ輸入ハ其製造人自ラ之ヲ行ヒシキハ重罪ノ所爲ナリ若シ他人ノ此正犯者ト一致シテ行ヒシキハ從犯ナリ行使トハ贋造ノ所爲ト異ナリテ 千八百五十六年五月二十五日ノ判決贋造又ハ變造シタル貨幣ヲ通用スルヲ云フ此場合タル是レ行使ヲ有罪トスルノ必要ナル原素ナリ 千八百二十五年四月八日ノ判決 第二百十九號 然レモ偽造シタル貨幣ノ行使ハ宥恕減輕又ハ無罪ノ原因タルヘシ即チ左ノ二箇ノ場合ニ於テハ無罪ナリ、第一貨幣ノ瑕瑾ヲ知ラサル者ノ之ヲ行使セシキ 第三百六條第二好質ノ貨幣ト信シテ領収シ其瑕瑾ヲ知リタル後檢査ヲ爲サスシテ通用セシキ 第三百三十五又左ノ場合ニ於テハ宥恕減輕ヲ得ヘシ即チ好質ノ貨幣ト信シテ領収シ其

貨幣偽造ノ罪

カ又ハ其瑕瑾ヲ検査シタル後若クハ前ニ展示ヲ行ヒシキハ例外ノ場
 合アルコトヲ固執スルヲ得ヘキハ論ヲ俟タサルナリ然レモ展示者贗造
 物ト信シテ製造者又ハ其他ノ者ヨリ領収セシキハ之ヲ從犯者ト推測
 スルカ故ニ此推測ヲ免カレンニハ展示者ヨリ先ツ其從犯者ニ非サル
 旨ヲ證舉セサルヲ得サルナリ千八百六十年七月五日ノ判決○刑法理論第
 五百九十三號參觀

第二百二十一號 輸入○贗造又ハ變造シクル貨幣ヲ佛蘭西ニ輸入ス
 ルコトハ均シク第三百三十二條ニ因テ之ヲ從犯ノ所爲ト看做ス可シ然レ
 モ此所爲ハ行使ノ豫備ノ所爲ニ過キサルモノナレハ重罪ヲ構造セン
 ヲハ製造者ト此輸入者トノ間ニ結社ノ如キモノアリシヤ否ヤヲ判定
 シ而シテ少クモ輸入者贗造ノ貨幣タリシコトヲ知リシカ又ハ行使ノ目的
 ナリテ輸入セシカヲ要スヘシ但シ破毀院ニ於テ第三百三十五條ノ第二

項ニ記載スル所ノ宥恕ハ行使ノ場合ニ於ケルカ如ク贗造貨幣ノ輸入
 及ヒ展示ニ適當ス可キコトヲ決定セリ蓋シ行使ノ場合ニ於テノミ好質
 ノ貨幣ト信シテ領収シタル旨ヲ陳ヘ宥恕ヲ申立ツルヲ許シ而シテ輸入
 及ヒ展示ノ場合ニ於テ之ヲ許サ、ルハ實施シ難キコトナレハナリ千八百六十七年六月六日ノ判決

第二百二十二號 貨幣偽造罪ヲ行フニ付テノ以上ノ方法ハ金銀貨ニ
 ノミナラス銅貨及ヒ「ビヨン」モ亦適當スト雖モ金銀貨ト銅貨及ヒ「ビ
 ヨン」トハ之ヲ區別シ又之ヲ製造スル所ノ原質ハ之ヲ解明セサルヲ得
 ス何トナレハ金銀貨ノ贗造ニ適スル刑ト銅貨及ヒ「ビヨン」ノ贗造ニ適
 スルモノトハ同一ナラサレハナリ原質ハ之ヲ察ス即チ金銀貨ノ贗造ハ之ヲ
 無期ノ徒刑ニ處シ銅貨及ヒ「ビヨン」ノ贗造ハ之ヲ有期徒刑ニ處ス
 第二百二十三號 外國貨幣○外國貨幣ノ偽造ヲ行フニ付テノ方法及

ヒ罪科ノ原素ハ内國貨幣偽造ノ場合ト同一ナリト雖モ贋造シタル貨幣ノ屬スル國及ヒ其貨幣ノ通用スル國カ損害ヲ受クルノ點ニ於テ稍差違アルノミ外國貨幣トハ鑄造シタル貨幣ハ勿論外國ニ於テ法律上通用スル紙幣ヲモ云ナリ千八百二十八年一月十七日及ヒ十八年七月二十日及ヒ千八百五十九年四月二十五日千八百七十九年六月二十日及ヒ千八百九十二年七月二十日ノ判決此解釋ハ第三百三十三條ノ一般ノ貨幣ニ適當シ及ヒ銀行紙幣贋造ノヲ論スル所ノ第三百三十九條ニ於テ別段外國ノ紙幣贋造ノヲ記載セサルニ基キ下シタルモノナリ刑法理論第百九十八號但シ外國ニ於テ製造シタルモノト雖モ其外國貨幣ノ未タ内國ノ貨幣ト同視セサルモノタルキハ之ヲ外國貨幣ノ贋造ト看做サ、ルナリ伊太利ノ貨幣千八百七十二年一月二十四日ノ布令及ヒ千八百七十九年八月十日ノ判決及ヒ佛蘭西屬邦ノ貨幣千八百一十三年五月ノ如キ是ナリ茲ニ一ノ注目ス可キヲアリ初メ第三百三十三條ハ佛蘭西ニ於テ贋造ヲ行フタルキニ非サレハ外國貨幣

ノ贋造ヲ罰セサリシカ千八百六十六年六月二十七日ノ法ハ右ノ規則ヲ改定シ治罪法第五條ニ一項ヲ附加シテ曰ク「外國ニ於テ佛蘭西ノ法律ニ因テ罰スル重罪即チ外國貨幣ノ贋造若クハ變造又ハ贋造若クハ變造シタル貨幣ヲ行使或ハ輸入シタル佛蘭西人ノ佛蘭西ニ歸戻セシキハ佛蘭西ニ於テ訴及ヒ裁判ヲ受クヘシ」ト但シ外國人ニ對シテハ此千八百六十年ノ法律制定前ト均シク其後モ佛蘭西ニ於テ以上ノ罪ヲ犯シタルキニ非サレハ訴ヲ起スコトナシ

第二百二十四號 貨幣ノ假粧コロラシム○千八百六十三年五月十三日ノ法ハ人ヲシテ金屬ノ性質ヲ誤認セシムルノ目的ヲ以テ貨幣ヲ假粧スル者ヲ罰スル所ノ新則ヲ刑法中ニ設ケタリ判決例ニ於テハ此法則ノ設立前ヨリ上ノ所爲ヲ拘摸トシテ論セリ以上ノ新則ハ即チ第三百三十四條ニ之ヲ記載ス故ニ本質ヲ變スルコトナクシテ銅銀ノ貨幣ヲ白色又ハ金色

貨幣偽造ノ罪

ニ假粧スル所ノ所爲ハ偽造ノ重罪ヲ構造セスシテ唯輕罪ヲ構造スル
ノミ但シ該條ヲ適施センニハ唯貨幣ヲ假粧セシノミヲ以テ足レリト
セス之ヲ通用シ又ハ他人ヲ欺クノ意思ト目的トヲ以テ假粧センコトヲ
要スルナリ

第二百二十五號 從犯○法律ハ贋造貨幣ノ行使展示或ハ輸入又ハ假
粧貨幣ノ行使或ハ輸入ニ加ハリシ者ヲ從犯者トス然レモ此從犯ハ貨
幣偽造ノ場合ノ如ク執行ノ所爲ニ加ハリシキノミナラス第六十條ノ
規則ニ從テ豫備ノ所爲ニ加ハリシキモ亦之アリトス故ニ製造人ノミ
ナラス製造ヲ助ケシ者モ製造人ノ豫備スル所ノ物件ノ用法ヲ知リシ
ノ故ヲ以テ罪人トス贋造證券ノ製造ニ關スル共和第二年二月十七日
ノ法ハ豫備ノ所爲ト執行ノ所爲トニハ異ナリタル重罪ノ刑ヲ適施セ
シト雖モ刑法ハ如此キ區別ヲ允許セスシテ豫備ノ所爲ト重罪ノ執行

トヲ全ク分離シ執行ノ端緒ナキ豫備ノ所爲ハ之ヲ罰セス又豫備ノ所
爲ニ加ハリシ者ノ中行使ヲ目的トセサル者ハ之ヲ從犯者トセス

第二百二十六號 告發者○第三百三十八條ハ官ヨリ訴ヲ起サ、ル前ニ
貨幣偽造ノコト官ニ告知セシ製造人ノ刑ヲ免除ス可キコトヲ記載ス是
レ第八條ニ適用シタル要領ト均一ナリトスト雖モ第八條ニ於テ
ハ全ク執行ノ前ニ告知シタルキニ非サレハ告發者其免除ヲ申立ツル
ヲ得スシテ第三百三十八條ニ於テハ之ニ反シテ重罪ノ成就(即チ贋造貨
幣ノ行使、行使ノ目的ヲ以テ施ス製造又ハ重罪ノ性質ヲ有スル未遂犯)
ノ前ニ告知シタルキハ免除ヲ得ルノ點ニ於テ唯差違アルノミ
八月十七日ノ判決若シ被告^ニ人其共犯者ノ逮捕ヲ助ケシヲ以テ宥恕ヲ申立ツル
キハ必ス陪審會ニ下問シテ宥恕スヘキ事情アリヤ否ヤヲ決定セサル
ヲ得ス其下問ナクシテ施シタル裁判ハ無効ニ屬スヘシ
千八百九十四年七月

貨幣偽造ノ罪

決ノ判 此場合ニ於テハ告發者ヲ無期ノ監視ニ附セス千八百七十四年一

月二十三日ノ法ノ規則ニ從テ之ヲ有期ノ監視ニ附ス

第二百二十七號 罰金○貨幣偽造ノ重罪ノ被罰者ハ其主刑ノ外尙ホ

第六十四條ニ記載シタル罰金ヲ支辨セサルヲ得ス判決例ニ於テハ

貨幣偽造ノ重罪又ハ輕罪ノ總テノ被罰者ニ該條ヲ適施ス是レ舊來ヨ

リ行ハレ來リシモノナリ 千八百三十二年六月二十日千八百三十九年

百五十七年九月二十六日及千八百五十五年九月二十四日ノ判決

從第三百三十九條至第四百四十四條

○第二節

國璽 銀行手形公債證書印章官印及ヒ記號

價造ノ罪

第二百二十八號 國璽ノ價造○第三百三十九條ハ三箇ノ所爲ヲ記載ス

其第一ハ國璽ノ價造及ヒ價造シタル國璽ノ使用ナリ此國璽ト第四百

十條及ヒ第四百四十二條ニ記載スル所ノ諸印ト混淆ス可カラズ國璽ハ

千八百七十年九月二十五日ノ布令ヲ以テ左ノ如ク定メラレタリ「後來

國璽ハ其一面ニ國璽ハ貨幣ノ如ク表裏ニ面アリノ中央ニ自由ノ像ニツグ冠ヲ被

リタル像ヲ畫シ其周圍ニ佛蘭西國民ノ名ニ於テノ數語ヲ記シ又他ノ一

面ニハ檉樹ト橄欖樹トヲ麥穗ヲ以テ連結シタル形容ヲ畫シ其中心ニ

一旦分離ス可カラサル佛蘭西民政共和國ノ數語ヲ記シ其周圍ニ自由

同等兄弟ノ語ヲ記ス」ト又法律又ハ外國トノ條約ニモ用フル所ノ大

璽ト或ル證書ニ用フル所ノ無肉ニテ壓鑿スル小璽トヲ區別ス第三百三

十九條ハ以上雙方ノ價造ニ適施ス國璽ノ價造及ヒ使用ハ偽造ノ總テ

ノ事柄ニ於ケル如ク二箇ノ別々ノ重罪ヲ構造ス但シ此二罪ハ何レモ

不正ノ意思アリシキニ非サレハ成立セサルナリ

第二百二十九號 公債證書ノ價造○第三百三十九條ニ記載スル所ノ第

二ノ所爲ハ官庫ヨリ其證印ヲ捺シテ使用シタル證書ノ價造又ハ其變

造ト贋造又ハ變造シタル證書ノ使用又ハ其佛蘭西ニ輸入セシトナ
リ此規則ハ貨幣ト均シキ効チ有スル官庫ノ證印アル證書ニノミ適當
スルモノナリ

第二百三十號 銀行手形ノ贋造○第三百三十九條ニ記載シタル第三ノ
所爲ハ官許アル銀行ノ手形ノ贋造又ハ其偽造ト贋造又ハ偽造シタル
手形ノ使用又ハ其佛蘭西ニ輸入セシトナリ茲ニ云フ所ノモノハ官
許アル銀行ノ手形ニノミ限リ其他ノ銀行ノ手形ハ唯銀行證書又ハ商
業證書ニ過キサレハ第四百四十七條ヲ以テ之ヲ論スルナリ通用ヲ止メ
而シ其證印アル銀行手形ヲ通用セシメンカ爲メニ舍密術ヲ施シテ其
證印ヲ消滅セシメタル者ハ第三百三十九條ニ記載シタル重罪ノ犯人ナ
ルヤ否ヤヲ知ラサル可カラス破毀院ニ於テハ此所爲ハ廢止シタル銀
行手形ノ變造タルヲ以テ他人ヲ害スヘキ企ヲ以テ行フタル文書偽造

ノ重罪ヲ構造シ贋造ノ重罪ヲ構造セサルモノト決定セリ千八百七十九年
二月十九日ノ判決○刑法理
論第六百七號參觀

第二百三十一號 以上第三百三十九條ニ記載スル所ノ三罪科ニ通シ用
フヘキ規則數多アリ左ノ如シ、第一此罪科ハ公債證書ノ贋造及ヒ其贋
造シタル證書ノ使用輸入ニノミ適シ其展示ニ適セサルヲ、第二偽造貨
幣ヲ使用シタル者ノ其偽造タルヲ知ラサルヲニ於テ刑ヲ適施セサ
ル所ノ第六十三條ノ此三箇ノ場合ニモ適當スルヲ、第三第三百六十四
條ニ記載シタル罰金ノ均シシ此場合ニ適當スルヲ、第四好質ノ貨幣ト
信シテ領收シ之ヲ通用シタル者ヲ宥恕スル所ノ第三百三十五條ノ規則
ハ第三百三十九條ニ記載スル所ノ重罪ト關係ナキヲ以テ此場合ニ適當
セサルヲ(第三百三十五條ノ宥恕ヲ施スヘキ場合ハ使用ノ際ニ於テ偽物
タルヲ知リシキナリ)第五百三十九條ハ佛蘭西外ニ於テ國璽政府

ノ紙幣又ハ官許アル銀行ノ手形ノ贋造ヲ記載スル所ノ治罪法第五條及ヒ第七條ヲ複テ記載シタルモノナリ、第六第四百四條ハ告發者ノ刑ヲ免除スル所ノ第三百三十八條ノ規則ヲ第三百三十九條ノ場合ニ適用スルコト是ナリ

第二百卅二號 官印政府ノ證印及ヒ印章ノ贋造○第四百十條ハ官印山林ノ樹木ニ印スル官ノ證印及ヒ金銀貨ノ質ヲ極メル爲メノ章印ト贋造シタル官印、證印及ヒ印章ノ使用トテ記載ス千八百七十年九月二十五日ノ布令第二條ハ司法權ニ於テ用フヘキ證印ノコトヲ舉ケテ曰シ「諸院（政院、控訴院、重罪裁判所、指指ス）裁判所勸解裁判所及ヒ公證人ノ印、官印及ヒ小印ハ國璽ノ如ク自由ノ像ヲ畫シ其下部ニ佛蘭西共和國ノ語ヲ記シ周圍ニハ以上ノ印ヲ用フル官署ト官吏ノ官名トテ記ス」ト如斯キ形容ハ行政權ニ於テモ均シク之ヲ用フ是レ皆國ノ官印ト思惟ス可キモノナリ

故ニ第四百十條ヲ適施センニハ、第一國ノ官印ノ贋造又ハ其贋造シタル官印ノ使用ヲナセシコトヲ要シ、第二政府又ハ行政權ノ名ヲ以テ此官印ヲ使用セシコトヲ要スルナリ但シ其他ノ官印ノ贋造ハ第四百十二條ヲ以テ之ヲ論ス判決例ニ於テハ證印稅ヲ要スヘキ紙箋ニ捺シタル官印ノ贋造（千八百四十三年十月十三日ノ判決）及ヒ賭戲ノ牌片ニ押シタル官印ノ贋造（千八百七十年十二月二日ノ判決）ニ第四百十條ヲ適施セリ但シ郵便局ニ於テ書翰ニ捺スル小印ノ贋造ニハ該條ヲ適施セサリシナリ

第二百三十三號 第四百十條ハ第二ノ場合ニ於テ山林ノ樹木ニ印スル政府ノ印章ノ贋造ヲ記載ス山林法第七條ニ伐木ノ際ニナイテ保存スヘキ樹木ヲ印サンカ爲メニ用フル所ノ國ノ印章（千八百二十七年八月十六日ノ命令）第三條ト犯罪ニ係カハル樹木及ヒ風ノ爲メニ倒レタル樹木ヲ印サンカ爲メニ山林ニ關スル官吏及ヒ監守人ニ屬スル格段ノ印章（同命令第七條ト）

國庫銀行手形、公債證書、印章、官印及ヒ記號贋造ノ罪

ナ區別ス破毀院ニ於テハ上ノ二種ノ印章ニ第四百四十條ヲ適用ス可キ
 一ナ定メシカ故ニ其以來ハ法律ニ記載アル印章ト云フ汎語中ニ此二
 種ノ印章ヲ包含スルモノトセリ千八百四十四年三月十六日ノ判決又贋造シタル印章
 ナ用キスシテ之ニ摸擬シタル記號ヲ記セシモ印章ノ贋造又ハ變造
 ト看做ス可キヲ決定セリ刑法理論第六何トナレハ此所爲ハ變造シ
 タル印章ヲ用キシト同一ナレハナリ千八百四十四年十月二十五日及ヒ千八百
 五十一年十一月(此論題ニ付テハ論議ノ後漸ク斯ク決定セリ)但シ偽印
 ノ政府ノ印章ヲ偽造シタルモノニ非ス且完全ナルモノニシテ人ニ疑
 惑ヲ生セシメサルモノニハ刑法ヲ適施スル能ハサル可シ千八百一十六年
 二月二十日
 ノ判決

第二百三十四號 第四百四十條ハ第三ノ場合ニ於テ金銀貨ノ質ヲ極メ
 ル爲ノ印章ノ贋造ヲ記載ス凡テ金銀ハ他ノ金屬ト混和セサレハ用フ
 ル能ハサルモノナルカ故ニ法律ハ其製造セントスル金銀ノ分量ヲ定
 ムルノ注意ヲ執リタリ是レ共和第六年二月十九日ノ法ニ依テ定メタ
 ル種々ノ印章ナリ千八百三十八年四月七日ノ命令ハ保證ノ印章ト保
 證局ノ印章トノ二箇ヲ合シテ一トナシ各保證ハ各異リタル記號ヲ有
 ス可キヲ決定メリ即チ第四百四十條ヲ適施スヘキ場合ハ其贋造使用ナ
 リ該條ハ前二種ノ場合ニ於ケル如ク印章ノ贋造ト其贋造又ハ變造物
 ノ使用ノミヲ記載セシカ保證局ニ於テ用フル印章ヲ摸寫シタルキハ
 假令其印章ト異ナルキト雖モ亦前號ノ場合ト均シク之ヲ印章ノ贋造
 ト同視ス千八百八十五年五月十日ノ判決然レモ保證局ニ於テ高價ノ物質ニ押シタル記
 號ヲ之ヨリ低價ノ物質ニ適用セシ所爲ハ印章ノ贋造又ハ贋造シタル
 印章ノ不適當ナル使用ト看做サ、ルナリ刑法理論第六
 百十六號參觀
 第二百三十五號 眞正ノ官印ノ不當ナル使用○第四百四十一條ハ眞正

ナル官印及ヒ印章ノ不當ナル使用ヲ記載ス該條ヲ適施セシニハ犯人
 カ上ノ物品ヲ得不當ナル使用ヲナシ以テ國ノ利益ヲ害セシトテ要ス
 化學術ヲ以テ官印アル古紙ノ文書ヲ洗除スル所ノ所爲ハ真正ノ官印
 ノ適法ノ使用ナルヤ否ヤヲ知ラサル可カラズ破毀院ニ於テハ第四十
 一條ハ不適法ヲ以テ得タル官印ノ捺押ニ非サレハ適當セサルカ故ニ
 以上ノ所爲ハ該條ノ規則中ニ入ラサルモノト決定セリ千八百三十
 四年七月十一日
判又樹木ニ捺押シタル政府ノ印章ヲ切取り己レノ所有セントスル
 政府ニテ貯蓄スヘキ樹木ニ之ヲ嵌入セシノ所爲ハ該條ノ規則中ニ入
 ル可キモノタルヤ否ヤヲ知ラサル可カラズ破毀院ニ於テハ此所爲ハ
 印章ノ不當ナル使用タルヲ以テ該條ヲ適施ス可キト決定セリ千八
 百三十四年一月四日千八百六十五年八月十二
 日ノ判決○刑法律論第六百二十號參觀
 第二百三十六號 官署ノ記號ノ贋造○千八百六十三年五月十三日ノ

法ニ因テ改定ニ歸シタル第四百四十二條ハ政府ノ名義ヲ以テ各種ノ商
 品及ヒ日用物ニ附スヘキ記號ノ贋造及ヒ其贋造シタル記號ノ使用、官
 印及ヒ記號ノ贋造及ヒ其贋造シタル此物品ノ使用、郵便切手ノ贋造及
 ヒ其贋造シタル切手ノ使用ヲ記載ス千八百六十三年五月十三日ノ法
 ノ制定前ハ以上ノ所爲ニ懲役ノ刑ヲ該テシカ此法ハ二年乃至五年ノ
 禁錮ヲ以テ之ニ代ヘ重罪ヲ輕罪ニ轉シタリ商賣ノ記號ニ關シテモ又
 然リ該條ノ初點ニ於テ論スル所ノ記號ハ稅關局、問稅局、度量衡檢査官
 ノ如キ種々ノ行政官ニ於テ商品及ヒ日用物ニ附スルモノナリ該條ハ
 記號ノ贋造ニノミ適當セスシテ記號ナク其形容ヲ附セシ場合ニモ亦
 適當シ又政府ヨリ定メタル印章ニ非サルモノヲ以テ酒等ノ入りタル
 罎ノ質ヲ極ムルノ所爲ニモ亦適當ス千八百二十五年一月
 二十日ノ判決 第二ノ點ハ官
 印記號及ヒ官吏ヨリ交附スル證書上ニ官吏ノ附スヘキ小印ヲ包含ス

封印ニ用フル小印郵便書翰ニ捺スル小印ノ如キ官吏ノ職權上捺押ス可キモノモ亦其中ニ包含ス可キモノナリ第三ノ點ニ於テハ郵便切手ヲ官印ト同視ス法律ハ官印ノ贋造及ヒ其贋造シタル官印タルヲ知リテ之ヲ使用セシマテ罰ス茲ニ法律ハ知リテノ語ヲ置キント雖モ此語ハ第六十三條ニ記載アルカ故ニ茲ニテハ贋物タルヘシ兵器ノ製造及ヒ其賣買ニ關シテハ千八百六十年七月十四日ノ法ハ試驗及ヒ輸出印章ノ贋造ト其贋造シタル印章ノ使用トニ付格別ノ規則ヲ定ムルカ故ニ此所爲ハ第四百二十二條ノ例外ナリ

第二百三十七號 製造及ヒ商賣記號ノ贋造○此事柄ニ關シテハ數多ノ法アリ共和第十一年三月二十三日ノ法ハ千六百八十一年七月某日及ヒ千七百二十年十月十八日ノ命令ヲ改定シ其第十六條ニ記シテ曰ク「製造人ノ其製造物ニ附スルヲ得ヘキ格段ナル記號ヲ贋造セシ者ハ

第一其贋造ヲ受ケタル者ニ對シテ賠償ヲ出ダシ第二私書偽造ニ付法律ニ記載シタル刑ヲ受クヘシ」ト第四百二十二條ハ此規則ヲ引テ製造又ハ商賣ノ格段ナル館舎ノ記號ノ贋造ヲ懲役ノ刑ニ罰スルノ規則ヲ設ケタリ如此ク該條ハ記號ノ贋造ト贋造シタル記號ノ使用トニ付テハ絶テ所缺ナシト雖モ製造又ハ商賣ノ館舎ノ名又ハ社名ノ摸擬又ハ變造ニ付テハ別段該條ニ記載スル所ナキカ故ニ千八百二十四年七月二十八日ノ法ハ其所缺ヲ補充セリ其第一條ニ曰ク「附加削除又ハ變造ニ因テ製造物ニ其製造人ニ非サル他ノ製造人ノ名又ハ其製造ヲナセシ社ニ非サル他ノ社名ヲ生セシメシ者ハ刑法第四百二十三條ニ記載シタル刑ヲ以テ罰ス但シ賠償ト相抵觸スルコトナシ變造シタル名ヲ記シタル物品タルヲ知リテ販賣シ又ハ販賣センカ爲メニ展示スル商人仲買人又ハ小賣人ハ其訴ヨリ生シタル損失ヲ受クヘシ」ト又千八百五十

國兩銀行手形公債證券印章官印及ヒ記號贋造ノ罪

七年六月二十三日ノ法ハ最初ノ數條ニ於テ製造及ヒ商賣ノ記號ノ義解ト其眞偽判定ノ手續規則ヲ掲ケ第七條以下ニ於テ左ノ罰則ヲ置キ
タリ

第七條「記號ヲ贗造シ又ハ贗造セシ記號ヲ用ヰシ者自己ノ製造品又ハ商品ニ詭計ヲ以テ他人ノ記號ヲ附セシ者贗造シ又ハ詭計ヲ以テ附シタル記號アル一又ハ數多ノ物産ヲ販賣シ又ハ販賣セシカ爲メニ展示スル者ハ五十「フラン」乃至三千「フラン」ノ罰金ト三月乃至三年ノ禁錮トノ二刑ニ處スルカ又ハ其中ノ一刑ニ處ス」○第八條「記號ヲ贗造セスシテ買人ヲ誤ラシム可キ詭計ヲ以テ記號ニ摸擬セシメ又ハ詭計ヲ以テ摸擬シタル記號ヲ使用セシメシ者買人ヲシテ物産ノ性質ヲ誤ラシム可キ記載アル記號ヲ使用セシ者詭計ヲ以テ摸擬シタル記號又ハ買人ヲシテ物産ノ性質ヲ誤ラシム可キ記載アル物産

タルヲ知ル其一又ハ數多ヲ販賣シ又ハ販賣セシカ爲メニ展示スル者ハ五十「フラン」乃至二千「フラン」ノ罰金ト一月乃至一年ノ禁錮トノ二刑ニ處スルカ又ハ其中ノ一刑ニ處ス」○第九條「自己ノ物産ニ其必ス附スヘキ記號ヲ附セサル者必ス附スヘキ記號ナキ一又ハ數多ノ物品ヲ販賣シ又ハ販賣セシカ爲メニ展示スル者或ル物産ニ必ス製造ノ記號ヲ附ス可キヲ命スル所ノ諸布令ノ規則ヲ犯セシ者ヲ五十「フラン」乃至千「フラン」ノ罰金ト十五日乃至六月ノ禁錮トニ處ス」○「發明證ニ關スル千八百四十四年七月五日ノ法ヨリ借り來リタル第十條第十一條及ヒ第十二條ハ治罪法第三百六十五條及ヒ刑法第四百六十三條ノ適施ト五年内ニ再犯アリタル際ニ於テ刑ヲ二倍スルヲトテ許セリ」

千八百五十七年六月二十三日ノ法ニ基キテ定メタル千八百六十三年

五月十三日ノ法ハ第四百四十二條中ニアル所ノ又ハ製造或ハ商賣ノ格段ナル館舎ノ語ト第四百四十三條中ニアル所ノ又ハ格段ナル館舎ノ語トヲ削除セリ故ニ第四百四十二條及ヒ第四百四十三條ハ製造及ヒ商業ノ記號ニ關スル詭計ヲ罰セサルナリ千八百七十三年十一月二十六日ノ法ハ記號ノ諸所有者ニ政府ヲシテ其物産ノ題號、包子又ハ證狀上ニ其記號ノ公正ヲ證スヘキ特別ノ官印又ハ印章ヲ捺押セシムルノ權ヲ許與シ而シテ其第六條ニ於テ下ノ規則ヲ置キタリ曰ク此法ニ定ムル所ノ官印又ハ印章ヲ贋造又ハ變造シタル者及ヒ贋造又ハ變造シタル官印又ハ印章ヲ使用セシ者ハ刑法第四百十條ニ記載シタル刑ヲ以テ罰ス但シ民事償還ト相抵觸スルコトナシ詭計ヲ以テ施シタル記號又ハ印章ノ使用及ヒ記號又ハ印章アル題號、帶、包子、又ハ證狀ノ使用ハ第四百四十二條ニ記載シタル刑ヲ以テ罰スト

第二百三十八號 千八百五十七年六月二十三日ノ法ハ製造人又ハ製造會社ノ名ノ掠奪ヲ記載スル所ノ千八百二十四年七月二十八日ノ法ト相抵觸シ又國庫ノ利益或ハ警察ニ關シテ或ル物産ニ製造記號ヲ附スルコトヲ規定スル所ノ法及ヒ命令ト相抵觸セス此法及ヒ命令トハ織物ニ關スル千八百十六年四月二十八日ノ法、第五十九條出版物ニ關スル千八百十四年十月二十一日ノ法、賭戲ノ牌片ニ關スル千八百十年二月九日ノ命令、製藥者ヨリ交附シタル毒藥ニ關スル千八百四十六年十月二十九日ノ命令ヲ指スナリ又千八百五十七年ノ法ハ概シテ第四百四十二條ト相抵觸スルコトナシト雖モ只該條ニ記載シタル一所爲ト相抵觸スルノミ即チ詭計ヲ以テ競争ヲナサンカ爲メニ格段ナル商館ノ記號ヲ贋造シ又ハ其贋造シタル記號ヲ使用セシ場合はナリ千八百一三年八月及ヒ千八百六十三年五月十三日ノ法ハ

第四百二十二條中ノ製造及ヒ商賣ノ記號ヲ削除セシカ故ニ一困難ナル事ヲ生セリ何トナレハ該法ニ據レハ千八百五十七年六月二十三日ノ法以後ト雖モ第四百二十二條ヲ適施セシ所ノ商賣記號贋造ノ所爲ハ復之ヲ罰スルヲ得サレハナリ然レモ千八百六十三年ノ法ニ依テ削除セシモノハ格段ナル館舎ノ記號ノ贋造ニ限ルカ故ニ該法ハ此特別ナルモノヲ廢止シ千八百五十七年ノ法ノ第七條第一項ニ依テ總テ記號ノ贋造及ヒ贋造シタル記號ノ使用ヲ罰スル所ノ一般ノ規則ヲ遵守セシモノト知ルヘシ復言スレハ千八百六十三年ノ法ハ特別ノ規則ヲ發セシカ故ニ格段ナル館舎ノ記號ニ於ケル贋造ニモ亦千八百五十七年ニ制定シタル一般ノ規則ヲ適施スルヲ要ス可キナリ

第二百三十九號 以上ノ記號贋造ニ關スル法律ノ適施ニ付破毀院ニ於テ左ノ如ク決定セリ第一法律ヲ履踐シテ得タル記號ヲ禁止物ニ附

セシモ此不正ニ附シタル所爲ヲ指シテ記號ノ贋造トセス千八百八十八年五月六日判決第二如斯キ記號ハ必ス格段ナル符印ヲ有スヘシ千八百八十六年三月十九日判決物品ニ其製造人ニ非サル他ノ製造人ノ名ヲ記セシ千八百八十九年三月十九日判決記號ノ贋造ヲ構造セスト雖モ商名ノ掠奪ヲ構造ス千八百八十九年三月十九日判決第三千八百五十七年六月二十三日ノ法ノ第七條ハ他人ノ記號アル袋囊中ニ偽物ヲ包入セシ所爲ニ適施ス可キモノナリ然レモ買人ヲシテ物品ノ性質ヲ誤ラシム可キ記載アル記號ノ使用ヲ罰スル所ノ第八條ノ第二項ハ物品ノ品位ヲ誤ラシム可キ記載アル記號ノ使用ニ適當セス千八百五十九年十月十日判決第四記號ノ贋造ヲ爲セシトシテ訴テ受ケタル犯人其贋造者ニ非スシテ其變造者タルキハ之ヲ變造者トシテ罰シ又商名ノ掠奪ヲ爲セシトシテ訴テ受ケタル者其掠奪者ニ非スシテ記號ノ贋造者タルキハ之ヲ其贋造者トシテ罰スルヲ得ヘシ蓋シ斯ク決

國庫銀行手形公債證書印章官印及ヒ記號贋造ノ罪

定スルノ所以ハ其訴ト罪名トハ相反スト雖モ其所爲同一ナレハナリ
 千八百六十九年三月五日及ヒ千八百七十年三月九日ノ判決然レモ贋造ヲ爲セシノ訴ヲ受ケタル
 犯人ヲ賣品ノ性質ノ詐僞人トシテ罰スルヲ得ス此場合ニ於テハ所爲
 同一ナラサルカ故ニ其犯人ヲ詐僞人トシテ罰スルキハ一輕罪ヲ以テ
 一他ノ輕罪ニ換フルニ外ナラサルカ故ナリ 千八百七十年三月九日ノ判決第五總
 テ他人ノ記號ノ掠奪摸擬ハ詭計ヲ行ハシカ爲メニ施セシモノト看做
 ス故ニ詭計ヲ行フノ意思ナク又ハ所有主ノ承諾ヲ以テ施シタル掠奪
 摸擬ハ犯罪ヲ構造スヘキ原素ナク亦從テ法ヲ適施セサルナリ 千八百
 七十年五月八日第六千八百五十七年六月二十三日ノ法ノ第五條及ヒ第六條
 ハ佛蘭西ニ於テ製造所ヲ有スル外國人及ヒ外國ト佛蘭西トノ間ニ相
 互ノ約束アルキハ其外國ニ於テ製造所ヲ有スル外國人ニ該法ノ便益
 ヲ擴充スルカ故ニ佛蘭西ト英吉利トノ間ニハ千八百六十年三月十二

日ノ條約第十二條ニ依テ相互ノ約束ヲ設ケタリ 千八百六十五年八月
 十年三月十日及ヒ千八百七十年五月二十七日ノ判決

第二百四十號 眞正ナル官印ヲ不當ニ捺押スルヲ○第四百一一條ニ
 附屬スル所ノ第四百十三條ハ眞正ナル官印及ヒ記號ノ不當ナル用法
 ヲ記載ス該條ハ第四百十二條ノ如ク千八百二十四年七月二十八日ノ
 法(製造人ノ眞正ナル名眞正ナル社名及ヒ製造ノ場所ヲ記スル記號ノ
 不當ナル使用ニ關スル法)千八百六十三年五月十三日ノ法(格段ナル館
 舎ノ語ヲ削除シタル法)及ヒ千八百五十七年六月二十三日ノ法(製造及
 ヒ商賣ノ記號ノ掠奪ヲ罰スルノ法)ニ依テ改定セラレタリ故ニ第四百
 十三條ノ適施ニ付必要ナル條件ハ第一不適法ノ方法ヲ以テ官印又ハ
 記號ヲ取得セシヲ第二其使用ヲ爲シ而シテ其使用ノ政府官署又ハ平人
 ノ利益ヲ害セシヲ是ナリ千八百十年十月十三日ノ布令ハ間稅ニ關ス

國庫銀行手形公債證書印章官印及ヒ記號贋造ノ罪

ル官吏商品ノ記號トシテ印スヘキ燒印ヲ使用シテ官庫ノ爲メニ害ヲ
醸セシレハ公書偽造ノ罪ヲ構造ス可キヲ決定セシト雖モ當今ハ該
所爲ニ第四百四十三條ヲ適施ス何トナレハ此場合ハ記號ヲ構造セシニ
アラス蓋シ真正ナル記號ノ不當ナル使用ニ過キサレハナリ

○第三節 文書偽造ノ罪

從第四百四十五
條至第四百五十
二條

○第一項 文書偽造ノ一般ノ性質

第二百四十一號 義解○文書ノ偽造トハ罪ヲ犯スノ意思ヲ以テ他人
ニ害ヲ醸サンカ爲メニ文書ノ眞實ヲ變換スルヲナリト解スルヲ得ヘ
シ故ニ判決例ニ於テハ此義解ニ由テ文書偽造ヲ構造スル所ノ三原素
ハ文書ノ眞實ヲ變換スルヲ害ヲ醸スノ意思及ヒ害ノ生ス可キヲナリ
ト決定セリ千八百七十五年七月十七日及ヒ同年十二月十日
九月及ヒ千八百四十三年四月八日ノ判決 即チ左ニ此三
原素ヲ説カン

第二百四十二號 眞實ヲ變換スルヲ○文書ノ眞實ヲ變換スルヲハ偽
造罪ニ付必要ナル條件ナリ何トナレハ證書又ハ事實ノ多少ノ變換ナ
クシハ偽造アラサレハナリ然レモ文書ノ眞實ヲ變換スル所ノ總テノ
所爲ヲ皆同度トセス即チ單ニ手署アル白紙ノ妄用、保證狀ノ偽造ノ如
キハ輕罪ヲ構造スト雖モ重罪ヲ構造セス又絶テ責ヲ生セサルモノア
リ罰スヘキ變換ハ第四百四十五條第四百四十六條第四百四十七條及ヒ第百
四十八條ニ記載スル所ノ文書若クハ手署ノ偽造變換又ハ契約書、規則
書、義務ノ證書、交換證書ノ變換又ハ後ニ證書ニ書加チナスヲ又ハ箇條
陳述若クハ事實ヲ増加、變換スルヲナリ偽造チナス所ノ此諸種ノ方法
ハ法律ノ制限スル所ナルカ故ニ其他ノ方法ニ由テ生スル所ノ變造ハ
罪科クテサレ可キナリ刑法論第六百
四十四號參照

第二百四十三號 上ノ規則ニ由テ判決例ニ於テハ次ノ所爲ヲ文書ノ

文書偽造ノ一般ノ性質

偽造トスルヲ許サ、リシ、第一證書ノ本書又ハ副書ニ非スシテ冒頭ニ
 召喚狀ト記載アル寫書ヲ變換セシキ何トナレハ此寫書ハ權利ノ施行
 ニ用立ツ可キモノニ非サレハナリ千八百九十三年九月第二訴訟人ヨリ裁
 判所ニ出シタル住所、姓名、年齢、身分等ノ記載アル書ヲ變換シタルキ、第
 三詐偽ナル記載ノ權利ヲ得ルノ用ニ立タサルキ千八百九十年四月二十
 一月七日及千八百九十二年三月三日及千八百九十四年七月
 十一月四日及千八百九十五年三月三日及千八百九十七年
 十一月四日ノ判決、第四偽書ニ手署
 ナク從テ如何ナル權ヲモ生セサルキ千八百一十七年
 六月一日ノ判決、第五偽書ノ却テ
 其偽造者ニ對シテ證據トナリ而シテ他人ニ對シテ其記載ノ眞實ヲ證ス
 ルヲ得サル者千八百二十五年二月十八日及千八百二十八年七月二十日ノ判決、第六偽證
 ノ管轄ノ官署ヨリ出テサルキ千八百九十年四月二十三日及
 以上ノ判決
 ニ由レハ刑法第四百四十五條、第四百四十六條及ヒ第四百四十七條ニ指定シ
 タル法式ヲ有セサル變換ハ文書ノ偽造ヲ構造セサルナリ

第二百四十四號 然レ此規則ノ適施ニ付種々ノ困難ヲ生ス、第一糺
 問判事ヨリ爲シタル審問ノ答辨書中ニ犯人偽名ヲ用ヒ且手署セシキ
 ハ此所爲ヲ偽造トシテ訴テ起スノ充分ナル原素ト看做スヘキ乎、犯人
 ハ我身ノ保庇ニ付テハ自由ナリ故ニ或ハ審問ヲ打消シ或ハ眞實又ハ
 詐偽ナル申陳ヲナスモ無罪タルヘシ何トナレハ是レ皆我身保庇ノ手
 段ニ過キサレハナリ故ニ犯人ノ應答ヲ掲載スル所ノ犯罪ノ顛末書ハ
 必スシモ眞實ノ者ニ非サルナリ但シ偽名ノ申陳ニ付テハ判決例ニ於
 テ區別アリ犯人罰ヲ免カレンカ爲メニ唯其眞正ナル姓名ヲ隱匿シ裁
 判所ヲシテ迷惑セシムルヲ目的トセシキハ其所爲ヲ保庇ノ他ノ方法
 ト同視スト雖モ犯人己レノ知リタル他人ノ姓名ヲ掠奪シ之ニ害ヲ釀
 セシカ又ハ釀スヲ得ヘキハ犯人ニ對シテ偽造即チ詐偽ノ訴ヲ起ス
 ヲ得ヘシ千八百五十五年五月十三日及千八百五十七年七月二十日及千八百
 五十八年七月一日及千八百七十年十二月八日及千八百七十

文書偽造ノ一般ノ性質

三年十二月
四日ノ判決

第二百四十五號 變名即チ想像ノ名ヲ用フルカ若クハ偽名即チ他人
 ノ名姓ノミヲ掠奪スルカ又ハ摸擬スルコトナクシテ他人ノ手署ヲ書
 セシトハ有罪ナル變換ヲ施セシモノナル乎、若シ其證書ノ義務ヲ生セ
 サルカ又ハ他人ニ害ヲ釀サ、ルキハ否ラス然レモ反對ノ場合ニ於テ
 ハ然リ此末尾ノ場合ニ從テ破毀院ニ於テハ他人ノ名ヲ書シ又ハ多少
 巧ミニ他人ノ手署ヲ摸擬シ又ハ摸擬セスシテ書シ又ハ已レノ知リタ
 ル人ニ屬セサル名ヲ用ヒシキハ偽造ノ所爲アルコトヲ判決シ千八百十
三年二月十
ノ判決又第四百十九條及ヒ第五百十條ハ變名ヲ用ヒシ場合ト他人ノ
 手署ヲ贗造又ハ摸擬セシ場合トチ區別セサルカ故ニ手署ヲ偽造セシ
 キハ總テ該二條ヲ適施ス可キコトヲ判定セリ千八百十三年七月十六日
及ヒ同年十二月三十一日
千八百三十一年十一月五日千八百三十九年三月
二十八日及ヒ千八百四十年六月二十五日ノ判決又類似シタル名ヲ用

ヒシ場合ニ付テハ左ノ三事ノ如ク決定セリ、手署ハ其之ヲ書セシ人ニ
 屬スルモノニシテ而シテ至ク之アルニ由テ其人ノ證書ヲ記セシ者タル
 コトノ明瞭ナルキニ非レハ眞實ノモノニ非カルコト、他人ノ手署ノ摸擬ハ
 用テナカ、ルコト、同名ノ他人ノ名ヲ表シ已レノ名ヲ證書ニ記セサル者
 不正ノ意思ヲ以テ該所爲ヲ施セシキハ偽造罪ヲ構造スルコト是ナリ千
八百三十六年七月三十日及
ヒ同年十月三十日ノ判決又商賣手形ノ裏面ニ記シタル辨償濟ノ語ヲ
 塗抹シ千八百四十四年六月
千八百四十四年六月又不正ニ製造シタル證書ノ末尾ニ讀ミ難キ
 姓名ヲ手署セシ千八百五十年十一月
千八百五十年十一月ハ場合ニ從テ起訴ノ原因トナル
 チ得ヘキコトヲ判決シ又未遂書翰ニ偽姓名ヲ手署セシキハ常ニ起訴ノ
 原因トナル可キコトヲ定メ又他人ノ財産又ハ名譽ヲ害スルノ意思ヲ以
 テ詐僞ナル手署アル想像ノ書翰ヲ製造スルコトハ偽造罪ヲ構造スヘキ
 コトヲ定メリ千八百十六年九月二十七日千八百三十八年三月二
千八百十四日及ヒ千八百五十二年十一月十二日ノ判決

文書偽造ノ一般ノ性質

第二百四十六號 家事ノ簿冊又ハ書類ノ直實ヲ變換スルコトハ偽造罪ノ一原因タルヲ得ヘキ乎、判決例ニ於テ左ノ如ク區別ス家事簿冊ノ變換ハ此簿冊ノ其看守人ノ手内ニアルキ又ハ民法第千三百三十一條ニ從テ起訴ノ原因タルヘキ事柄ニ關セサルキハ無罪トセシト雖モ他人ニ害ヲ釀スヘキ目的ヲ以テ其偽造ヲナシ而シテ遂ニ害ヲ釀セシキ又其偽造ノ其製造人ノ爲メニ有益ナル證ヲラスト雖モ製造人ノ爲メニ用立ツヘキ推測若クハ徵候ヲ生セシム可キ性質ノモノタルキ又其偽造ニ付害ヲ釀ス可キコトノ確實ナルキハ之ヲ有罪トセリ
千八百二十七年八月三十一日及千八百五十八年十月十七日ノ判決

第二百四十七號 又偽造ヲ構造スル所ノ變換ト詐僞取財ヲ構造スル所ノ詐僞ナル所爲トヲ區別セサルヲ得ス不正ナル所爲ノ第四百四十六條及ヒ第四百四十七條ニ記載シタル場合タルキ、偽造ヲ以テ施シタル所

爲ノ調査ヲ管掌スヘキ官吏ノ施セシキ又ハ義務ヲ生セシムヘキ贋造シタル文書若クハ手署ニ依テ詐僞取財ヲ行ヒシキハ偽造ノ所爲アリ
千八百九十年九月十八日及千八百九十一年八月十八日ノ判決 然レモ證書ノ性質他人ニ害ヲ釀ス可カラサルキ又ハ證書ニ記載シタル詐僞ノ所爲ヲ調査スルコト及ハサルキハ第四百五條ヲ以テ處斷スヘキ詐僞及ヒ不正ノ陳述ナシトス故ニ他人ヲシテ己レノ身分ヲ誤ラシメ詐僞ヲ以テ信用ヲ得ンカ爲メ權利又ハ名義ヲ得ヘカラサル僞書、自ラ諾シタル貸金證書、自ラ手署シタル讓與證書、證明書、書翰又ハ其他ノ書類ヲ製造セシ者ハ唯之ヲ詐僞取財者トシテ訴フルヲ得ルノミ
共和十三年十一月十九日及千八百五十九年七月八日ノ判決

第二百四十八號 文書ノ眞實ヲ變換セシコトハ假令不正ニ之ヲ施セシキト雖モ次下ノ場合ニ於テハ偽造罪ヲ構造セサルナリ、第一結約人ノ

文書偽造ノ一般ノ性質

記セント欲セシ所ノモノヲ記シテ其隱匿セント欲セシ事實ヲ變裝セシ此場合ニ於テ詐偽ナル記載及ヒ詭欺ナル所爲アリト雖モ外顯ノ偽造ヲ構造セス何トナレハ證書ノ文書及ヒ手署ハ結約人ヨリ出テシモノナレハナリ又外顯ナキ偽造第二百六十四條ニ照スヘシヲモ構造セス何トナレハ此詐偽ナル契約文ハ結約人ノ口授セシモノナレハナリ共和第十三年八月十三日及ヒ千八百二十五年十一月二十五日ノ判決第二被害者偽造ノ所爲アルヲ知リ且其所爲ヲ豫防セサル責ノ該被害者ニ歸スルキ故ニ押印アル白紙ノ妄用ハ其受託人ヨリ出テシキハ犯罪ヲ構造セサルナリ但シ受託人ニ非サル者ノ同所爲ヲ行ヒシキハ偽造ヲ構造ス第四百七條會社々員ノ一人社印ヲ妄用セシキハ會社ノ存在スル間ハ背信罪ヲ構造シ偽造罪ヲ構造セスト雖モ解社後ニ同所爲ヲ行ヒシキハ偽造罪ヲ構造スルナリ千八百六十年十月十六日及ヒ千八百九十三年三月二十八日ノ判決第三租稅ヲ免カレンカ爲メニ納稅事件ニ關シテ偽

陳ヲナセシキニ於テ其偽陳ノ官ノ簿冊ヲ變換セシムルニ至ラサルキハ偽造罪ヲ構造セスト雖モ素ヨリ詭欺ノ方法アルカ故ニ所轄ノ官吏ノ檢査ニ因テ其陳述ヲ改正セシメ且之ニ金錢上ノ刑ヲ該ツ此區別ハ共和第七年三月二十二日ノ法ノ第三十九條及ヒ第四十六條ニ依テ簿記法ニ之ヲ採用シ亦運送免許狀ヲ以テ證スル運送取扱主ノ陳述ニ關シテ間稅法ニモ之ヲ採用セリ千八百三十九年五月三十一日千八百五十四年四月十九日ノ判決第四數字ヲ變換シタルノ審査ニ因テ發露セシキ何トナレハ總テ計算ハ審査ス可キモノナレハナリ故ニ數字ノ臆定、過分、詐偽ナル記載不相當ナル定價ハ詐偽取財ノ罪ヲ構造スト雖モ偽造罪ヲ構造セサルナリ但シ數字ノ變換ニ付其基ツクヘキ本書ヲ偽造セシキハ此例ニ非サルナリ千八百五十五年三月三十一日ノ判決第二四百四十九號不正ナル意思○偽造罪ヲナス所ノ第二ノ原素ハ不

正ナル意思ナリ只情ヲ知り且好意ヲ以テ變換ヲ行ヒシ所以ヲ指シテ不正ナル意思アリトスルヲ得ス此意思アリトセシニハ必ス詭欺(即チ他人ヲ害スルノ企圖)ヲ以テ變換ヲ行ヒシヲ要スルナリ故ニ他人ヲ害スルノ意思ナクシテ變換ヲ行ヒシハ罰スヘキ偽造アラサルナリ此規則ハ諸種ノ事柄ニ於ケル數多ノ判決ニ付之ヲ施行セリ故ニ獻議書ノ末尾ニ之ニ關セサル人ノ姓名ヲ書セシノ所爲千八百六十六年三月 醫員ノ意見書中ニ評議ニ關カラサル其同僚ノ姓名ヲ附記セシノ所爲共和七年八月十五日 證書中ニ結約人雙方通讀セリノ語辭ヲ記載スルヲ遺忘シ其後ニ至リ之ヲ附記セシノ所爲千八百五十二年六月 官庫ノ官吏納稅スヘキ商品ヲ得取シ又ハ所有主ノ爲メニ犯罪ヲ生セシムルノ意思ナク檢狀ニ詐偽ナル記載ヲナセシキ千八百六十年二月二十日 及千八百八十五年 以上ノ所爲ハ皆偽造ニ非サルナリ

第二百五十號 他人ヲ害スルノ意思トハ概シテ他人ノ財産ニ害ヲ醸スノ意ナリ第六十四條ノ偽造人ニ對シテ其偽造ニ依テ不正ニ得タル利益ノ四分之一ニ至ルノ罰金ヲ宣告スルハ此趣旨ニ基クモノナリ然レモ此規則ニハ絶テ制限ナキ故ニ法律ハ貪慾ヨリ生シタル偽造ニノミ適當ス可キモノト思惟ス可カラズ他人ノ財産ハ勿論其名譽ヲ害スルヲ目的トシテ變換ヲ施セシキモ亦偽造罪ヲ構造スルヲ得ヘシ故ニ判決例ニ於テハ公益及ヒ私益ヲ害スルヲ目的トセシ偽造ニ付テハ罰スヘキ企圖アリ且私益ハ財産ト名譽トヲ以テ成立スト云フヲ公述セリ千八百三十二年七月二十六日 判決但シ偽造ヲ構造スル所ノ原素ハ誣告及ヒ讒謗ノ原素ト差違アリ偽造罪ハ他人ニ罪ヲ歸セシムルノ企チ以テ詐偽ナル保證狀書類又ハ偽署アル書翰ヲ製造セシキニ生スルモノナリ千八百一十年八月三日 及千八百一十三年十一月十二日 及千八百五十二年三月三日 判決其他偽造ハ

犯人ノ一身ノ利益ノ爲メ又ハ他人ノ爲メニ施セシテ要セズ唯他人ヲ害スルノ意思ヲ以テ施セシテ要スルナリ千八百九十四年四月六日ノ判決

第二百五十一號 害スルノ意思ハ偽造ニ依テ人ノ所有權又ハ名譽ヲ毀傷スルコトノミナラス社會安寧ノ爲メニ要スル所ノ保證ヲ除却シ社

員社會中ノ國ニ屬シタル義務ヲ免除シ又ハ社會ヨリ許與スル所ノ權利ヲ指スヲ指ス

利ヲ押領スル等ノ所爲ヲ以テ公益ヲ襲撃スルコトモ亦此意思中ニ包括

スルナリ而シテ此意思ハ其生ゼントスル害ノ一部分ノヨリ發セシキ及ヒ

偶然ニ發ス可キモノタルキハ未タ重罪ヲナサズ唯重罪ヲ生スヘキノ

原因タルニ過キサルナリ上ノ如ク偽造ヲ罰センニハ害ヲ起スノ意思

アルコトヲ要スルカ故ニ全ク此意思ナクシテ證書中ノ危險ナル場合及

ヒ證書ノ眼目タル事柄ヲ變換セシ官吏ハ失錯アリト雖モ罰スヘキ偽

造ヲシトス千八百三十六年十二月二十八日及千八百九十三年二月十八日ノ判決然レモ失錯ノ重大ナルキ

及ヒ他人ニ害ヲ生セシ際ニ於テハ差違アル乎此論題ハ使吏怠リテ他

人ニ召喚狀ヲ書セシメ而シテ其自ラ書シタル旨ヲ記セシメシ場合及ヒ

公證人其管外ニ於テ領収シタル證書ヲ以テ管内ニ於テ領収シタル旨

ヲ偽書セシ場合ニ於テ生セシモノナリ破毀院ニ於テハ最初此二箇ノ

場合ヲ偽造ノ性質ヲ有スルモノト判決セシカ千八百十年六月二十二日及千八百十九年七月十二

年十一月六日ノ判決

其後該官吏原告人ヲ害シ又ハ詭欺ヲ施スノ

意思ナキニ於テハ偽造ヲナサズ唯該官吏ニ關スル懲罰ノミヲ該ツヘ

キコトヲ判決セリ千八百二十五年三月四日及千八百三十五年七月二十

日ノ判決

○刑法理論第六百六十九號參照シ

公證人ノ施シタル偽造ノ例ハ後ニ至リテ證書中ニ證人ノ臨席セシ

コトヲ記載セシ如ク己レノ擔當スヘキ責ヲ免カル、ヲ目的トセシモノ

タルハ罪ヲ犯スノ意思アリトス千八百四十八年六月十五日ノ判決ト雖モ公證人、人

民ヨリ自己又ハ其同僚ニ出シタル詐偽ナル陳述ヲ證書中ニ記載セシ

此ハ此所爲ハ外面上ノ變換ニ過キスシテ公證人ノ方ニ詭欺ノ所行ナ
キカ故ニ之ヲ偽造ト看故スヲ得サルナリ千八百三十三年
八月六日ノ判決

第二百五十二號 損害○偽造罪ノ第三ノ原素ハ變換ノ他人ニ害ヲ釀

スヲ得ヘキヲナリ此他人ニ釀ス所ノ害ハ既ニ前ニ述ヘシ如ク外面ノ

害ト内心ノ害トヲ區別スルニ及ハス千八百五十二年十一月十三日及
千八百五十九年十二月十三日ノ

判決又即時ニ害ヲ生ス可キヲ要セス唯其生スルヲ得ヘキヲ以テ足レ

リトシ又多少損害ヲ起スノ原因タリ或ハ之ヲ起スノ原因トナル可キ

ヲ要ス然レモ此條件ハ稀ニ損害ノ原因トナルヲ得ヘキ偶然ノ事柄

ヨリ生スルヲアリ千八百四十三年四月八日千八百四十五年十一月二
千八百四十八年七月七日及千八百五十七年

三月十一日ノ判決此原因トナルヲ得ヘキ事柄ハ其證書ヨリ損害ヲ生セサル

キハ之ヲ偽造トセス故ニ例ヘハ證書ノ寫書中ノ變換、結約人ノ一方ノ

ミ手署シタル契約書ノ製造、費用帳又ハ鑑定人ノ勉務簿ノ變造、此等ノ

變換ノ所爲ハ皆偽造ニ於ケル起訴ノ原因タルヲ得サルナリ千八百二
年四月二

日千八百八十二年十一月二十三日千八百九十四年十一月二十四日及

七月八日ノ判決九年害ヲ生スルヲ得ヘキ書類中尋常ノ書類未送書翰ノ

如ク害ヲ生スルヲ未定ナルモノト契約書、賣買證書、領収書ノ如ク害

ヲ生スルヲ必定ナルモノト區別セサルヲ得ス此未定ナル書類ヨ

リ現在生シタル損害ハ之ヲ調査シ之ヲ宣告セサルヲ得ス千八百三十
七年一月二十

日千八百六十五年十一月十一日及ト雖モ其他ノ書類ニ付テハ其性質

ヨリ生シタル損害ヲ深ク調査スルヲ要セスト決定セリ千八百五十九
年九月二十二

日千八百五十五年九月十四日ノ判決

第二百五十三號 偽造ノ箇所アル證書ノ其法式ノ瑕璜又ハ之ニ調印

シタル人ノ不能力ノ故ヲ以テ無効ニ屬セシキハ偽造者ヨリ損害ナキ

旨ヲ申立ルヲ得ヘキ乎、破毀院ニ於テハ概シテ之ヲ否決セリ蓋シ破毀

院ニ於テ證書中ニ偽造ノ箇所アリト判定スルハ其證書ヲ製セシ時ニ就テ論スルモノニシテ後ニ如何ナル原因アルモ證書中ニ記シタル金高ヲ消散シ又之ニ記載ナキ金高ヲ生シムル能ハサルモノト決定スレハナリ顛末書ノ末尾ニ其相違ナキ旨ヲ述ヘザルモ該書中ニ施シタル偽造ノ所爲ヲ免カル、能ハサルヲ千八百七十年十一月二十一日ノ判決爲替手形ニ書シタル幼者ノ偽署ハ其偶然ニ効チ生スルニ拘ハラズ調査スルヲ要スルヲ千八百七十二年五月私印アル偽證ノ製造ハ該證書ヲ二通書セサルト雖モ之ヲ有罪トスルヲ千八百七十九年九月九日ノ判決セシハ皆該規則ニ基キシモノナリ但シ全ク無効ニ屬スル證書ト製造ノ時ニ於テ有効ナレモ唯法律上ノ法式ノ遺忘ニ依テ無効トナル可キ證書トテ區別スルヲ要スヘシ第一ノ場合ニ於テハ其變換シタル證書ノ決シテ損害ヲ生セサルルルハ起訴ノ原因タラサル可シ變換シタル私證書ニ手署ヲ爲サ、リシ場合ノ如キ是ナリ千八百七十二年然レモ偽造シタル證書ノ法式ノ遺忘ノ故ニ因テ無効ニ屬シ而シテ其無効ノ偽造者ノ所爲ヨリ出テシニ非サルルハ該證書ノ偽造ヲ有罪トスルハ千八百七十九年八月十四日ノ判決書入質アル貸借證書ニ偽名ヲ署シ自己ノ意外ノ原因ノ爲メニ支障セラレテ遂ニ其効ナキルニシテ千八百七十四年十月十四日ノ判決公證人他人ヨリ金銀ノ委託ヲ受ケ其領収書ニ債主ノ手署ナク己レ一人公證人ノ職掌ヲ以テ之ニ手署セシルハ千八百七十五年七月十七日ノ判決ノ如キ是ナリ刑法律論第六百第二十五十四號 製造シタル證書ニ因リテ正當ノ負債ヲ己レニ辨濟セシメンカ爲メニ行フタル偽造ハ害ナキモノナリ概シテ法律ハ有害ナル變換ニ非サレハ有罪トセス故ニ變換ノ有害ナル効チ生セサルル又ハ負債ヲ辨濟セシメンカ爲メニ負債主ヲ強制スルヲ目的トスルニ過キサルルハ重罪ヲ構造スル所ノ一原素欠缺ス然レモ破毀院ハ以上

ノ主義ニ從テ一度判決千八百九十八年八月三十一日ノ判決ハチナシタル後負債主ノ好意ニ對シテ正當ノ負債ノ辨濟ヲ得ルノ意思ノミヲ以テ偽造證書ヲ用ヒシノ所爲ハ偽造罪ヲ構造ス可キヲ決定セリ千八百九十三年十月六日ノ判決偽造者其貸高ニ超ヘタル金額ヲ要求セシキ其貸金ノ未タ要求ス可カラサルハ負債抵拒法ヲ行フテ辨濟ヲ遅延セシキ或ハ貸金ノ訴訟中ニ係ハルハ無論偽造者ノ爲メニ偽造罪ヲ構造スヘシ何トナレハ上ノ場合ニ於テハ負債主ノ權利ヲ害スルヲ目的トシタル詭欺アレハナリ

第二百五十五號 要略○茲ニ前ニ述來リシ所ノ三則ヲ述ヘンニ眞實ノ變換害スルノ意思損害ノ存在(或ハ存在スヘキ事)ノ三原素ノ具備スルキニ非サレハ偽造罪ヲ構造セサルナリ此三原素ハ均シク偽造罪構造ノ爲メニ必要ナリト雖モ又格別ノ性質ヲ有ス故ニ偽造罪ヲ構造セシニハ唯外部ノ變換アリ且之ヲ確認セシノミヲ以テ足レリトス必ス

第四百四十五條第四百四十六條及ヒ第四百四十七條ニ記載シタル格段ナル場合中ノ一アルヲ要シ又偽造者其所爲ノ道德ニ悖ルヲ知リシヲ以テ足レリトセス必ス他人ヲ害スルノ企ヲ有セシヲ要シ又不正ニ變換ヲ爲セシノミヲ以テ足レリトセス必ス損害ヲ起シ或ハ起スヲ得ヘキヲ要スルナリ是レ即チ偽造罪ヲ構造スル所ノ原素ナリ此原素ハ偽造ノ總テノ種類ニ適當スルカ故ニ若シ偽造罪ノ外貌ヲ有スル所爲アルハ此所爲ハ偽造罪ヲ構造スル所ノ性質ヲ具備スルヤ否ヤヲ審査シ然ル後ニ罪ノ有無ヲ判定ス可キナリ刑法理論第六百八十一號參照

第四百四十五條及ヒ第四百四十六條

○第二項 官吏其職務ノ執行中ニ施シタル偽造ノ罪
 第二百五十六號 區別○刑法ハ文書ノ偽造ニ付書類ヲ別ツテ官ノ文書即チ公文書、商業證書、私書ノ三種トシ又公證書中官吏ノ職務ノ執行ニ付施シタル偽造、平人ノ施シタル偽造、官吏ノ職務外ニ施シタル偽造

官吏其職務ノ執行中ニ施シタル偽造ノ罪

ヲ區別ス

第二百五十七號 官ノ文書。○官ノ文書トハ如何ナル證書ヲ云フ乎、官ノ文書トハ概シテ民法第千三百十七條ニ從ヘハ之ヲ記スヘキ權アル公ケノ官吏ノ其記シタル場所ニ於テ及ヒ法律上ノ正式ヲ以テ領収シタルモノヲ云フ官ノ文書ニ四種アリ立法權ニ於テ定メ而シテ行政權ヨリ出テタルモノ、司法權ヨリ出テタルモノ、諸官署ヨリ出テタルモノ、公證人ノ記シタルモノ是ナリ判決例ニ於テハ公ケノ官吏ノ其職務上ニ記シタル總テノ文書ヲ官ノ文書トス即チ民生證書口千八百十年九月九日、十月二十日、十一月十日、十二月十日、各專門校ノ免狀口千八百二十年六月二十日、七月十日、八月十日、九月十日、十月十日、十一月十日、十二月十日、行政上ノ簿冊口千八百二十三年七月七日、八月七日、九月七日、十月七日、十一月七日、十二月七日、官庫ノ計算簿口千八百二十五年間稅徵收簿口千八百二十八年六月十四日、七月十四日、八月十四日、九月十四日、十月十四日、十一月十四日、十二月十四日、金銀試驗稅ヲ領收スヘキ官吏ヨリ交附シタル證書口千八百二十九年五月十日、六月十日、七月十日、八月十日、九月十日、十月十日、十一月十日、十二月十日、橋堤工手ヨリ交附シタル木材ノ領收書口千八百三十七年九月十日、十月十日、十一月十日、十二月十日、度量管掌ノ官吏ヨリ交附シタル書口千八百三十七年十月十日、十一月十日、十二月十日、シタル受取書口千八百四十二年四月二十日、五月二十日、六月二十日、七月二十日、八月二十日、九月二十日、十月二十日、十一月二十日、十二月二十日、名ノ手署ヲ以テ保證シタル電信口千八百六十七年貯金ノ預リ證口千八百六十八年五月二十日、六月二十日、七月二十日、八月二十日、九月二十日、十月二十日、十一月二十日、十二月二十日、商品預リ所ノ管理人ノ簿冊口千八百五十四年原告人ノ陳述書ヲ領收スヘキ性質及ヒ職務ヲ有スル鑒定人ノ報告書口千八百五十五年三月十日、四月十日、五月十日、六月十日、七月十日、八月十日、九月十日、十月十日、十一月十日、十二月十日、兵役免除ノ爲メニ法律ノ格段ナル規則ニ因テ交附シタル保證狀口千八百五十九年四月十日、五月十日、六月十日、七月十日、八月十日、九月十日、十月十日、十一月十日、十二月十日、雖モ偽造ノ事柄ニ關シテハ之ヲ官ノ文書ト看做スナリ何トナレハ假令文書ハ法式ノ瑕瑾ノ故ニ因テ幸ニ無効ニ屬ストモ其記セシ者ノ内心ヲ探索スレハ官ノ文書偽造ノ未遂犯ニ外ナラサレハナリ

官吏其職務ノ執行中ニ施シタル偽造ノ罪

ルモノニ非ス唯之ヲ構造スルヲ得ルノミナリト雖モ之ニ反シテ他人ノ手署ヲ摸擬シ或ハ想像ノ手署ヲ書スルヲニツナカラハ偽造罪ヲ構造スルナリ而シテ此偽造罪ヲ構造セシムルハ偽造者カ己レノ手署ノ如ク他人ノ手署又ハ想像ノ手署ヲ用ヰシヲ以テ足レリトスルナリ

第二百六十一號 證書ノ變換○偽造成就ノ第二ノ方法ハ證書、文書又ハ手署ノ變換ナリ即チ公ケノ官吏其職務ノ執行ニ付證書ヲ變換シ之ニ因リテ證スヘキ契約又ハ事實ヲ毀損若クハ變更スルヲナリ此變換ハ其他ノ偽造ノ場合ヨリモ深ク重罪ノ推測ヲ生スルヲナク又他人ヲ害スルノ意思ト損害ヲ生ス可キトノ二條件ノ具備スルキニ非サレハ罪科ヲ生セサルナリ故ニ上ノ意思ナク證書ノ不精ナル記載、遺忘、日附ノ錯誤等ヲ改正センカ爲メニ其後ニ施シタル變換ハ起訴ノ原因タルヲ得ス然レモ證書ノ主眼タルトシテ後ニ附記スルカ又ハ日附ノ變換

ノ他人ニ有害ナルキハ然ラス共和十三年九月二十四日及同八月二十六日ノ又手署ヲ變換シ或ハ想像ノ手署ヲ印シタル公證人、遺囑者ノ死後ニ證人ヲシテ遺囑證書ニ手署セシメシ同官千八百二十二年十月ハ人民ヲ害シテ己ノ預リタル金銀ヲ私有センカ爲メニ計算簿又ハ書類ヲ變換セシ官庫ノ官吏千八百七年一月二十九日及同六月五日ノ判決ヲ有罪トス

第二百六十二號 人ノ想像○偽造成就ノ第三ノ方法ハ公ケノ官吏ノ其職務上證書ヲ記載スルニ當リテ臨席ヲ要スル者ニ非サル他人ノ臨席セシ場合ニ於テ其臨席ヲ要スル者ノ臨席セシ旨ヲ記スルヲナリ此他人ノ臨席ヲ以テ證書ヲ記シタル場合ヲ罰スルハ官吏ノ情ヲ知り且不正ノ意アリテ施行シタルキニ限ルナリ何トナレハ官吏若シ其情ヲ知ラス又不正ナル意思ナキニ於テハ其所爲タル唯尋常ノ錯誤ニ過キサレハ素ヨリ之ヲ罰スルノ要ナキヤ明ナレハナリ但シ怠リテ其臨席

官吏其職務ノ執行中ニ施シタル偽造ノ罪

ス可キ人タルヤ否ヤヲ證セサリシ公證人ハ該官取締規則ニ從テ懲罰
ヲ受ケ共和第十一年十一月二十且被害人ニ對シテ賠償ヲ出タサ、ルヲ得
ス

第二百六十三號 證書中ニ書加ヘテ爲ス。○第四百四十五條ノ末尾ノ

項ハ公ケノ簿冊又ハ公證書ノ記了後ニ之ヲ書加ヘテ爲シタル場合ヲ
記載ス共和第十一年六月二十五日ノ法ノ第十五條及ヒ第十六條ハ書
加ヘ等ノ法式ヲ規定ス法式ヲ履踐セスシテ此書加ヘテ爲シ而シ其全
ク怠惰ニ出テシニ外ナラサルハ違警罪トシテ罰金ヲ該ツルノミ然
レモ全ク證書ノ記了後ニ不正ナル意思ヲ以テ書加ヘテ施シ而シ其損
害ヲ生スルヲ得ヘキハ重罪ノ性質ヲ生ス此場合ニ於テハ全ク證書
ヲ記了シタルヤ否ヤヲ調査スルヲ要ス何トナレハ若シ其書加ヘノ證
書記載望願人ノ調印前ニシテ望願人自ラ其書加ヘノ事情ヲ知リシハ

ハ偽造ヲ構造セサレハナリ千八百四十四年六月十五日ノ判決又不正ナル意思即チ詭
欺アリヤ否ヤヲ調査スルヲ要ス何トナレハ調印後ニ日附ヲ釐正セシ
キト雖モ詭欺ナキニ於テハ之ヲ不適法トセサレハナリ千八百八十年十月
七日ノ判決又損害ヲ生スルヲ得ヘキヤ否ヤヲ調査スルヲ要ス何トナレハ後ニ
爲シタル書加ヘノ何タル利益ナク施セシモノニシテ如何ナル損害ヲ
モ生セサルキハ之ヲ有罪トセサレハナリ共和第十三年十二月十二日
ノ判決然レモ日
附ノ變換及ヒ文章ニ句讀ヲ記ス事ト雖モ其有害ナルキハ本條ヲ適施
スルナリ千八百九十二年二月二十日ノ判決
第二百六十四號 外顯ナキ偽造○第四百四十六條ニ記載スル所ノ變換
ハ外面ニ見ハレタル徵候ナキモノナリ即チ證書記載ノ時ニ於テ人ノ
要求セサル箇條又ハ事實ニ反シタル場合ヲ附加スルヲナリ此種ノ偽
造ニ於テモ他ノ偽造ノ場合ニ於ケル如ク素ヨリ不正ナル意思ハ重罪

官吏其職務ノ執行中ニ施シタル偽造ノ罪

ヲ構造スル所ノ必要ナル原素ナリト雖モ第四百十六條ハ格段ニ此事ヲ記載スルヲ要用ナリトセリ何トナレハ證書ノ記載ヲ望願スル者ノ陳述中ニ屢錯誤アルモノナレハナリ然レモ公ケノ官吏己レノ利益又ハ望願人ノ一方ノ利益ノ爲メニ連續詭欺ヲ行ヒシキハ證書中ノ一條ヲ變換セシノミヲ以テ重罪ノ構造アリトス千八百八一年一月七日ノ判決第四百十六條ハ貸借證書又ハ催促狀ヲ手署スルト信スル者ヲシテ賣買證書ニ手署セシメシ公證人ニノミナラス尙ホ左ノ者ニ適當ス、第一貸借又ハ賣買證書中ニ望願人ノ諾セサル偽ノ箇條ヲ記シタル公證人、書加へ或ハ紙片ノ變更ノ如ク外顯アル方法ヲ以テ證書ノ主眼タル事柄若クハ場合ヲ變換セシ公證人千八百四十四年十一月十日ノ判決十望願人ニ交附スル所ノ副書ニ本書ト異リタル記載ヲナシタル公證人千八百八十五年三月十七日及四月十四日ノ判決裁判官ノ關係シ且本書中ニ己レノ手署アルモノト偽リテ己レノ

記載且ツ手署シタル副書ヲ交附シタル裁判所書記千八百七十八年八月廿二日ノ判決用買上ノ命令狀ヲ出シ且帳簿ニ該狀ヲ記載シタル後其本狀ニ此買上トナルヘキ不動産ノ所有主ノ更ニ定ムヘキ住所ヲ買主即チ管ニ通知スヘキ旨ヲ登記シタル使吏千八百十九年六月廿九日ノ判決輕罪又ハ違警罪ノ頗末書中ニ偽ノ事柄ヲ眞實ナリト記載シ又ハ眞實ナル事柄ヲ書シ傍ニ刑ノ加重ヲ來タヌヘキ偽ノ場合ヲ附記シタル司法警察ノ官吏、森林看守人、憲兵及ヒ其他行政官吏是ナリ法律ハ總テ公證書ヲ記載シタル官吏ノ施シタル偽造及ヒ變換ハ損害ヲ生ス可キモノト決定セリ千八百九十五年十月五日ノ判決百六

第二百六十五號 刑罰。○第四百四十五條及ヒ第四百四十六條ハ職務ノ執行ニ付該條ニ記載シタル變造ヲ施シタル一般ノ官吏ニ無期ノ徒刑ヲ適施ス官吏ハ其任ノ爲メニ人民ニ對シテ信用アルノ主義ニ基キテ適

官吏其職務ノ執行中ニ施シタル偽造ノ罪

施スル所ノ此刑ハ從犯者タル平人ニ延及スヘキ乎、第五十九條及ヒ第六十條ハ從犯者ニハ正犯者ノ放免セラレタルキト雖モ之ト同一ノ刑ヲ適施スト云フ概則ヲ舉ケシカ此所ニ於テハ左ノ區別ヲ爲サ、ルヲ得ス即チ公ケノ官吏ノ己レノ施ス所ノ重罪ヲ知リシキ又ハ平人ト一致シテ偽ノ事實ヲ眞實ト保證スルカ或ハ證書中ニ偽ノ契約ヲ書セシキハ該官吏ト從犯者タル平人トチ同刑ニ處ス千八百三十二年七月然レモ該官吏カ證書又ハ人ヲ誤認シテ犯罪ノ意思ナク重罪ノ所爲ヲ行ヒシキハ此誤認ヲ起サシメシ者ハ官吏トノ一致ナク獨リ文書偽造ヲ行ヒシモノナルカ故ニ第四百四十七條ニ從テ獨リ有期徒刑ノ宣告ヲ受クヘシ千八百二十四年七月七日及ヒ同月二十日ノ判決

第四百四十七條

○第三項 平人ノ施シタル官ノ文書ノ偽造ノ罪

第二百六十六號 第四百四十七條ハ平人又ハ公ケノ官吏ノ其職務ノ施行外ニ施シタル文書ノ偽造ヲ記載ス該條ハ第四十五條及ヒ第四十六條ヲ再記シ偽造成就ノ三方法ヲ記載ス即チ文書若クハ手署ノ贋造或ハ變換、契約書、規則書、義務證書若クハ義務釋放證書或ハ此等ノ證書ヲ記了セシ後ニ書加ヘサナスフ及ヒ其證書ヲ以テ證スヘキ箇條、陳述或ハ事實ノ増加若クハ變換是ナリ總テ文書ノ偽造ニ普通ナル其成就方法ノ適施ハ公文書ニ關シテハ左ニ記ス所ノ格段ナル規則アリ

第二百六十七號 文書ノ贋造又ハ變造○第四百四十四條ニ從ヘハ贋造シタル文書ノ義務ヲ生スヘキ書類タルキニ非サレハ文書ノ贋造アラサルナリ何トナレハ重罪ヲ構造スル所ノ原素タル條件ハ諸種ノ偽造ニ適當スレハナリ故ニ姓名ノ手署ナキ證書又ハ唯十字ノ如キモノヲ署セシ證書ノ贋造ハ罰スヘキモノニ非サルナリ千八百六十二年十二月二十日ノ判決總テ他人ノ姓名ヲ用キテ證書ヲ記載セシキハ手署ノ贋造アリ

平人ノ施シタル官ノ文書ノ偽造ノ罪

リトシ其模擬ノ多少精密ナルヲ或ハ通讀ス可キモノタルヲ要セス
 又假令第四百十七條ハ手署ノ贋造或ハ變造ニ非サレハ罰セスト雖モ
 想像ノ姓名ニ偽ノ手署ヲ爲セシキモ亦之ヲ罰スルニ於テ妨ケナシ何
 トナレハ此想像ノ姓名タル犯人ノ姓名ノ變換ニ過キサレハナリ又左
 ノ場合ニ於テハ手署ノ變換アリトス第一不動産ノ所得者債主ノ催促
 ナ免カレンカ爲メニ其賣買證書ニ本姓ト偽名トヲ記セシキ年千八百六
 判決第二兄弟中ノ一人徵兵代役證書中ニ其兄弟ノ名ヲ侵用シ且其手
 署ヲ贋造セシキ年千八百十二年八月是ナリ然レモ婚姻シタル婦詭欺ヲ以
 テ其處女アリシキノ名ヲ證書ニ手署ストモ變換アリトセス何トナレ
 ハ此名タル均シク之ニ屬スルモノナレハナリ刑法律論第七
 第二百六十八號 契約書ノ偽造○第四百十七條ノ第二項ニ記載シタ
 ル契約書ノ偽造ハ證書中ニ想像ノ文書又ハ人ヲ記載スルヲナリ例ヘ

ハ據ルヘキ本書ナキ公證書ノ副書ヲ製造セシキハ想像ノ公證書アリ
 トス而シテ之アリトセンニハ證書カ充分ニ法律上ノ法式ヲ具備スルカ
 又ハ少クトモ其外顯アルモノタルヲ要スヘシ千八百五十年十一月十
 年八月判決何トナレハ若シ其不完全ナルキハ偽造ヲ構造セサレハナリ
 千八百五十七年十一月十五日及千八百五十七年七月七日判決然レモ陪審會ニナス所ノ下問中ニ
 證書ノ偽造ト手署ノ贋造トヲ分別スルヲ要セス唯契約書ノ偽造アリ
 ヤ否ヤチ下問スルヲ以テ足レリトス千八百二十七年七月七日判決醫師又ハ法學士
 免狀ノ製造千八百三十三年人口ノ調査ヲ免カレシメンカ爲メニ製造
 シタル死去又ハ婚姻ノ偽證千八百四十三年三月二十四日及千八百
 ノ文書トス○平人ノ行フタル人ノ想像ニ於ケル偽造ハ公ケノ官吏ノ
 施シタルキト同一ノ性質ヲ有ス千八百十四年六月十七日同千八百十四
 年三月二十四日及千八百四十四年九月五日ノ判決故ニ證書記載ノ時ニ於テ現在ト偽定シタ

平人ノ行フタル官ノ文書ノ偽造ノ罪

ル他人ノ害ニ於テ結約人ノ一方ノ行フタル偽造及ヒ郵便局ノ簿冊ニ想像シタル人ノ名ニ於テ負債釋放ヲ記スルコトハ法律ヲ以テ之ヲ論ス
 千八百二十一年九月十四日千八百二十四年六月十七日千八百五十二年十一月二日及ヒ千八百五十四年六月十五日ノ判決又想像シタル人カ證書ヲ記シ之ニ手署セシテ要セス唯證書中ニ其陳述スル所ヲ證センカ爲メニ其人ノ出席アリタル旨ヲ偽書セシテ以テ足レリトス
 千八百三十五年但シ人ヲ想像セシテノ證書ノ成就前ニ露顯シ而シテ法律上ノ未遂犯ノ原素ノ具備スルキハ未遂犯トシテ之ヲ罰ス
 千八百三十七年七月九日ノ判決

第二百六十九號 證書ノ記了後ニ之ニ書加チナスト〇既ニ第四百十

五條中ニ記載アリタル第四百七十七條ノ此規則ハ證書ノ記了後ニ之ニ箇條ヲ書加フルヲナリ證書ノ記了後ニ望願人ノ一方ニ告知セス且之

ヲ害スルノ意思ヲ以テ箇條ヲ書加フルヲハ總テ之ヲ有罪トス即チ左ノ場合ノ如シ賣買證書中ニ其手署ヲ終リタル後ニ價ヲ辨濟シタル旨ヲ不正ニ附加スルヲ賣買證書中ニ其買主ニ告知セスシテ奪取^{エヒクシヨク}買入物^{タル}ニ因テ取上ケル他人ノ訴ノ場合ニ於ケル賣主ノ擔保ヲ減除スルノ箇條ヲ書加フルヲ千八百三十九年五月五號爲替手形ノ裏面ニ於テ振出シ人ノ姓名ノ上ニ義務ヲ書加フルヲ千八百四十年十月銀行ノ簿冊中ニ辨濟アリタル旨ヲ偽ハリ書加フルヲ千八百四十五年七月七號證書ニ他人ノ裏書ヲナシタル後ニ其證書ニ關係ナキ契約ノ釐正ヲ書加フルヲ千八百五十七年七月七日ノ判決保險證書中ニ保險ヲ受クル者ニ告知セスシテ其雙方ノ間ニ決定シタル事件外ノ契約又ハ保險ニ屬スル物品ノ過分ノ價額ヲ書加フルヲ千八百五十九年五月五號是ナリ

第二百七十號 證書ヲ以テ證スヘキ事實ノ變換〇第四百七十七條ノ第三項ヨリ生スル所ノ第一ノ規則ハ證書ヲ以テ證シ或ハ之ニ記スヘキ

平人ノ施シタル官ノ文書ノ偽造ノ罪

事實又ハ陳述ヲ變換セシキニ非サレハ重罪ノ成立ナキコトナリ此規則
 ナ適施スル左ノ如シ第一規則ノ瑕瑾アルヲ以テ兵役ヲ免除セスト附
 記アル兵役證狀ヲ有スル者舍密術ヲ施シテ上ノ附記ヲ消散セシニ因
 テ偽造ノ訴ヲ受ケタリ然レモ此附記ハ行政上ノ告知ニ過キサルカ故
 ニ其消散ハ證書ヲ以テ證スヘキ陳述ノ變換ニ非ス即チ證書外ノ記載
 タルヲ以テ第四百四十七條ヲ適施スルノ例ニ非サル旨ヲ決定セリ千八百
 三十五年五月二十九日及ヒ千八百五十二年六月十一日千八百四十四
 年六月十一日第二一處
 女賣買證書中ニ婚姻シタル婦ナリト述ヘ偽ノ身分ヲ記載スルモ此身
 分ハ證書中ノ主眼タルコトニ非ス又證書ヲ以テ證ス可キコトニモ非サレ
 ハ其身分ノ偽陳ハ偽造罪ノ原素ヲ構造セサルコトヲ決定セリ千八百四
 十一年四月
三月十日第三出產證書中ニ産兒ノ母ハ即チ陳述人ノ正當ノ婦タルコ
 トヲ偽陳スルモ此偽陳ハ出產證書ノ主眼ニ係ハラサルヲ以テ子ノ父母

ノ其後婚姻スル片ハ證書ヲ以テ證ス可カラサルモノナルカ故ニ偽造
 罪ヲ構造セサルナリ千八百七十年二月然レモ證書ノ一端ニナシタル
 記載及ヒ之ニ附記シタル陳述ハ其主眼タルコトニ非サルモ義務又ハ義
 務釋放ノ格段ナル證書トナルコトアリ此場合ニ於テハ本文偽造ノ故ニ
 非ス附屬文偽造ノ故ニ因テ偽造罪ヲナスナリ即チ賣買契約書ノ一端
 ニ代價辨濟ノ書加ヘ及ヒ兵卒歸休ノコトヲ記シタル後ニ記載シタル就
 役箇條ノ變換千八百二十六年四月ノ如キ是ナリ然レモ此附屬文偽造ノ
 規則ハ記載稅支辨ノ書加ヘニ適當セス何トナレハ記載稅ニ關シテハ
 證書ノ副書ノ一端又ハ下文ニナシタル書加ヘハ附屬文ニ非スシテ本
 文ト合シテ一休ヲ爲スモノ即チ本文ノ一部ナレハナリ千八百五十五
 年六月二十八
日判決ノ

第二百七十一號 證書ヲ以テ證スヘキ事實及ヒ陳述ノ變換ハ文書ノ

變換證書ヲ記シタル公ケノ官吏ニ偽陳ヲナスコト又ハ人ノ想像ニ因テ生スルモノナリ即チ左ノ場合ニ於テハ證書ノ外顯アル變換アリトス、第一出產證書中眞正ナル日附ニ換ヘ偽ノ日附ヲ記セシキ年六月二十二日ノ第二卒業免狀中ニ偽名ヲ以テ之ニ記載アル名ニ換ヘシキ年八月二十五年七月八日及ヒ千八百二十三年八月二十六日ノ第三關稅ヲ免カレンカ爲メニ物品ノ送り狀中ニ偽書セシキ年八月二十六日及ヒ千八百四十九年十月四日ノ第四證人中ノ一人ノ手署ナキニ因テ公證人ノ記シタル證書ノ無効ニ屬ス、可キキニ於テ之ニ其手署ヲ加ヘ一月七日ノ判決又證書中ニ證人ノ臨席アリタルコトヲ記載スルヲ遺忘シ後ニ之ヲ記載シ七月七日ノ判決又陳述人雙方通讀セリノ語辭ヲ後ニ記載セシキ年八月五日ノ判決又「ヒエーダオールドル」名宛人又ハ其受讓者中ニ其辨濟ヲ爲スヘキ場所ヲ後ニ記載セシキ年七月五日ノ判決蓋シ以上ノ場合ニ於テ爲シタル附記ハ

皆不正且ツ有害ナレハナリ○又事實ヲ證スヘキ證書ヲ記スル公ケノ官吏ノ面前ニ於テ其事實ヲ變換スルキハ證書ニ記スヘキ陳述ノ偽造アリトス例ヘハ想像シタル父ノ姓ヲ以テ子ノ姓ヲ記セシキ年八月五日同八月九日及ヒ千八百五十八年六月十七日七月一日ノ判決一絶ヘテ存在アラサリ子ノ死去ヲ陳述セシキ年八月十九日ノ判決ニ權利施行ノ原因トナルヘキ偽ノ身分ヲ陳述セシキ年六月十三日及ヒ千八百九年三月三日ノ判決ノ如キ是ナリ

第二百七十二號 他人ノ名ヲ詐稱シテ公ケノ官吏ノ面前ニ出頭シ此名ヲ以テ公證書ヲ記セシキ人ノ想像ニ於ケル偽造アリトス即チ左ニ列記スル者ハ此種ノ偽造ニ付有罪ナリ第一何某ノ父ナリト詐稱シテ婚姻ノ承諾ヲ述フル爲メニ民生官吏ノ面前ニ出頭セシ者年八月二十日ノ判決第二召喚狀ヲ改メシメンカ爲メニ己レ召喚ヲ受ケタル者ト詐

平人ノ統シタル官ノ文書ノ偽造ノ罪

リテ使吏ノ前コ出頭スル者千八百十一年六月第三他人ニ兵役ノ免除
 ナ得セシメンカ爲メニ其適齡者ノ名ヲ以テ徵兵検査ニ出頭スル癡疾
 者千八百三十三年四月十二日及千八百二十三年四月十二日第四禁錮ノ被罰者コ代リ己レ被罰者
 ナリト偽リテ獄吏ノ前ニ出頭シ禁錮セシメシ者千八百二十七年是ナ
 リ刑法論第七百十二號參觀

第四百七條

○第四項 商業及ヒ銀行ノ書類偽造ノ罪

第二百七十三號 第四百七條ハ官ノ文書即チ公文書ノ偽造ト商業
 書類ノ偽造トヲ記載ス此公文書ノ成就方法ハ均シク商業書ニ適當シ
 其規則制限ヲ共ニス故ニ茲ニ論ス可キモノハ唯商業書類ノ性質ノ如
 何ヲ定ムルニ在ルノミ而シテ此性質ハ偽造ヲ行フタル人ノ身分ニ因テ
 之ヲ定メス偽造又ハ製造シタル證書又ハ文書ノ性質ニ因テ之ヲ定ム
 故ニ商業書類ノ偽造アリヤ否ヤヲ知ラシムニハ先ツ偽造物トシテ訴ア
 リタル文書ノ性質ヲ調査セサルヲ得ス

第二百七十四號 商業又ハ銀行ノ書類○商法第六百三十二條及ヒ第
 六百三十三條ハ商業ト看做ス所爲ヲ列記ス商業書類トハ此商業ト看
 做ス所爲ヲ記載シ且銀行、商業又ハ商業干涉ニ關スル書類ヲ云フ商業
 簿冊ハ其必ス調製ス可キモノト自由即チ適意ニ調製ス可キモノトヲ
 論セス皆商業書類ナリ商法第八條以下爲替手形、商業又ハ「コレスホンメンス」
 ニ關スル「ビエータオルドル」商業ニ關シテ商人ノ間ニ記シタル書及ヒ
 計算書モ亦商業書類ナリ商法第六百三十九條及第四百七條ハ商業及
 ヒ銀行書類ノ偽造ニ付テハ刑ヲ加重ス可キヲ記載スト雖モ至急ニ
 通用スヘキヲ以テ充分ナル保護ヲ要スルモノト商人ノ手ニ止ムルモ
 ノトヲ區別セサリシカ故ニ商業ニ關シ且商法ニ商業ノ書類ト定ムル
 モノハ其種類ノ如何ニ拘ハラヌ皆第四百七條ヲ適施ス可キモノナ
 リ

商業及ヒ銀行ノ書類偽造ノ罪

第二百七十五號 商業簿冊○必ス調製スヘキ簿冊、日記簿、書翰寫取簿及ヒ目錄簿中ニ施シタル偽造ハ無論商業書類ノ偽造ナリ千八百三十三年八月二十三月五日千八百五十七年六月二十六年五月千八百六十二年商業ヲ證センカ爲メニ上ノ簿冊ヲ補備スヘキ自由ノ簿冊中ニ施シタル偽造モ亦商業書類ノ偽造トス千八百四十九年七月二十七日及千八百五十八年八月二十七日十決ノ判 ○左ノ簿冊ハ之ヲ商業簿冊トス、第一商品仲買人ノ簿冊千八百五十五年十月十五日二月二十三 第二食物市場取締人ノ簿冊千八百五十四年二月二十二日第三鐵道會社ノ簿冊千八百九十三年四月四日第四「モントピユテ」官ニテ干渉スルノ仲介人ノ簿冊千八百五十三年十二月十二日是ナリ

第二百七十六號 商業○關スル書類○義務又ハ其釋放ヲ記載スル所ノ商業ニ關スル書類中ニ於テ其眞實ヲ變換スルコトハ第四百四十七條ニ

記載シタル重罪ヲ構造ス故ニ下ノ書類ノ偽造ニハ該條ヲ適施ス即チ銀行ニ關スル者カ手形ニ内金ヲ領収セシ旨ヲ記セシ其文句ノ變換千八百二十五年五月商業取引ニ付一商人ヨリ一他ノ商人ニ交附シタル代金領収書ノ變換千八百三十年八月結社人ノ間ニ決算シタル計算書ノ製造千八百五十六年一月商品ノ交附ヲ得ンカ爲メニ書翰ノ末尾ニ商人ノ手署ヲ偽造スルコト千八百二十七年六月十五日及千八百三十一年四月二十九日掛ケ金ヲ得ルノ商議ヲ容易ナラシメンカ爲メニ記シタル未遂書翰ノ偽造千八百三十一年九月商業證書ト看做スヘキ「クレシ」フオ
ノシエー」土地ヲ抵當トシテ貸ニ對スル邑ノ義務證書ノ變換千八百七五月ノ一商人ノ銀行ヨリ金額ヲ得ルノ命令書ニ偽ノ手署ヲナスコト千百七十四年七月是ナリ但シ商人ノ手署アル書類ト雖モ皆之ヲ商業書類ト看做ス能ハス何トナレハ商法第六百三十八條ノ推測ハ義務ヲ構

商業及ヒ銀行ノ書類偽造ノ罪

造セサル書類及ヒ商人ノ職業ニ關セサル書類ニ適當セサレハナリ又
保險會社ノ如ク契約ノ一部ノ商事ニ關シ一部ノ民事ニ關スルモノア
リ即チ保險會社ノ爲メニハ商業ニシテ保險ヲ受クル者商人千八百六
年一月及ヒ千八百六十五年十月十日ノ判決トテ論セス
ノ爲メニハ民事ナリ宜シク注意スヘシ

第二百七十七號 爲替手形○爲替手形ハ其何人ノ間ニ施行スルヲ論
セス之ヲ商業證書ト看做シ商法第六百三十二條其必ス商人ヨリ出テ且商業ヲ
目的トシテ約セシモノタルヲ要セス故ニ其偽造ハ初メヨリ商業書類
ノ偽造トシテ之ヲ調査ス千八百二十四年一月三日千八百三十二年六
月十四日及ヒ千八百四十年十月二十三日ノ
判決此規則ハ商法第百十二條及ヒ第百十三條ニ記載シタル手形ノ不正
ノ故ニ因テ唯其輕易ノ約束ト看做スヘキ場合ノ外ハ例外アルコトナシ
千八百二十八年九月五日千八百三十二年八月
二十七日及ヒ千八百五十六年十月十日ノ判決

第二百七十八號 「ビエーグオルドル」○此手形ハ商人ノ記セシカ又ハ
商業ノ爲メニ記セシキニ非サレハ商業證書ノ性質ヲ有セサルナリ「ビ
エーグアドミシール」(其記セシ場所ニ非カル他人ノ住所ニ於テ辨濟チナ
ス可キ手形)ニ關シテハ其商業證書タルヤ否ヤニ關シテ疑團アリシカ
當今ハ此手形ハ他ノ場所ニ於テ辨濟スヘキニ拘ハラズ「ビエーグオル
ドル」ノ如ク商人ノ記セシカ又ハ商業ノ爲メニ記セシキニ非サレハ商
業證書ノ性質ヲ得サルコト決定セリ千八百五十二年一月三十日千八
百五十六年十月十日及ヒ同年十
一月二十日千八百五十七年五月八日千八百五十八年十月十日
及ヒ千八百五十九年八月二十七日ノ判決故ニ商品ヲ以
テ辨濟スヘキ「ビエーグオルドル」ノ末尾ニ書シタル偽ノ手署ノ商人ノ
手署ニ非サルカ又ハ商業ニ關セサルモノハ唯私書ノ偽造トスルノミナ
千八百三十五年四月二日千八百六十八年八月二十七日千八百六
十七年四月五日及ヒ千八百六十八年十一月二十七日ノ判決
上ノ手形
ハ假令裏書ヲ以テ他人ニ移轉ストモ其性質ヲ變セサルナリ千八百一

商業及ヒ銀行ノ書類偽造ノ罪

及月二十六日千八百三十八年八月二日然レモ各裏書ノ偽造タルキハ別
 々ノ重罪ヲ構造シ其手形ノ商業書類ノ性質ヲ有スルトキハ各商業書
 類ノ偽造トシテ之ヲ罰ス月千八百六十六年一若シ其商人ノ記シ平人ノ
 裏書セシモノタルキハ判決例ニ於テ之ヲ商業書類ト看做ス何トナレ
 ハ一證書ハ素ヨリ分離ス可カラサルモノナレハナリ千八百四十六年
 月千八百四十七年一
 月二十九日ノ判決

第二百七十九號 左ノ場合ニ於テハ「ビエータオルドル」ニ於ケル商業
 書類ノ偽造アリトス即チ商品ヲ以テ辨濟スヘキ手形ヲ商人ノ記セシ
 千八百五十七年二月二十日ノ判決一商人ノ爲メニ他ノ商人ノ手形
 ヲ記セシ千八百五十六年七月三日及千八百一ノ場所ヨリ他ノ場所
 ニ爲替ヲ以テ金銀ヲ移轉スヘキ手形ニシテ其辨濟スヘキ者ノ商人タ
 ル千八百五十七年〇〇〇〇依テ辨濟スヘキノ語ヲ不正ニ書加ヘ

タル民法上ノ義務ノ手形ニ裏書ヲナシテ他人ニ移轉シタルキ千八百
 三月十三日ノ判決 商人ヨリ商人ニ辨濟ヲ命シテ一ノ場所ヨリ他ノ場所ニ爲替
 ナ以テ金銀ヲ移轉スルキ千八百七十四年七月三日ノ判決是ナリ又之ニ反シテ左ノ
 場合ニ於テハ「ビエータオルドル」ヲ商業書類ト看做サス即チ一ノ場所
 ヨリ他ノ場所ニ移轉スル「ビエータオルドル」ト雖モ爲替ノ性質ヲ有セ
 ス且商人ノ記セサルキ千八百五十九年四月五日ノ判決「ビエータオル
 ドル」ノ商業ニ關セス且手署セシ者ノ商人ニ非サルキ千八百五十六年
 十月十一日ノ判決 他ノ場所ニ於テ辨濟ス可キキト雖モ其手形ノ商業ニ關シ
 且商人ノ手署アルキニ非サレハ商業書ト看做サ、ルキ千八百五十八
 年八月二十七日ノ判決 是ナリ
 第二百八十號 偽造シタル文書ノ公文書又商業書類タルヤヲ調査ス
 ルノ權ハ陪審會ニ屬セス何トナレハ是レ事實ノ調査ニ非スシテ法律

ノ調査ナレハナリ千八百二十五年十月七日千八百二十六年四月一日
 ノ判決故ニ商事ニ關シテ爲替手形ノ偽造アリシハ陪審會ハ爲替
 手形ノ成立アルコト申陳シ又「ビエータオルドル」ノ偽造アリシハ商
 人ノ記セシカ又ハ商業ノ爲メニ記セシモノタルコト申陳セサルヲ得
 ス千八百三十九年十一月十六日千八百六十四年七月若シ書類ノ商人
 ヲリ出テサルハ陪審會ニ於テ其商業ニ關スルヤ否ヤヲ調査スルヲ
 要ス何トナレハ事實ヲ調査スルノ權ハ全ク彼ニ屬スレハナリ然レモ
 法ノ調査ト事實ノ調査トノ錯雜ヲ避ケンカ爲メニ裁判官ハ事實ヲ摘
 撮シテ陪審會ニ簡様ナル商品ノ賣買ハ再ヒ之ヲ賣却センカ爲メニナ
 シタルモノナルヤ又簡様ナル所爲ハ商業ヲ目的トシテ施セシモノナ
 ルヤヲ下問スルヲ得ヘシ刑法理論第七百二十六號參觀

第五百十條

○第五項 私書偽造ノ罪

第二百八十一號 私書ノ偽造ハ輕易ナル偽造ニシテ公文書又ハ商業
 書類ノ偽造ノ如ク刑ヲ加重セサルナリ故ニ第四百七條ハ公文書及
 ヒ商業書類ノ偽造ニ付テハ徒刑ヲ適施スト雖モ私書ノ偽造ニ付テハ
 第五百十條ニ依テ懲役ノ刑ヲ適施ス該條ハ如斯ク輕易ノ刑ヲ適施ス
 ト雖モ偽造罪ノ一般ノ性質ヲ維持シ且ツ第四百七條ニ記載シタル
 方法中ノ一ヲ犯シタルハ非サレハ罰セス故ニ私書ノ偽造ハ公文書
 及ヒ商業書類ノ偽造ノ如ク文書ノ贋造、契約書、規則書或ハ義務ノ釋放
 書ノ製造又ハ證書ヲ以テ證スヘキ箇條或ハ事實ノ變換ヲ施シシヲ要
 スルナリ

第二百八十二號 判決例ハ左ノ場合ニ於テ文書ノ贋造又ハ契約書ノ
 製造ニ於ケル私書ノ偽造アリトス即チ毒殺ヲ企テ製藥者ヨリ毒藥ヲ
 得ンカ爲メニ醫員ノ命令書ヲ製造セシ千八百三十九年三月五日及ヒ
 千八百三十二年七月二十六

私書偽造ノ罪

判決ノ證書中ニ記載アル他人ノ名ヲ以テ賣買ヲ行ヒシキ
 年千八百三十八年五月二十八日
 判決ノ金銀ノ貸主ノ字ヲ讀ムヲ知ラサル借主ニ其貸附シタル金額ニ超
 へタル高チ記載セシメシキ
 年千八百五十年二月二十五日
 判決ノ火災保險ノ契約書中ニ其
 保險ヲ受クル者商人平人ヲ論セスノ姓名ヲ偽造セシキ
 年千八百五十二年三月十日
 及ヒ千八百五十五年五月二十五日
 判決ノ誘導スルヲ容易ナラシメンカ爲
 メ未遂書翰ヲ偽造セシキ
 年千八百三十八年三月二十四日
 及ヒ千八百四十四年四月十七日
 判決ノ契約書
 ナ以テ他ノ契約書ニ代ヘシキ例ヘハ賣買證書ヲ以テ結約人ノ一方ノ
 手署セント欲スル代理證書ニ代シキ
 年千八百二十四年八月二十六日
 千八百三十五年二月十三日
 千八百五十五年五月三十日
 及ヒ千八百五十五年九月二十日
 判決ノ詐偽取財ヲ行ハシカ爲メ又ハ之ヲ容易
 ナラシメンカ爲メニ偽ノ書翰ヲ製セシキ
 年千八百三十二年四月十一日
 千八百三十九年九月十二日
 及ヒ千八百四十二年一月十日
 千八百三十九年九月十二日
 判決ノ委任ヲ受ケサル者ノ押印アル白紙ヲ
 妄用セシキ又委任ヲ受ケタル者ヨリ押印アル白紙ヲ得タル者ノ之ヲ

妄用セシキ(此第二ノ場合ニ於テ他人ニ押印アル白紙ヲ交附シタル受
 任者ハ偽造ノ從犯者ナリ)
 年千八百三十五年一月三十一日
 判決

第二百八十三號 又箇條陳述又ハ事實ノ増加或ハ變換ノ證書ノ主眼
 タル場合ニ關スルキハ私書ノ偽造アリトス即チ他人ニ害ヲ生スルヲ
 得ヘキ偽ノ保證狀例ヘハ幼者ノ貧院ニ入ルヲ證スル所ノ醫員ノ偽ノ
 保證狀ノ如キ是ナリ
 年千八百二十六年九月八日
 判決如此キ偽造ニ付テハ保證狀ヨリ
 生シタル損害ヲ調査シ其解釋書ヲ附シテ陪審會ニ下問スルヲ要ス何
 トナレハ陪審會ニ於テ其生スヘキ損害ノ有無ニ拘ハラス唯他人ヲ害
 スルノ意思ノミヲ取リテ罪科アリト申陳セシキ以テ足レリトセサレ
 ハナリ

第四百四十八條
 及ヒ第四百五十
 一條

○第六項 偽造シタル書類ヲ使用スル罪

第二百八十四號 書類ノ偽造ト偽造シタル書類ノ使用トハ同一ノ罪

偽造シタル書類ヲ使用スル罪

ヨリ生スル所ノ二箇ノ所爲ニシテ各別々ノ二罪ヲナスナリ第四百十八條及ヒ第五百十一條ハ即チ上ノ區別ヲナスカ故ニ偽造シタル公文書又ハ私書ノ使用ヲ徒刑又ハ懲役ノ刑ニ罰ス偽造シタル書類ノ使用ノ偽造ト全ク不關係ナル主刑タルコトハ此二條ヨリ生スルナリ而シテ此二罪ハ相互ニ別々ノ充全ナル重罪ナルカ故ニ書類ノ偽造ハ其使用ナキキ又其使用ト偽造ト關係セサルキト雖モ重罪ナリ

第二百八十五號 以上二罪ノ區別ヨリ左ノ諸事ヲ生ス、第一偽造及ヒ使用ノ訴ハ之ヲ分離シ被告人ハ其所爲ニ付罪人ト宣告セラル、コト千八百二十一年六月七日千八百二十五年四月二十三日千八百二十三年九月五日及ヒ千八百二十三年十二月二十三日ノ判決第二訴訟中ニ偽ノ書類ヲ生セシメシ者ハ其使用ヲ止メシ旨ヲ陳述スルモ訴及ヒ刑ヲ免カル、能ハサルコト治罪法第四百五十八條〇千八百二十三年七月十八日ノ判決第三偽造ノ訴ヲナスニ其偽造シタル書類ノ成立アルコトヲ要セス使用後ニ夫レヲ破却スルモ訴ノ障礙トナルコトナシ但シ

使用前ニ破却セシキハ好意ノ拋棄タルコトヲ述ルヲ得ヘシ千八百二十年三月二十日及ヒ同年六月二十日ノ判決

第二百八十六號 偽書使用ノ重罪ハ三原素ヲ以テ之ヲ組織ス即チ書類ヲ使用セシコト、法律ニ依テ罰スル性質ノ使用タルコト、偽造シタル書類タルヲ知リシコト是ナリ法律ハ使用ヲ組織スル所ノ條件ヲ述ヘサリシカ概シテ使用ハ書類ヲ其用方ニ適シ之ニ由テ其計畫セシ目的ヲ達スルニアリ故ニ偽ノ手形ヲ領受セシメシカ爲メコト人ニ出タスコト、後ニ利益ヲ得シカ爲メニ偽ノ委任狀ヲ出タスコト、至當ナル用方ヲ爲サンカ爲メニ偽ノ書類ヲ交附スルコトハ皆使用ノ所爲ナリ千八百五十一年七月二十日ノ判決以上ノ外總テ使用ト看做スヘキ場合ハ之ヲ調査スルヲ要ス簿冊中ニ偽ノ書ヲ附加シ而シテ其副書ヲ得シコトヲ要求スルノ

偽造シタル書類ヲ使用スル罪

所爲及ヒ公證人競賣ノ顛末書ニ偽ノ日附ヲ記シタル後簿記ノ法式ヲ
履踐シタルノ所爲ハ之ヲ使用ノ所爲ト看做セリ千八百五十一年八月
八日千八百五十三年
八月二十八日及ヒ千八百六
十三年四月十七日ノ判決

第二百八十七號 第二ノ條件ハ偽造シタル書類カ罰スヘキ偽造ノ原
素ヲ具備スルヲ要スルヲナリ故ニ公證書ノ變寫ニシテ公證ニ非サル

モノ、使用ハ第四百四十八條及ヒ第五百一十一條ニ記載シタル重罪ヲ構
造セサルナリ千八百十三年九月二日及ヒ千八百
二十四年二月十一日ノ判決然レモ供給物又ハ工業

ノ記應書中ノ事柄ヲ變換シタルモノ、使用ハ不正ナル使用ナリ千八
百四十八年一月二
十日ノ判決但シ上ニ述ヘタル二條中ノ一ヲ適施シソニハ先ツ使用

シタル書類公文書、商業書又ハ私書タルヤヲ定ムルヲ必用トス千八百
年三月二十三日千八百
日及ヒ千八百五十七年二月十九日ノ判決

第二百八十八號 第三ノ條件ハ情ヲ知リテ使用セシヲ要スルヲナリ
何トナレハ偽書ノ使用ヲ爲シタル者其偽書タルヲ知ラサルニ於テ

ハ無罪ナレハナリ第三百六
十條故ニ偽書使用ニ關シテ犯人カ情ヲ知リシヤ
否ヤヲ裁判官ヨリ陪審會ニ下問セスシテ決シタル審判ハ無効タルヘ

シ千八百十五年五月十八日千八百三十四年六月二十六日千
八百七十五年二月十八日及ヒ同年十一月十八日ノ判決

第二百八十九號 以上ノ三號ニ論スル所ノモノハ偽書使用重罪ノ原
素ナリ其刑罰ニ關シテハ概シテ偽書ノ使用者ノ偽造者ヨリ重キ刑ヲ

受ケサルハ論ヲ俟タサルナリ千八百二十七年四月六日及ヒ千八
百三十二年六月二十二日ノ判決是レ

使用ト偽造トノ同等ヲ定ムル所ノ第四百四十八條及ヒ第五百一十一條ヨ
リ生スルモノナリ然レモ此同等ハ絶テ例外ナシトセス何トナレハ第

百四十八條ハ偽造シタル公文書又ハ商業書ノ使用ヲ有期徒刑ニ罰ス
ト雖モ第四百四十五條及ヒ第四百四十六條ハ偽造ヲ無期ノ徒刑ニ罰スレ
ハナリ故ニ情ヲ知リテ偽書ヲ使用セシ官吏ト雖モ又其偽造シタル公

偽造シタル書類ヲ使用スル罪

文書ヲ使用セシキト雖モ其罰ハ有期徒刑ニ止マルヘシ千八百十三年十月十五日ノ

決判

○第四節 往來免狀、獵免狀、兵卒旅行免狀及ヒ保證狀偽造ノ罪

造ノ罪

○第一項 往來免狀及ヒ獵免狀偽造ノ罪

從第百五十三條至第百五十五條

第二百九十號 刑法ハ公文書、商業書類及ヒ私書ノ偽造ニ續キ往來免狀、獵免狀、兵卒往來免狀及ヒ保證狀ノ偽造ヲ記載セリ此第二種ノ偽造ハ第一種ノ偽造ト同一ノ效果同一ノ危害ヲ生セサルヲ以テ之ヲ輕罪トス初メ第百五十八條ハ刑ヲ加重スヘキ事情アルキニ於テハ第二種ノ偽造ヲ重罪トセシカ千八百六十三年五月十三日ノ法ハ此偽造ニ付テハ全ク重罪ノ名ヲ消滅シタリ但シ第二種ノ偽造ヲ構造スル所ノ條件ニ關シテハ第一種ノ偽造ヲ構造スルモノト異ナルヲナシ故ニ往來

免狀又ハ保證狀ヲ變造スルモ其不正ノ意思ナク且何人ニモ害ヲ醸ス可カラサルモノタルキハ決シテ有罪ニアラサルナリ又偽造ノ未遂犯ノミハ有罪ニ非サルナリ何トナレハ總テ偽造ハ使用ニ因テ始メテ成就シ且ツ其製造方法ハ格段ナル未遂犯ヲ構造スル所ノ豫備ノ所爲ニ過キサレハナリ

第二百九十一號 千八百六十三年五月十三日ノ法ハ第百五十三條ニ附加ト變更トヲ施シタリ即チ該條ヲ獵免狀ノ偽造ニ迄擴充シ且之ヲ往來免狀ノ偽造ト同視セリ又一年乃至五年ノ禁錮ヲ六月乃至三年ニ減縮セリ

第二百九十二號 往來免狀又ハ獵免狀ノ偽造變造ハ其所爲ト不正ノ意思ト他人ニ害ヲ醸ス可キトノ三條件ノ具備スルキニ非サレハ第百五十三條ノ輕罪ヲ偽造セス往來免狀及ヒ獵免狀ノ偽造ニ於ケルノ

往來免狀及ヒ獵免狀偽造ノ罪

意思トハ第五百五十六條ニ從ヘハ官ノ監察ヲ免カル、トナリ損害トハ官ノ目ヲ竊ミ所有權ニ損失ヲ來サシムルヲナリ故ニ輕罪ヲ構造セシニハ唯證書ニ記載シタル陳述ヲ變換セシノミヲ以テ足レリトセス必ス監察ヲ誤ラシムルノ目的即チ權利ヲ掠奪スルノ目的ヲ以テ變換ヲ施セシヲ要スルナリ千八百三十九年十一月十一日及千八百三十九年十一月十一日ノ判決又往來免狀及ヒ獵免狀ハ其必要ナル法式ヲ具有スルヲ要ス故ニ之ヲ交附スル管掌ノ官吏ノ手署免許ヲ得ル者ノ姓名又ハ日附ナキ免狀ハ其力ナキカ故ニ亦害ヲ生スルヲナシ然レモ檢査ナル語ノ書加ヘ又ハ其破却ノ如ク證書ノ主眼タル法式ノ變換ハ輕罪タルヘシ千八百五十年五月三十一日ノ判決

第二百九十三號 第五百五十三條ハ往來免狀及ヒ獵免狀ノ偽造變造ノミナラス其偽造變造シタルモノ、使用ヲ記載ス往來免狀及ヒ獵免狀ノ使用トハ其目的タル用方ヲ爲セシヲナリ故ニ偽造者又ハ變造者ニ

非サル者ノ唯之ヲ所持シ之ヲ證トセサルモハ使用ニ非サルナリ、第二百八十一條ハ偽造シタル保證狀往來免狀及ヒ兵卒旅行免狀ノ所持人ノ乞丐者又ハ無產者タルモハ乞丐又ハ無產ノ所爲ニ適施スヘキ刑ノ最上極ヲ適施ス可キヲ記載セシカ故ニ第五百五十三條及ヒ第五百五十四條ニ例外ヲ設ケタルニ似タレモ此二條ハ唯免狀又ハ保證狀ヲ所持スルノ所爲ヲ論セス其使用ノヲノミヲ論スルモノナレハ爲メニ變更セラレタルヲナシ刑法理論第七百四十四號參照

第二百九十四號 第五百五十四條ハ往來免狀及ヒ獵免狀ニ變姓ヲ記スルノ所爲及ヒ其交附ニ關係シタル證人ヲ罰ス法律ハ唯變姓ヲ用ヒシノ一事ヲ有罪トシ偽ノ名又ハ身分ヲ用キシハ之ヲ有罪トセス證書中ニ偽ノ身分ヲ掠用スルノ所爲ハ其詐僞取財ノ爲メニ用立テタルモニ非サレハ輕罪ヲ構造セサルナリ官爵ヲ掠用スルノ所爲モ亦第二百

往來免狀及ヒ獵免狀偽造ノ罪

五十九條ニ記載シタル場合アルニ非サレハ上ト同一ナリ己レノ婦ノ名アル往來免狀ヲ以テ他ノ婦人ヲ誘ヒ婦ノ身分ヲ掠川セシキモ亦然リ千八百六十三年五月十三日ノ法ハ第百五十四條ニ一項ヲ附加シテ其意ヲ擴充シ他人ノ姓名ヲ以テ交附シタル往來免狀又ハ獵免狀ノ使用者ニ該條ヲ適施ス可キヲ定メリ蓋シ法律ハ當時迄如此キ使用ヲ罰セカリシ故ナリ

千八百四十九年
七月九日ノ判決

第二百九十五號 第百五十四條ノ第三項ハ旅舎ノ簿冊ニ旅客ノ僞名ノ登記ヲ豫防スルヲ目的トス旅舎ノ主人ノ責任ハ第七十五條第百五十四條及ヒ第四百七十四條ノ第二項ニ之ヲ定ム第四百七十四條ノ第二項ハ旅舎ノ主人ノ其簿冊ニ旅客ノ姓名ヲ登記スルノ遺忘ヲ罰ス第七十三條ハ登記ヲ遺忘シタル旅客ノ犯シタル重輕罪ニ付旅舎ノ主人其責ニ任ス可キヲ記載ス第百五十四條ハ旅舎ノ主人情ヲ知リテ旅

客ノ僞名ヲ登記セシヲ罰ス此末尾ノ場合ニ於テハ前二條ノ場合ノ如ク怠惰ノ所爲ヲ罰スルニ非スシテ旅舎ノ主人ノ全ク情ヲ知リテ旅客ノ僞名ヲ登記シ暗ニ之ト通セシノ所爲ヲ罰ス千八百六十三年五月十三日ノ法ハ旅舎ノ主人ノ其旅客ト通シテ故ラニ其姓名ヲ登記セザリシ場合ヲ附記セリ此所爲ハ僞名ノ登記ト同一ノ効ヲ生シ又同一ノ詭計アリトス

第二百九十六號 以上ノ規則中ノ一二ノ如ク往來免狀ノ交附ニ關スル共和第四年六月十七日ノ法ヨリ採用シタル所ノ第百五十五條ハ二箇ノ別々ノ所爲ヲ記載ス第一往來免狀ヲ交附セシカ又ハ之ヲ交附セシメシ公ケノ官吏ノ其領受人ノ身分ヲ保證セシムルヲ遺忘セシノ所爲第二往來免狀ノ望願人ノ僞名ヲ用フルヲ知リテ之ニ其僞名ヲ以テ該免狀ヲ交附シタル同官吏ノ所爲是ナリ第一ノ場合ニ於テハ第百五

十五條ハ姓名ヲ保證セシムルノ遺忘ニノミナラス身分ヲ保證セシムルノ遺忘ニモ亦適當ス此身分ヲ保證セシムルノハ第五百十四條ト相反スルガ故ニ左ノ不平均ヲ生ス即チ官吏ハ身分ヲ保證セシムルノ遺忘ニ付罪ヲ蒙リ之ニ反シテ免狀ノ望願人及ヒ其證人ハ偽ノ陳述ニ付罪ヲ蒙ラサル是ナリ千八百六十三年五月十三日ノ法ハ第五百十五條中往來免狀ヲ交附セシノ語辭ノ後ニ又ハ之ヲ交附セシメシノ語辭ヲ附記セリ其由來ヲ探ヌルニ若シ其附記ナキハ往來免狀ヲ交附スルノ意見ヲ有シテ自ラ之ヲ交附セカリシ邑長ニ該條ヲ適施スル能ハスト云フ判決千八百五十三年十月十四日ノ判決ニ基キシモノナリ○該條ノ第二項ハ偽名ニノミ適當シ偽ノ身分ニハ適當セサルナリ

從第五百五十六條至第五百五十八條

○第二項 兵卒旅行免狀偽造ノ罪

第二百九十七號 兵卒旅行免狀ノ目的トスル所ニアリ其一ハ官ノ監察ヲ容易ナラシムルヲ其一ハ旅行費用ヲ其所持人ニ交附セシムルヲナリ此免狀ノ偽造、變造及ヒ其偽造又ハ偽造シタル免狀ノ使用ヲ罰スル所ノ第五百五十六條ノ第一項ハ第五百五十三條ト同一ノ文義ニシテ此免狀ノ偽造ノ罪ヲ往來免狀ノ偽造ノ罪ト同視ス何トナレハ此二罪ノ目的トスル所均シ官ノ監察ヲ欺クニ外ナラサレハナリ此二種ノ免狀ニ適スル規則如此ト同一ナルカ故ニ兵卒旅行免狀ノ偽造ヲ構造セシムルハ必ス變造ノ所爲ト不正ノ意思ト監察ヲ欺クヲ得ヘキトトノ三條件ノ具備セサルヲ得サルナリ判決例ニ於テハ所持人ノ身分ヲ記シタルシ字アル兵卒旅行免狀ヲ破却シタルノ所爲ニ往來免狀ニ關スル同所爲ニ第五百五十三條ヲ適施セシ如シ第五百五十六條ヲ適施セリ千八百九十六年十二月十九日ノ判決

第二百九十八號 兵卒旅行免狀ノ變造ノ目的トスル所唯官ノ監察ヲ

免カル、ノ一事ニ止ララスシテ官庫ノ損害ニ於テ其費用ヲモ領受スルニ在ルキハ其刑ヲ加重シ其不理ニ得タル金高ノ百「フラン」ニ超過セサルキハ六月乃至三年ノ禁錮ノ刑ニ代ヘ一年乃至四年ノ禁錮ノ刑ヲ適施シ其百「フラン」ニ超過セシキハ二年乃至五年ノ禁錮ノ刑ヲ適施ス但シ茲ニハ偽造罪ヲ構造スル所ノ規則ニ一ノ例外アリテ唯偽造シタル兵卒旅行免狀ノ官庫ノ損害ヲ醸スヲ得ヘキ「ノミ」ヲ以テ足レリトセス必ス損害ヲ醸セシ「フ」即チ既ニ費用ヲ領受セシ「フ」ヲ要ス是レ即チ第百五十六條第三項ノ適施ナリ若シ此免狀ノ偽造ニ非スシテ副官ヨリ下士官又ハ下士官ノ附屬ナク旅行スル兵卒ニ交附シタル費用辨濟ノ命令狀ヲ變造シタルキモ亦該條ヲ適施ス何トナレハ此命令狀ハ兵卒旅行免狀ニ屬シ且之ヨリ生シタルモノナレハナリ千八百三十二年八月九日ノ判決

第二百九十九號 第百五十四條ト相關係スル所ノ第百五十七條ハ想

像ノ名ヲ以テ公ケノ官吏ヨリ兵卒旅行免狀ヲ交付セシメシ者及ヒ他人ノ名ヲ以テ交附シタル該免狀ヲ使用セシ者ニ第百五十三條ヲ適施ス第一ノ場合ニ於テハ該免狀ヲ交附スルノ任アル官吏ヨリ之ヲ交附セシカ又ハ他人ノ名ヲ以テ之ヲ交付セシヲ要シ第二ノ場合千八百六十三年五月十三日ノ法ニ依テ定メシモノニ於テハ犯人カ己レニ屬セサル免狀ヲ使用セシ「フ」ヲ要スルナリ

第三百號 前號ニ示セシ二箇ノ場合ニ於テハ第百五十六條ノ區別ニ從テ其所爲カ官ノ監察ヲ免カル、チ目的トセシカ又ハ官庫ヨリ當然得ヘカラサル旅費ヲ受ルチ目的セシカヲ審査セサルチ得ス又第百五十七條ニ記載スル所ノモノハ名ノ偽稱ノ「ミ」ニシテ身分ノ偽稱ニ非サル「フ」ヲ注目セサルチ得ス故ニ兵卒旅行免狀ニ身分ヲ偽稱セシノ所爲ハ其官ノ監察ヲ免カル、チ目的トセシキニ非サレハ訴ノ原由トナル

トナシ然レモ若シ其偽稱ノ權利施行ノ爲ニ用立チシカ又ハ當然得可
 カラサル或ハ過分ナル旅費ノ領受ニ用立チシキニ於テハ第五百五十六
 條ノ第三項及ヒ第四項ヲ適當セサル能ハサル可シ千八百八年四月
 二十一日ノ判決
 第三百一號 第五百五十八條ハ公ケノ官吏ノ從犯ヲ記載ス此官吏ノ此
 從犯ノ所爲アリタルカ爲メニ兵卒旅行免狀ノ所持人ノ刑ヲ加重セス
 該條ハ唯官吏ニ適スルノミ是レ第五十九條ノ瞭然タル例外ナリ第百
 五十八條ノ場合ニ於テ官吏ヲ有罪トセンニハ左ノ條件アルヲ要ス第
 一兵卒旅行免狀ヲ交付スヘキ官吏タルヲ第二名ノ偽稱ヲ知リテ其免
 狀ヲ交附セシト是ナリ故ニ唯調査ヲ施サ、リシヲ以テ足レリトセス
 情ヲ知リテ交附セシト要スルナリ其刑ニ至リテハ偽造ヨリ生シタ
 ル効ノ大小ニ從テ種々ノ階級アリ即チ官ノ監察ヲ免カル、チ目的ト
 セシキハ一年乃至四年ノ禁錮ニ處シ免狀ノ所持人カ百「フラン」以下ノ

旅費ヲ領受セシキハ二年乃至五年ノ禁錮ニ處シ又百「フラン」以上ヲ領
 受セシキハ懲役ノ刑ニ處ス

從第五百五十九
 條至第六十
 二條

○第三項 保證狀偽造ノ罪

第三百二號 概シテ保證狀ノ變換ハ其義務若クハ義務釋放又ハ陳述
 若クハ箇條ニ係ハルキハ其公文書若クハ私書タルニ從テ他ノ證書ト
 同一ノ性質ヲ有ス然レモ法律ハ此概則ニ二箇ノ例外ヲ定メ公ケノ義
 務ヲ免カレンカ爲メノ疾病又ハ癡疾ノ保證狀ト幸福ヲ得セシメンカ
 爲メノ善行又ハ貧困ノ保證狀ノ偽造ヲ他ノ證書ノ偽造ト區別シ之ヲ
 輕罪トセリ偽造ノ重罪ノ規則ニ適順スヘキ保證狀ニ關スル規則ヲ說
 明センカ爲メニ先ツ茲ニ上ノ二種ノ保證狀ノ性質ト區域トヲ說示サ
 ン

第三百三號 疾病又ハ癡疾ノ保證狀○此種ノ保證狀ハ第五百五十九條

保證狀偽造ノ罪

及ヒ第六十條ノ目的タル左ノ場合ニ於テ偽造アリトス、第一此保證狀ヲ記スヘキ權アル者ノ名ヲ以テ之ヲ製セシキ、第二其權アル者自ラ記シテ疾病又ハ癱疾ヲ偽證セシキ是ナリ但シ第一ノ場合ニ於テハ左ノ三條件ノ具備スルヲ要ス、第一保證狀ヲ以テ疾病又ハ癱疾ナキ者ヲ疾病者又ハ癱疾者ナリト保證スルヲ、第二内外科醫師又ハ下等醫師ノ名ヲ以テ保證狀ヲ製スルヲ、第三例ハ陪審士タルヲ又ハ兵役ノ如ク公ケノ義務ヲ免カル、ヲ目的トスルヲナリ此最尾ノ條件ハ即チ第一百五十九條ニ記載スル損害ヲ構造スルモノナリ故ニ被罰者ヲ病院ニ移スヲ目的トシテ保證狀ヲ記スルモ該條ヲ適施スルノ例ニ非サルナリ

千八百七十五年五月二十二日ノ判決

第三百四號 第六十條ハ保證狀ノ之ヲ記スル權アル者ヨリ出テタル場合ヲ記載ス該條ヲ適施センニハ亦左ノ三條件アルヲ要ス、第一内

外科醫師又ハ下等醫師ヨリ保證狀ヲ交付セシヲ、千八百三十六年第二疾病又ハ癱疾ヲ偽證セシヲ、第三此二種ノ疾病ノ公ケノ義務ヲ免カル、ニ當然タルヲ、千八百二十六年九月八日ノ判決是ナリ若シ其偽造ノ臆神又ハ愛情ヨリ出テスシテ贈物又ハ約束ニ原因スルキハ偽造者ノ刑ヲ加重ス以前ハ之ニ追放ノ刑ヲ適施セシカ千八百六十三年五月十三日ノ法ハ之ニ代ヘ該所爲ニ適スヘキ禁錮(三年乃至四年)ノ最上極ヲ適施ス可キヲ定メリ但シ此規則ヲ適施センニハ醫師ノ尋常ノ診察料ヲ收受セシヲ以テ足レリトセス何トナレハ是レ其訪問又ハ保證狀ノ代價ニ過キサレハナリ然レハ其過分ニ收受セシヲ要ス何トナレハ犯罪ノ推測ヲ來タサシムルモノハ此一事ニ外ナラサレハナリ又贈物ヲ供給シ之ヲ收受セス約束ヲ述ヘ之ヲ諾セサルキモ亦充分トセス何トナレハ法律ハ此場合ニ於テ未遂犯ヲ罰セサレハナリ然レハ醫師ノ贈物ヲ收受シ

保證狀ヲ交附セシヲ要スルナリ

第三百五號 善行又ハ貧困ノ保證狀○第百六十一條ハ二箇ノ場合ヲ記載ス、第一保證狀ニ記スル所ノ人ニ幸福、地位、信用又ハ救助ヲ得セシムルニ適當ナル偽ノ保證狀ヲ製シテ、第二官吏又ハ公ケノ官吏ノ名ヲ以テ保證狀ヲ製セシヲナリ該條ハ如此ク二箇ノ場合ヲ列記スト雖モ此二件ニノミ區域ヲ限リタルニ非ザレハ同一ノ目的ヲ以テ記シ同一ノ効ヲ生スル保證狀ニシテ他人ニ害ヲ醸サ、ル以上ハ總テ該條中ニ包含ス但シ間接ニ他人ニ害ヲ醸スルハ此例ニ非ス一千八百二十五年十月十一日ノ判決茲ニ述ル所ノ保證狀トハ概シテ公ケノ官吏ヨリ其望願人ニ故ラニ交附シ且ツ其人ノ爲メニ故ラニ利益又ハ幸福ヲ來タサシムルヲ目的トシタルモノヲ云フナリ

第三百六號 然レモ偽造ノ訴アリタル保證狀ノ法律ノ命令ニ因テ平常已レコ歸セサル權利又ハ義務ヲ施行スル官吏ヨリ出テ且其公ケノ義務ヲ免カレシムルニ必要ナルキハ第百四十七條及ヒ第百四十八條ニ記載スル所ノ證書中ニ加ハルヘシ即チ小學教育ニ付公ケニ人ノ學力ヲ定ムル爲メノ保證狀日及ヒ同月三十一日ノ判決

三、レシヨンドン
又、ルノ保證狀十月一日ノ判決憲兵ニ加ハルノ許可ヲ得セシメンカ爲メニ聯隊會議員ノ名ヲ以テ製シタル善行ノ保證狀十九日及ヒ同年十月十五日代卒タルノ許可ヲ得セシメンカ爲メニ邑長ヨリ出シタル善行ノ保證狀二千八百二十三年七月十七日千八百三十五年六月無期ノ歸休ニ付軍人ニ要用ナル保證狀五年二月八日及ヒ同年八月二十日千八百五十年八月十三日ノ判決出費ヲ免カル、ノ許可ヲ得セシメンカ爲メニ邑長ヨリ交附シタル貧困ノ保證狀是ナリ

第三百七號 第百六十一條ノ第二ノ場合ハ官吏又ハ公ケノ官吏ノ名

ヲ以テ保證狀ヲ製セシメナリ官吏ノ自ラ之ヲ製シ且偽造ノ原素ノ具
 備セルキハ重罪ナル偽造アリトス千八百二十九年七月十六日ノ判決平人ノ名ヲ以テ
 保證狀ヲ製セシメノ所爲ハ以前之ヲ罰セサリシカ千八百六十三年五月
 十三日ノ法ノ制定後ハ之ヲ有罪トシ之ニ酌量減輕ヲ施シ六月乃至二
 年ノ禁錮ニ代ヘ十五日乃至六月ノ禁錮ヲ適施ス保證狀ハ公ケノ官吏
 ノ名ヲ以テ製造シタルキト平人ノ名ヲ以テ製造シタルキト其性質ニ
 於テ變更ナシトス但シ第一ノ場合ニ於テ官吏カ保證狀ヲ記スルノ任
 アリシヤ及ヒ其職務上之ヲ記セシヤヲ調査スルノ要ナク唯官ノ權ヲ
 有シテ之ヲ記セシメ以テ足レリトス千八百五十六年二月二十日及ヒ千八
 百二十五年一月二十二日ノ判決

第三百八號 第六十一條ノ第二項ハ元來真正ナル保證狀ト雖モ之
 ニ記載ナキ人ニ之ヲ所有セシメシメカ爲メ之ヲ變造セシ場合ヲ記載ス
 此規則ハ已レノ受ケタル保證狀ニ已レノ利益ノ爲メ更ニ書加ヘテ爲

セシ者ニ適當スヘキ乎如此キ書加ヘノ證書ニ記載セシモノト別事ナ
 ルキト雖モ終ニ第六十一條ノ規則中ニ歸戻スヘキ所爲ヲ證スルキ
 ハ該條ヲ適施スルヲ得ヘシ千八百二十六年三月十一日
 及ヒ同年六月九日ノ判決

第三百九號 他ノ性質ノ保證狀○第六十二條ハ有罪ナル偽造中ニ
 第五百十九條第六十條及ヒ第六十一條ニ記載セシモノニ非サル
 他ノ性質ノ偽ノ保證狀ヲ記載ス故ニ醫師ノ名ヲ以テ又ハ醫師自ラ製
 造シタル偽ノ保證狀ノ公ケノ義務ヲ免カル、ヲ目的トスルニ止マル
 キハ輕罪ヲ構造シ又善行又ハ貧困ノ偽ノ保證狀或ハ所爲又ハ公ケノ
 義務ヲ充タセシメノ偽證ノ之ニ記載アル人ニ幸福ヲ來タサシムルヲ目
 的トスルニ止マルキハ均シク輕罪ヲ構造ス以上二箇ノ場合ニ於ケル
 目的ハ即チ保證狀ノ性質ヲ構造スルモノナリ故ニ左ノ効ヲ生ス第一
 第五百十九條ヨリ第六十一條ニ至ルノ三條中ニ記載シタル保證狀

ノ一ナル此規則ハ第三百三十二條ヨリ第六百六十二條ニ至ルノ條令中ニ記載シタル使用ノ場合ニハ其重罪タルキト輕罪タルキトヲ論セス總テ適當スルナリ

第三百十二號 第六百六十四條ハ千八百六十三年五月十三日ノ法ニ依テ改定ニ屬シ爲メニ左ノ諸件ヲ生ス、第一偽造ノ罪人ニ對シテハ其偽造ニ依テ如何ナル不正當ナル利益ヲモ得ヌ又外部ノ損害ヲモ醸サ、ルキト雖モ百「フラン」乃至三千「フラン」ノ罰金ヲ宣告スルヲ、第二偽造ニ依テ利益ヲ得シカ又ハ之ヲ得ヘキキハ其高ニ應シテ罰金ヲ命スルヲ、第三偽造ノ重罪タルキノミナラス輕罪タルキモ亦罰金ヲ適施スヘキヲ是ナリ

第三百十三號 第六百六十四條ニ依テ宣告スヘキ罰金ハ其高ニ制限アリト雖モ裁判官ノ意見ニ因テ自由ニ適施ス可キモノニ非サルカ故ニ

偽造ニ關シテ罪人ト宣告セラレタル者ニハ都テ之ヲ適施スヘシ千八百一十四年七月一日及千八百四十七年四月二十日ノ判決又此罰金ハ被罰者ノ爲メニ酌量減輕ヲ施セシキト雖モ之ヲ宣告セサルヲ得ス何トナレハ酌量減輕ヲ施セシカ爲ニ偽造ノ所爲ト其性質ト相分離セサレハナリ但シ偽造ニ付輕罪ヲ構造スヘキ際ニ於テハ左ノ區別ヲ爲サルヲ得ス若シ適施スヘキ刑カ一年以上ノ最下極ノ禁錮又ハ五百「フラン」以上ノ最下極ノ罰金タルキハ禁錮罰金共ニ第四百六十三條ノ第九項ニ定メタル期限又ハ金高ニ迄減輕スルヲ得若シ刑カ以上ノモノヨリ降リタル最下極ヲ有スルキハ罰金ヲ十六「フラン」以下ニ減シ且既ニ廢止ニ屬シタル同條ノ末尾ノ項ニ從テ處分スルヲ得ヘシ

第三百十四號 罰金ハ書類ノ偽造ト均シク偽造シタル書類ノ使用ニ適當ス千八百五十三年三月十七日及千八百五十四年九月一日ノ判決即チ貨幣ノ偽造及其偽造シタ

諸種ノ偽造ニ通シ用フル規則

ル貨幣ノ使用千八百五十七年十一月十四日及千八百四十條ニ記載スル所ノ贋造千八百四十七年十月十日ノ判決無キ人ヲ想像シ之ニ依テ偽造ヲ爲スノ未遂犯千八百四十七年四月二十日ノ判決及千八百四十七年九月二十五日ノ判決ニ適當ス而シテ罰金ハ偽造ニ關シテ罪人ト宣告セラルタル各人ニ之ヲ宣告セサルヲ得ス千八百五十六年九月二十五日及千八百五十七年八月二十九日ノ判決但シ偽造罪ト之ヨリ重キ他ノ罪ト具發セシキハ治罪法第三百六十五條ニ依テ其重キニ從フカ故ニ罰金ヲ宣告セサル可シ千八百五十四年七月九日及千八百五十五年五月十八日ノ判決罰金高ノ三千「フ」以上タルキハ其原因タル不正當ニ得タル金高ヲ調査セサルヲ得ス是レ法律ニ定ムル所ノ制限ヲ超ヘサルヤ否ヤヲ檢査センカ爲メナリ

第三百十五號 第六十五條ハ千八百四十八年四月十二日ノ布令ニ

依テ廢止セラレタリ

○第二款 官吏瀆職ノ罪及ヒ官吏其職務ノ執行ニ就テノ重罪及ヒ輕罪

○第一節 監守自盜ノ罪

從第三百六十六條至第三百七十三條

第三百十六號 瀆職ノ罪○官吏ノ重罪及ヒ輕罪ニ關スル此款ノ冒頭ニ置キタル第六十六條第六十七條及ヒ第六十八條ハ實施ナシ唯共和第四年二月三日ノ刑法第六百四十一條ヨリ第六百四十五條ニ至ル條令ノ意味ヲ探リテ官吏其職務ノ執行ニ就テノ重罪カ瀆職ノ罪タルト總テノ瀆職ノ罪ノ剝奪公權ノ刑ニ罰ス可キト輕罪ノ瀆職ノ罪ヲ爲サルトヲ記載スルニ止マレリ故ニ全ク理論ニ屬スル其義解ハ官吏ノ其職務ノ執行ニ就テノ重罪ヲ記載スル所ノ第六十九條以下ノ條令ヲ絶テ變更スルヲナキヲ以テ無用タルヘシ然レモ是ヨ

監守自盜ノ罪

ヨリシテ瀆職ノ罪ヲ構造スル所ノ三條件ヲ生ス即チ重罪ノ所爲アル
 一官吏ノ之ヲ犯セシテ其職務ニ關シテ行ヒシコト是ナリ

第三百十七號 官。○茲ニ官吏裁判所屬ノ官吏及ヒ公ケノ官吏ノ區別ヲ掲クルハ蓋シ無益ノ事ニ非サル可キヲ以テ之ヲ左ニ述ヘン即チ
 官吏トハ政府ノ名ヲ以テ官ノ威權ノ一部ヲ行フ者ヲ云フ裁判官、檢事、
 司法警察吏、縣令、警部是ナリ裁判屬ノ官吏トハ公ケノ事務ヲ行フト雖
 モ官ノ權威ノ一部ヲモ行ハサルモノヲ云フ公證人、代書人、使吏、評價人
 是ナリ公ケノ官吏トハ官ノ威權ヲ行ハンカ爲メニ格段ナル委任ヲ受
 ケタル政府ノ補吏ヲ云フ法律ノ許ス所ノ命令ヲ施行スルノ任アル武
 官是ナリ此諸種ノ官吏ハ治罪法ノ部第八百九十八號以下及ヒ第一千二
 百十六號以下ニ之ヲ列記ス

第三百十八號 第三百十九號ノ適施○該條ハ職務上管守スル所ノ公

私ノ金銀或ハ貸金ノ證券或ハ其他ノ證書書類或ハ動産ヲ竊取セシ収
 稅官共下吏、受託人及ヒ計算人ニ適當ス若シ其他ノ官吏ノ其職務ニ關
 シテ預リ或ハ送致セシカ爲メニ領収シタル證書ヲ竊取スルヲ目的ト
 セシキハ此所爲ハ第六十九條ヲ以テ論セス第七十三條ヲ以テ之
 チ論ス又舊記載、書記局或ハ公ケノ預リ所ニアル書類、刑事訴狀、簿冊、證
 書及ヒ動産ヲ竊取スルヲ目的トスルキハ該所爲ニ第六十九條及ヒ
 第七十三條ヲ適施スルノ例ニ非ラス第二百五十四條及ヒ第二百五
 十五條ヲ適施ス以上三箇ノ場合ニ適當スヘキ刑ハ同一ナラサルカ故
 ニ之ヲ區別スルハ必要ナリ但シ此區別ハ卷末ニ之ヲ詳示スヘシ
 第三百十九號 此重罪ノ第一ノ原素ハ公ケノ受託人及ヒ計算人タル
 ノ身分ナリ此身分ナキ者ノ犯シタル竊取ハ背信ノ輕罪ヲ構造スルヲ
 得ルノミ但シ竊盜ノ重罪ヲ構造セサルナリ第二ノ原素ハ竊取ノ所爲

ナリ此第二ノ原素ヲナサシニハ唯金銀ノ不足セシノミヲ以テ足レリ
 トセス已レノ領収シ或ハ預リタル金銀ヲ竊取セシテ即チ不正ナル意
 思ヲ以テ竊取ヲ行ヒシヲ要スルナリ如何ナル場合ニ於テ不正ナル
 意思アリヤ此意思ハ背信ノ場合ニ於ケル如ク竊取者カ其竊取シタル
 金銀ヲ還附スルヲ遲延セシカ又ハ還附シ得可カラサルト之アリト推
 測スルナリ 決千八百五十六年三月二十八日ノ判
 第三百二十號 判決例ニ於テハ左ノ官吏ニ第六十九條ヲ適施ス即

チ該條ニ明文アル間税ノ収税官 共和第九年二月二十二日及ヒ橋梁堤
 防築造ノ檢官 千八百二十五年四月 海軍用鹽漬製造所ノ監察吏 千八百四
 月十七日 中學校ノ會計役 千八百三十五年 市關稅ノ管理人 千八百二十
 一月ノ 貧院ノ金銀領収人 千八百三十七年七月十八日及ヒ 金銀領収
 ニ關スル郵便局ノ官吏 千八百三十四年十一月一號 簿記稅トシテ領収セシ金銀

ヲ竊取セシ裁判所ノ書記 千八百四十六年二月二號 動産ノ賣買ニ依テ生シタ
 ル金銀ヲ竊取セシ裁判所ノ使吏 千八百四十二年十二月十二日 是ナリ

第三百二十一號 豫メ争ヲ審査スル事。○忝金ノ竊取アリタルト又ハ

其不足ニ關シテ争アルトハ豫メ之ヲ審査ス此争ハ歲入ノ計算ヲ檢査
 スヘキ掌管ノ行政官先ツ之ヲ檢査シ其竊取ノ有無又ハ争ノ良否ヲ決
 定スルノ任アリ故ニ司法權ハ該檢査官ノ檢査後ニ非サレハ之ニ關係
 スルコトナシ 千八百五十六年九月二十四日 千八百五十七年四月十七日
 千八百六十三年六月六日 人民ノ私有金ノ竊取ニ付計算人其己レノ預リタルモ
 ノニ非サルコトヲ證スルトハ附記ノ所爲アリシヤ否ヤハ此争ニ關スル
 訴訟ヲ規定スル所ノ民法第千三百四十一條及ヒ第千三百四十七條ノ
 規則ニ從テ判定セサルヲ得ス故ニ原告人ハ附託ノ證書又ハ證據ノ端
 緒タルヘキ書類ニ因テ證擧セサルヲ得ス而シテ若シ其證書ノ不充分ナ

ルキハ裁判所ニ於テ其訴ヲ受理セサル可シ千八百八十二年二月十一日及千八百八十六年五月二日
論第十五日ノ判決○刑法理
第七百九十五號參觀

第三百二十二號 刑罰○第六十九條ハ竊取シタル高ノ三千「フラン」
以上タルキハ其犯人ヲ有期徒刑ニ罰ス第七十條モ又同條ニ記載シ
タル場合ニ於テ同一ノ刑ヲ適施ス即チ曰ク「前條ニ記スル者ノ竊取シ
タル金銀又ハ手形ノ高既ニ受取リテ預リタル金高或ハ手形ニ付テハ
其受取高又ハ預リ高ノ三分ノ一ニ當リ或ハ之ニ過キタルキ又保證ヲ
立ツヘキ職務ニ因リ受取リ或ハ預リタル金銀或ハ手形ニ付キテハ其
保證高ニ當リ或ハ之ニ過キタルキ又保證高ナク期限ヲ逐テ次第ニ受
取ル高ニ付テハ一月間ニ受取リタル總高ノ三分ノ一ニ當リ或ハ之ニ
過キタルキハ其贓物ト爲シタル金高又ハ手形ノ高ノ如何ナルヲ問ハ
ズ其犯人ヲ有期ノ徒刑ニ罰ス」ト之ニ反シテ竊取シタル金高三千「フラン」
以下タルカ又ハ第七十條ニ記載シタルモノヨリ少々ナルキハ其
所爲ヲ輕罪トシ第七十一條ハ其犯人ニ二年乃至五年ノ禁錮ヲ適施
シ且其官吏タルノ權ヲ停止ス第七十二條ハ以上總テノ場合ニ於テ
還給及ヒ賠償ノ四分ノ一ヨリ多カラス十二分ノ一ヨリ少カラサル罰
金ヲ宣告ス可キヲ記載ス故ニ以上ノ數條ヨリ左ノ規則ヲ生ス、第一
同一ノ所爲ト雖モ損害ノ高ノ多少ニ從テ重罪又ハ輕罪タルヲ、第二損
害ノ高ノ三千「フラン」ニ超過セシ場合ハ即チ刑ヲ加重スヘキノ事情タ
ルヲ千八百六十年判決是ナリ之ニ由テ之ヲ觀レハ官吏ノ身分ト金銀受
託ノ所爲トハ重輕罪ヲ構造スルノ二原素ニシテ竊取シタル金高ノ多
額ナルヲハ刑ヲ加重スヘキノ原因タルニ過キサレナリ
第三百二十三號 第百七十三條ノ適施○第七十三條ハ第六十九
條ノ竊取ニ類似シタル一種ノ竊取ヲ記載シ且殆ント該條ヲ補充セリ

但シ此二條ノ間ニハ許多ノ點ニ於テ差違アリ即チ第百六十九條ハ格段ニ計算人等ニノミ適當ス然ルニ第百七十三條ハ一般ニ官吏及ヒ公ケノ官吏ニ適當ス又第百六十九條ハ金銀ノ竊取ノミヲ論ス但シ其文中ニ證書書類及ヒ動産ノ竊取等ノ語アリト雖モ是レ皆其價ニ因リテ刑ノ階級ヲ定メンカ爲メニ價額ノ瞭然タルモノノミヲ指スニ止マル之ニ反シテ第百七十三條ハ證書及ヒ書類ノ要用ノ如何ヲ問ハス唯定マリタル價ナキ其竊取ノミヲ論ス又第百六十九條ハ證書及ヒ書類ノ竊取ノミヲ罰ス之ニ反シテ第百七十三條ハ其他ニ其破却及ヒ藏匿ヲモ罰ス此場合ニ於テハ證人ヲ以テ附託アルヲ證スルヲ允許ス又第百六十九條ハ収税官即チ計算人及ヒ其下吏ニノミ適當ス然ルニ第百七十三條ハ官吏及ヒ公ケノ官吏ニハ勿論其下吏及ヒ公ケノ受託人ノ下吏ニモ亦適當ス

第三百二十四號 又第百七十三條ニ付許多ノ格段ナル規則ヲ生ス、第一假令該條ニ記載スル所ノ證書及ヒ書類カ金銀ヲ以テ價ヲ定ム可カラサルモ之ニ規則又ハ義務等ノ記載アリテ其竊取ノ他人ニ損害ヲ醸ス可キモノタルヲ要ス、第二犯人ノ不正ノ意思ヲ以テ竊取ヲ施セシヤ否ヤヲ調査スルヲ要ス何トナレハ全ク遺失ノ怠惰ニ原因スルヲアレハナリ而シテ第百七十三條ニ於テハ第百六十九條ノ場合ニ於ケル如ク唯還給ヲ拒ミ或ハ之ヲ爲ス能ハサルヲノミヲ以テ有罪トスルヲ得ス、第三官吏及ヒ公ケノ官吏ノ職務上且官吏タルノ身分ヲ以テ證書又ハ書類ノ附託ヲ受ケシヲ要ス以上重罪ノ條件ノ調査全ク終リタルニハ竊取者ノ官吏公ケノ官吏又其下吏タルヲ論セス之ニ有期徒刑ヲ適施シ而シテ該條ニ於テハ第百七十一條ノ如キ減輕ヲ施スヲ許サ、ルカ故ニ竊取破却或ハ藏匿シタル證書及ヒ書類ノ要用ノ如何ニ拘ハラ

ス常ニ同刑ヲ適施ス

第三百二十四條

○第二節 官吏収斂ノ罪

第三百二十五號 収斂ノ罪トハ第七十四條ニ從ヘハ官吏ノ租税、官金、歳入或ハ謝金、給料トシテ受取ル可カラサルカ又ハ當然受取ル可キ高ニ過キタルヲ知リテ之ヲ受取ルヲ命シ或ハ強テ之ヲ納メシメ或ハ之ヲ受取リシノ罪ヲ云フ此収斂ノ罪ヲ構造スヘキ必要ナル條件三アリ官權ノ妄用、不合法ノ徵收、官吏ノ其不合法ナルヲ知リシト是ナリ

第三百二十六號 第一ノ原素ハ擅權又ハ官權ノ妄用ニシテ官ノ權ヲ行フ者ニ非サレハ犯ス能ハサルモノナリ故ニ破毀院ニ於テハ邑廳ノ許可ヲ得テ創立シタル質貸所ノ主管人、邑ノ日用物賣買所ニ於テ物品ノ税ヲ收ムル者、不合法ナル徵收ヲ行フタル憲兵、過分ノ徵收ヲ施シタル鐵道會社ノ役員ハ収斂ノ罪ヲ受クルコトナキ旨ヲ決定セリ何トナレ

ハ受取ル可カラサルコトヲ知リテ受取リ或ハ要求セシ所ノ官吏ニ非サレハナリ
千八百七十二年六月四日千八百七十七年一月二日千八百三十七年四月七日千八百四十五年十月九日千八百五十七年六月十七日及ヒ同年十一月六日ノ判決

第三百二十七號 官吏及ヒ公ケノ官吏○第七十四條ノ適施ヲ受ク

可キ官吏ハ之ヲ分チテ官吏及ヒ公ケノ官吏ノ二種トス此區別タル既ニ第三百十七號ニ示セシ所ナリ判決例ニ於テハ収斂ニ關シテ左ノ者ヲ官吏ノ身分アリトス即チ邑長千八百三十七年六月六日 司法警察官千八百二十年九月三日及ヒ千八百三十七年十一月一日ノ判決 囚獄ノ監守人及ヒ門監千八百五十二年六月二日及ヒ千八百八十五年四月九日ノ判決 直税ニ船舶ノ馬力税ヲ收ムル請負人千八百四十五年十月九日ノ判決 直税ニ關シテ使吏ヨリ出テタル徵收ノ命令狀ヲ有スル者千八百三十七年八月十四日ノ判決 中ノ兵卒ニ不合法ナル金銀ヲ出タサシメタル曹長千八百四十七年八月十四日ノ判決

官吏収斂ノ罪

三百六十一

過度ナル價ヲ要求セシ煙草ノ看守人月千八百七十三年九月是ナリ

第三百二十八號 第七十四條ノ第一項ニ記載シタル公ケノ官吏トハ概シテ目錄ニ記載アル税額ニ超ヘタル高ヲ受取リシ裁判所屬ノ官吏ヲモ包括スルナリ初メ千八百七十一年六月十八日ノ布令第六十一條及ヒ第五百十一條及ヒ千八百七十一年六月十八日ノ布令第六十一條及ヒ第八十六條ハ職務上一般ノ收入ニ關スル官吏ト唯出費ノ事ヲ記載シタル書類ヲ出タスコノミヲ職務トスル公ケノ官吏トヲ區別セシカ千八百六十三年五月十三日ノ法ハ此區別ヲ採用セスシテ第七十四條ニ左ノ一項ヲ附加セリ曰ク「該條ノ規則ハ公ケノ官吏及ヒ裁判所書記ノ法律上收入ニ關シテ該條ヲ犯セシキハ之ニ適當ス」ト故ニ裁判所屬ノ公ケノ官吏ナル公證人、代書人、書記又ハ使吏カ法律上ノ給料ニ超ヘタル金高ヲ要求セシキハ此規則ヲ規定スル所ノ法律又ハ規則ニ從テ其取締規則ノ違犯トスルニ過キスト雖モ若シ之レニ反シテ法律上官庫ノ爲メ(例ヘハ裁判所書記ノ政府ノ爲メニ税ヲ領収ス可キキノ如ク)又ハ人民ノ爲メ(例ヘハ使吏ノ競賣ノ際ニ於テ價ヲ收受ス可キキノ如ク)收入ヲ管掌スルノ任アルキニ於テ當然得ヘキ金高ニ超タル徵収ヲナセシキハ収斂ヲ以テ之ヲ論ス

第三百二十九號 第七十四條ハ官吏及ヒ公ケノ官吏ノ次ニ一般又ハ公ケノ租税、官金、收入ノ受取人(前ニ收税官ト記セシモノ)ヲ列セリ故ニ此規則ニ據レハ受取人ハ總テ官吏又ハ公ケノ官吏ニ非サルキト雖モ収斂ノ罪人タルヲ得ヘシノ義ヲ生スト雖モ然レモ第七十四條ノ意ハ全ク然ラス何トナレハ該條ノ首メニ受取人ヲ列記スト雖モ其下ニ上ニ指示シタル官吏又ハ公ケノ官吏ニ何々ノ刑ヲ適施スト云テ別段受取人ヲ掲ケサレハ此受取人ハ即チ官吏又ハ公ケノ官吏ノ身分ヲ有

スル収税官ニノミ限ル可ケレハナリ

第三百三十號 第七十四條ヲ適施スヘキ第二種ノ官吏ハ官吏又ハ公ケノ官吏ノ下吏又ハ代人ニシテ自ラ官吏ノ身分ヲ有セス且已レノ名義ニ於テ公務ヲ行ハサル者ヲ云フ収税官ノ下吏公證人又ハ代書人ノ見習官省ノ内務ヲ取扱フ小吏ノ如キ是ナリ但シ官省ノ外務ニ關スル小吏(例ヘハ囚獄ノ門監ノ如キ)ハ其下等ニ位スルモ公ケノ官吏ナリ何トナレハ他ノ官吏ノ下吏ニ非ス且上級官吏ノ監察ニ因テ公ケノ威權ノ一部ヲ行フモノナレハナリ

第三百三十一號 不[○]適[○]法[○]ノ[○]徵[○]収[○]○[○]収[○]斂[○]罪[○]ノ[○]第[○]二[○]ノ[○]條[○]件[○]ハ[○]不[○]適[○]法[○]ノ[○]徵[○]収[○]ナリ不[○]適[○]法[○]ノ[○]徵[○]収[○]トハ法律又ハ規則ニ依テ徵収ヲ許サ、リシモノ又法律ニ依テ許スモノト雖モ皆納ニ依テ已ニ消滅シタルモノヲ要求セシキ又ハ收受スヘキ租税或ハ給料ノ高ニ超ヘシキヲ云ナリ又國稅

ノ徵収ニ關シテハ國會ニ於テ未タ公然定メサルモノヲ徵収セシキハ均シク不[○]適[○]法[○]ナリ諸般ノ會計法中ニ採用シタル千八百七十四年八月五日ノ法ノ第二十八條ニ曰ク「如何ナル名義如何ナル記名ニ於ケルモ現在ノ法律ニ依テ許サ、ル直稅又ハ間稅ノ徵収ハ之ヲ禁ス之ヲ命シタル官其徵收方法又ハ目錄ヲ製シタル官吏及ヒ徵収ヲ施セシ者ハ収斂者トシテ之ヲ訴フヘシ云々」ト又給料代價或ハ恩謝ニ關シテ其收受ヲ正當ナラシメンニハ均シク法律又ハ行政規則ニ因テ其許可アルヲヲ要スルナリ

第三百三十二號 不[○]適[○]法[○]ナ[○]ル[○]ヲ[○]知[○]リ[○]シ[○]テ[○]○[○]収[○]斂[○]罪[○]ノ[○]第[○]三[○]ノ[○]原[○]素[○]ハ[○]官[○]吏[○]カ[○]不[○]適[○]法[○]ナ[○]ル[○]徵[○]収[○]タルヲ知リシトナリ此場合ニ於テハ官吏カ受取ル可カラサルモノタルヲ知リテ強テ之ヲ納メシメ或ハ之ヲ受取リシカヲ調査スルヲ要ス故ニ假令不[○]適[○]法[○]ナ[○]ル[○]モ[○]其[○]法[○]律[○]ノ[○]意[○]ヲ[○]錯[○]誤[○]セ[○]シ[○]ニ

出テシキ又ハ許可アルモノト信シテ徴収ヲ施セシキ即チ善意ニテ失
 錯セシキハ収斂ノ罪ヲ構造セサルナリ共和第十三年五月然レ法律
 二十八日ノ判決
 ニ照シテ不適法ノ徴収アリシキハ假令私益ノ爲メニ之ヲ施サ、リシ
 キト雖モ収斂ノ罪アリトス何トナレハ法律ハ其私益ニ出テシト國益
 ニ出テシトチ區別セサレハナリ若シ徴収ヲ施セシ下吏又ハ代人ノ長
 官ノ命タルヲ述フルキハ先ツ該事件ニ關シテ長官トノ間ニ關係ア
 ルヤ否ヤ又長官ノ從犯者タルヤ否ヤヲ調査シ其正ニ長官ノ命ニ出テ
 且本人ノ私益ノ爲メニセシキニ非サレハ之ヲ無罪トセサルナリ刑論法
 第九號參觀

第九號參觀

第三百三十三號 刑罰○第七十四條ニ記載シタル刑ハ罪人ノ身分
 ト收受シタル高ノ多少ニ從テ差等アリ故ニ不適法ノ徴収ノ三百「フ
 ラ」以上タルヤ又ハ其以下タルヤチ區別セサルヲ得ス其三百「フ
 ラ」以

上ニシテ官吏又ハ公ケノ官吏ノ之ヲ施セシキハ此所爲チ重罪トシ懲
 役ノ刑ニ處ス若シ下吏又ハ代人タルキハ其所爲ハ輕罪ニシテ二年乃
 至五年ノ禁錮ニ處ス又三百「フ」以下ニシテ罪人ノ官吏又ハ公ケノ
 官吏タルキハ之ヲ二年乃至五年ノ禁錮ニ處シ下吏又ハ代人タルキハ
 之ヲ一年乃至四年ノ禁錮ニ處ス其他此罪人ニ對シテハ諸般ノ場合ニ
 於テ還給及ヒ賠償ノ高ノ四分ノ一ヨリ多カラス十二分ノ一ヨリ少カ
 ラサル罰金ヲ宣告ス此罰金宣告ノ爲メニ必スシモ民事原告人アル
 チ要セス千八百四十二年九月九日ノ判決ト雖モ還給及ヒ賠償アリシ
 即チ徴収ヲ施
 セシ「ト」其收受シタル高ノ明知トチ要ス蓋シ罰金ノ高ヲ定ムルノ原
 因トナル可キ收受シタルノ高ハ千八百二十四年八月二十六日及ヒ罰
 金ノ高ノ過不及ヲ監査センカ爲メニ必要ナレハナリ千八百四十二年
 四月七日ノ判決

第七百七十五條
及第七百七十
六條

○第三節

官吏其職掌上行ヲ可ラサル事務及ヒ商業ニ

官吏其職掌上行ヲ可ラサル事務及ヒ商業ニ干渉スル罪

干渉スル罪

第三百三十四號 官吏カ其職掌ニ於テ已レノ管理或ハ監察スル所ノ事務ニ干渉スルヲ禁スル所ノ第七十五條ハ官吏カ法律ノ禁ヲ犯セシノ所爲ヲ罰スルニ非スシテ已レノ監察スヘキ企業ニ干渉シタル背信ノ所爲ト擅權ヲ以テ施シタル慾心トヲ罰スルニ在リ故ニ此罪ヲ構造スル所ノ原素ハ第一官吏ノ不正ノ意思ナリ故ニ善意ヲ以テ已レノ職掌上管理監察スヘキ事業ニ加ハリシヲ以テ足レリトセス必ス私益ノ爲メニ擅權ヲ施シテ要スルナリ第二政府ノ官吏又ハ公ケノ官更タルノ身分ナリ何トナレハ此場合ニ於テ官吏ノ罪ハ其職掌ヨリ出ツルモノナレハナリ第三既ニ施行シタル未タ施行セサルトテ論セス事務又ハ事業ニ付利益アル契約ヲナセシナリ千八百四十八年四月十五日ノ判決法律ニ記載スルモノハ官吏ニ禁止スル所ノ所爲ノミナルカ故ニ官吏

カ仲介人ヲ川井シヤ否ヤハ事實ヲ以テ之ヲ調査シ民法第九百十一條ニ從テ調査セサルナリ(蓋シ該條ハ茲ニ適當セサレハナリ)第七十五條ノ第一項ハ事業ニ付利益ト述ヘシカ同條ノ末尾ノ項ハ辨濟ヲ命シ又ハ計算ノ高キ定ム可キハ官吏カ其事務ニ付或ル利益ノ語ヲ附記セリ故ニ官吏ニ禁スル所ノモノハ事業ニ付テノ利益ニノミ限ラサルナリ第四監察又ハ管理スヘキ事務ニ付利益ヲ得シナリ官吏ノ所爲ニ背反ノ性質ヲ來タスモノハ即チ此場合ナリ第五損害ナリ罰金ハ其還給及ヒ賠償スヘキ高ノ比例ニ由ル

第三百三十五號 第七十五條ハ左ノ者ニ適施セリ即チ已レノ管理セシ色ノ財産ノ競賣ニ付想像ノ名ヲ以テ利益ヲ得シ邑長千八百四十八年四月十五日ノ判決已レノ評價セシ物品ノ糶賣人トナリ或ハ仲介人ヲ以テ已レニ附託セシメタル物品ヲ其價ヨリ低下ニ評價セシモノ

官吏其職掌上行ヲ可ラサル事務及ヒ商業ニ干渉スル罪

トビエテ「」ノ鑑定人千八百三十二年裁判所ノ言渡ニ依テ己レノ施ス所ノ不動産ノ競賣ニ付仲介人ヲ以テ利益ヲ得シ公證人千八百三十八年判決ノ但シ此判決ハ適施ナカリシ邑道事業ノ競買人トナリタル邑ノ収税人千八百四十八年四債主權ノ讓與ノ證書ヲ受取ルニ當リ偽ノ受讓者ヲ出シテ利益ヲ得シ公證人千八百十七年四判決是ナリ此最終ノ判決ヲ千八百十六年十二月二十八日ノ判決ニ照スルハ左ノ差等ヲ生ス即チ公證人裁判所ノ委任ヲ受ケタル事務ノ執行ニ付利益ヲ得シキハ該所爲ニ第百七十五條ヲ適施シ之ニ反シテ唯結約人ノ契約ヲ記スルキハ官吏タルノ威權ナキカ故ニ利益ヲ得ルモ爲メニ輕罪ヲ構造セサル是ナリ

第三百三十六號 第百七十六條ハ兵隊ノ指揮官縣令及ヒ郡長ニ穀物及ヒ飲料ノ商業ヲ禁スルヲ目的トス該條ハ此官吏ニ一切ノ商業ヲ禁スルニ非ス唯粉トナス可キ物ト葡萄酒及ヒ其他ノ飲料トノ商業ヲ禁スルノミ複言スレハ該條ニ於テ殊更ニ禁止セント欲スルモノハ擅權ノ罪ヲ醸スヘキ融通ナリ故ニ官吏ニ該條ヲ適施センニハ禁止アル所爲ヲ施セシ罪ノ上ニ列記セシ官吏中ノ一人ニ歸スルト其管内ニ於テ商業ヲ行ヒシト上ニ示セシ日用物ヲ賣買セシト職務ヲ擅施セシトトヲ要スルナリ

從第百七十七條至第百八十三條

○第四節 官吏收賄ノ罪

第三百三十七號 義解○收賄トハ概シテ官吏カ其職務ヲ施シ或ハ施サ、ランカ爲メニ其威權ヲ以テ不正ナル利益ヲ得シノ罪ヲ云フナリ此罪ハ收斂ノ罪トハ差異アリ收斂ノ犯人ハ法律又ハ規則ニ因テ收受スルノ權アリト雖モ其收受ス可カラサル人ヨリ收受セシ者ナリ收斂部ナリ之ニ反シテ收賄ノ犯人ハ贈物トシテ人ノ自由ニ贈與シ或ハ贈與

官吏收賄ノ罪

セサルヲ得可キモノヲ收受セシ者ナリ千八百三十七年九月十六日及ヒ
決収賄ノ罪ハ二箇ノ別々ナル所爲ヲ包含ス賄賂ヲ受ケシ官吏ノ所爲、
贈賄人ノ所爲、是ナリ先ツ茲ニハ法律ニ因テ正犯者トスル所ノ官吏ノ
所爲ヲ舉ケン

第三百三十八號 収賄ノ重罪ノ原素○第百七十七條ハ明瞭ニ官吏ノ
収賄ノ重罪ヲ構造スル所ノ三原素ヲ記載ス、第一行政、司法ノ官吏官署
ノ屬吏又ハ仲裁人或ハ評價人ノ此罪ヲ犯セシ、第二以上ノ者供給或
ハ約束ヲ諾シ又ハ贈物ヲ收受セシ、第三職務上ノ所爲ヲ施シ或ハ己
レノ施行スヘキ所爲ノ施行ヲ止メシト是ナリ

第三百三十九號 判決例ニ於テハ第百七十七條ニ列記シタル官吏中
ニ左ノ官吏ヲ包含ス即チ縣廳及ヒ郡役所ノ官吏千八百三十六年九月
七十三日一月アルセリー民政局長タル屬吏千八百五十二年九月邑廳ノ

書記千八百八十一年七月九日及ヒ千八百八十八年九月十六日
年九月十六日及ヒ千八百八十九年五月五日ノ判決格段ナル監守人千八百二十六年八月修路人夫
ノ伍長千八百五十五年五月十日ノ判決貨幣ノ試験官及ヒ其副官千八百九十三年十一月
兵ノ寸尺ヲ秤ルノ任アル軍曹千八百三十七年十一月十日ノ判決兵卒ニ包藥ヲ製造セ
シムルノ任ヲ受ケタル軍曹千八百五十五年十一月十日ノ判決海軍用ノ木材ヲ秤量ス
ルノ事務ヲ請負タル者千八百五十六年八月八日ノ判決使吏千八百八十三年七月是ナリ破
毀院ニ於テハ徵兵検査ノ内外科醫官ニモ亦第百七十七條ヲ適施セシ
カ其後千八百三十二年三月二十一日ノ法ハ其第四十五條ニ於テ格段
ニ徵兵適齡者ノ爲メニ有益ナル意見ヲ執ラシカ爲メニ贈物ヲ收受ス
ルカ又ハ約束ヲ爲シタル醫官ハ二月乃至二年ノ禁錮ニ處スヘキノ規
則ヲ設置シタルカ故ニ以來ハ此場合ニ第百七十七條ヲ適施セサルナ
リ千八百五十一年六月十四日及ヒ千

官吏収賄ノ罪

第三百四十號 収賄罪ノ第二ノ原素ナル贈物ノ領受又ハ約束ノ承諾ヲ構造セシムハ先ツ其所爲アルコトヲ要シ(官吏ヨリノ要求ニ依テ讓與セシムハ収賄ノ所爲ニアラス)次ニ官吏カ直接又ハ屬吏或ハ親族ノ仲介ニ依テ間接ニ贈物ノ領受又ハ約束ノ承諾ヲ爲セシムコトヲ要ス此第二ノ場合ニ於テハ殊ニ明瞭ナル領受承諾アリシコトヲ要スルナリ

第三百四十一號 重罪ノ第三ノ原素ハ贈物又ハ約束ノ目的タル所爲ニ係ハル故ニ法律ハ此第三ノ原素ヲ構造セシムハ官吏カ職務上ノ所爲ヲ施シ又ハ已レノ施スヘキ所爲ハ所行ヲ止ムカ爲メニ贈物ヲ受ケ又ハ約束ヲ諾セシムコトヲ要ス職務上ノ所爲トハ法律上官吏ノ權任内ニ在リテ職務上施行ス可キモノヲ云フ法律ノ不正ノ利益ニ對シテ保庇セント欲スルモノハ即チ獨リ此所爲ナリ第百七十七條ハ左ノ如キ官吏カ職掌上ノ義務ヲ犯セシム所爲ニ非サレハ適當セス即チ森林ノ監守

人其監察スル區域内ニ於ケル伐木ノ犯罪ノ調査ヲ施サ、ルカ爲メ數東ノ木材ヲ收受セシノ所爲(千八百一十二年十一月十六日判決及徵兵檢査員ノ募兵ノ爲メニ招集シタル者ノ兵役ヲ免除セン爲メニ贈物ヲ收受セシノ所爲(千八百一十九年十二月二日判決)往來免狀ヲ交付スルノ任アル邑ノ書記ノ該免狀ヲ交付スルノ取計ヲ爲スニ付キ謝金ヲ收受セシノ所爲(千八百一十七年七月十七日判決)司法警察吏、金銀ヲ得テ輕罪又ハ違警罪ノ顛末書ヲ記セザリシ所爲(千八百一十七年七月十七日判決)是ナリ然レモ若シ官吏ノ施セシ所爲ノ其義務又ハ職掌上ノ所爲ニ非ルモ詐僞取財ノ罪ヲ構造スト雖モ収賄ノ重罪ヲ構造セサルナリ例ヘハ森林ノ監守人其管外ニ於テ獵則ノ犯罪人ヲ逮捕シ其顛末書ヲ記スヘキヲ述ヘ犯罪人ヲ威迫シテ金銀ヲ得シモハ詐僞取財ノ罪アリト雖モ収賄ノ罪アラサルナリ何トナレハ森林ノ監守人ハ如此キ場合ニ於テ顛末書ヲ記スルノ權ナク且其所爲タル